

EDi Cube


MXシリーズ
ユーザーズマニュアル


ご使用前に






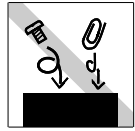
ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。
その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

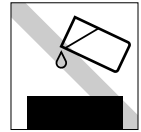
 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

 警告	
煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、修理センターにご相談ください。 お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。	
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。 けがや感電・火災の原因となります。	
交流100Vの電源以外では使用しないでください。 指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。	
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。	
通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。 感電・火災の原因となります。	

⚠ 警告

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

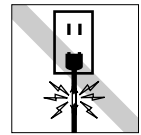
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、修理センターにご相談ください。



破損した電源コードは使用しないでください。感電・火災の原因となります。
電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・電源コードを加工しない。
- ・無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。
- ・電源コードの上に重いものを載せない。
- ・熱器具の近くに配線しない。

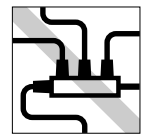
電源コードが破損したら、修理センターにご相談ください。



電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。

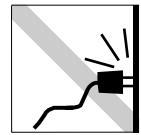
家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。

取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。

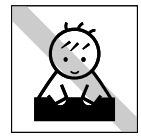
感電・火傷の原因となります。



小さなお子様手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。

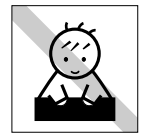
飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。



小さなお子様手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。

口に入れたりすると窒息する危険があります。



マウスボールは、絶対に投げないでください。

マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。



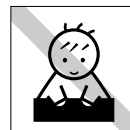
雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。

感電の原因となります。

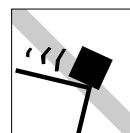


⚠ 注意

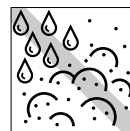
小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

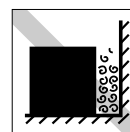


湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

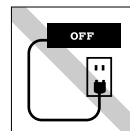


本製品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
設置する際は、次の点を守ってください。

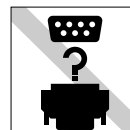
- ・押し入れや本箱など風通しの悪いところには設置しない。
- ・じゅうたんや布団の上には設置しない。
- ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。



連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。



FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

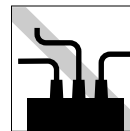
- ・構内交換機（PBX）
- ・2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ・ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック



拡張ボードやDIMMの交換、増設、内蔵リチウム電池の交換およびCMOS RAMの初期化は、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



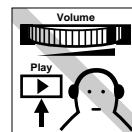
本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



⚠ 注意

ヘッドフォンやスピーカを使用する場合は、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。

ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。



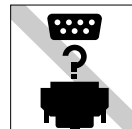
長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。

肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。



ゲームポート/MIDIコネクタの形状は、日本電気（株）製PC-9801シリーズ用ディスプレイコネクタと同じ形です。

誤ってディスプレイをゲームポート/MIDIコネクタに接続しないでください。接続すると、火災の危険があります。





使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法や電源の入れ方、切り方、セットアップについて説明します。

コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやフロッピーディスクドライブなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

システムの拡張

コンピュータにDIMMや拡張ボードを装着して、機能を拡張する方法を説明します。

BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明しています。

付録

お手入れ方法、リチウム電池の交換や仕様などについて説明します。

目次

マニュアル中の表記について (9)

製品保護上の注意 (11)

使用・保管時の注意	(11)
USB FDD(オプション).....	(12)
記録メディア	(13)
マウス	(14)

使い始めるまでの準備

ご使用の前に 2

コンピュータを使い始めるまでの手順 ..	2
ご使用前の確認事項	3
システムの特長	4
添付されているソフトウェア	5

各部の名称と働き 7

本体前面	7
本体背面	8
拡張スロット	9
スピーカ	9

コンピュータの設置 10

電源の入れ方とWindowsのセットアップ 21

Windowsが使用できるようになるまでの作業 ..	21
電源を入れる前に	22
電源の入れ方とWindows XPの起動	23
Windows XPのセットアップ	24
セットアップ終了後の作業	26

Windows使用時の確認事項 27

2回目以降に電源を入れる	27
音量の調節	27
省電力機能	28
デバイスドライバを インストールするときは	28

購入時のHDD領域について	28
B's CLiPのインストールについて ...	29
ステップバイステップ インタラクティブの実行について ..	29

電源の切り方 30

Windowsの終了と電源の切り方	30
リセット	31

コンピュータの基本操作

キーボードを使う 34

キーの種類と役割	34
文字を入力するには	35
日本語を入力するには	35
キーロック表示ランプ	36
そのほかのキー	36
ホットキーを使用する	37
ホットキーの設定	38

マウスを使う 39

マウスの操作	39
マウスの設定変更	39

USB FDDを使う 40

FDDの接続	40
FDDの取り外し	41
FDのセットと取り出し	42
FDのフォーマット	44
データのバックアップ	45
ライトプロテクト(書き込み禁止) ..	45

HDD(ハードディスクドライブ)を使う 46

データのバックアップ	46
購入時のHDD領域の設定について ..	47

DVD+RW/+Rドライブを使う 48

メディアのセットと取り出し	48
---------------------	----

CD-ROMメディアの読み込み	51
DVD-ROMメディアの再生	51
メディアへの書き込み	53
適応フォーマット	56
表示装置を使う	57
解像度や表示色を変更する	60
サウンド機能を使う	62
アンプ内蔵ステレオスピーカ	62
外部オーディオ機器などの接続	63
音声の再生	65
PCカードを使う	66
PCカードのセットと取り出し	67
FAXモデムを使う	70
お使いになる前に	70
インターネットに接続するには	72
ダイヤルするための準備	75
手動でダイヤルアップ接続の設定をする ..	75
回線接続前の設定	78
Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方	80
起動方法	80
終了方法	82
Internet Explorerの使い方	83
Outlook Expressの使い方	84
コンピュータウィルスの検索・駆除	86
コンピュータウィルスとは	86
ウィルスの被害に遭わないために ..	86
インストールする前に	87
Norton AntiVirus2002の インストールとセットアップ	88
Norton AntiVirus2002使用時の注意 ...	90
Norton AntiVirus2002の使い方	91

省電力機能を使う	92
省電力機能の種類	93
省電力機能を実行する前の確認事項 ...	94
実行方法	96
復帰方法	97
そのほかの機能	98
ネットワーク機能を使う	98
USBコネクタを使う	99
IEEE1394コネクタ	100
パラレルコネクタ	100
シリアルコネクタ	100
ビデオ編集をする	101
テレビを見る、録画する	101

システムの拡張

拡張できる装置	104
作業時の注意	105
本体カバーの取り外し・取り付け	106
本体カバーの取り外し・取り付け ..	106
DIMMの増設	108
DIMMの仕様	108
DIMMの取り付け	109
拡張ボードの装着	112
拡張スロットの仕様	112
拡張ボードの交換	113

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に	118
----------------------------	------------

BIOS Setupユーティリティの操作 119

BIOS Setupユーティリティの起動	119
BIOS Setupユーティリティの操作	120
設定値をもとに戻すには	122
BIOS Setupユーティリティの終了	123

BIOS Setupユーティリティの設定項目 124

Mainメニュー画面	124
Passwordの設定	126
Advancedメニュー画面	128
Powerメニュー画面	129
Bootメニュー画面	130
Exitメニュー画面	131
BIOSの設定値	131

ソフトウェアの再インストール

再インストールする前に必ずお読みください 134

再インストールが必要な場合	134
重要事項	134

ソフトウェアの再インストールを行う 135

必要なメディア	135
インストールの順番	136
インストール作業における確認事項	137
Windowsのインストール	138
デバイスドライバのインストール	141
TVチューナボードドライバのインストール	143
Adobe Acrobat Readerのインストール	143
Norton AntiVirus2002のインストール	143
そのほかの作業	144

こんなときは

困ったときに 148

コンピュータ本体の不具合	148
省電力機能に関する不具合	151

キーボードの不具合	152
マウスの不具合	153
表示装置の不具合	154
USB FDD(オプション)の不具合	156
HDDの不具合	157
DVD+RW/+Rドライブの不具合	158
アプリケーションソフトの不具合	161
メモリの不具合	162
PCカードの不具合	162
インストール時の不具合	163
拡張ボード、周辺機器の増設に 関する不具合	164
FAXモデムの不具合	165
プリンタの不具合	167

警告メッセージが表示されたら 168

付録

お手入れ 170

本機のお手入れ	170
マウスのお手入れ	170

リチウム電池の交換 172

CMOS RAMの初期化 175

ATコマンドの使用 178

機能仕様一覧 179

用語集 180

索引 188

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



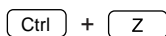
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



1 2



制限事項です。

機能または操作上の制限事項を記載しています。

参考事項です。


覚えておくと便利なことを記載しています。



説明文が次ページに続くことを示します。

参照ページを示します。

操作手順です。

ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

 はEnterキーを表します。また、 は^Nのことで、このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。

この例では、 を押したまま  を押します。

名称の表記

本書では、コンピュータで使用する製品の名称を次のように略して表記します。

HDD

ハードディスクドライブ

FD

フロッピーディスク

FDD

フロッピーディスクドライブ

オペレーティングシステムに関する記述

本書ではオペレーティングシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows XP

Microsoft® Windows® XP Professional

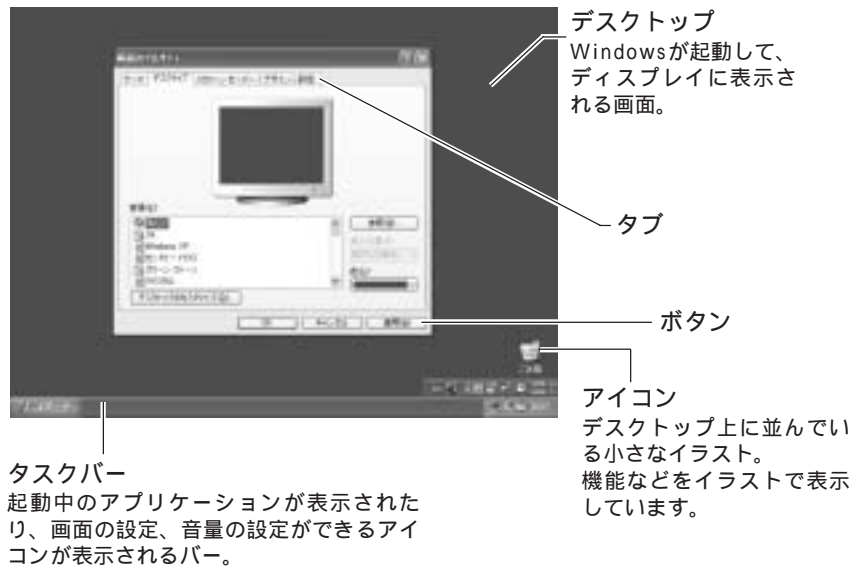
Microsoft® Windows® XP Home Edition

MS-DOS

Microsoft® MS-DOS® Operating system

Windows XPの画面表示に関する記載方法

本書では、Windows XP画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタンは [] で囲んで記載します。

例 [スタート] : [スタート] [OK] : [OK]

Windows XPの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート]-「すべてのプログラム」-「Internet Explorer」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート] をクリックします。

② 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

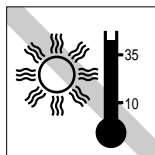
③ 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



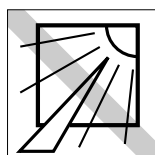
製品保護上の注意

使用・保管時の注意

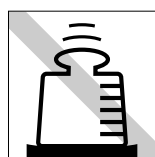
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。



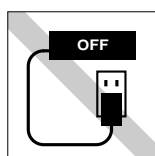
温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10 ~ 35 です。



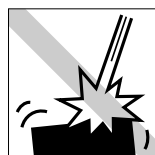
直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



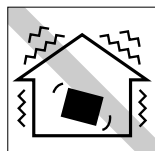
本製品の上には重い物を載せないでください。重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



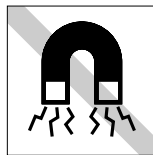
電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



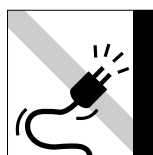
移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。内蔵の周辺機器（HDD、DVD+RW/+Rドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



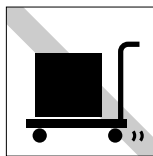
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



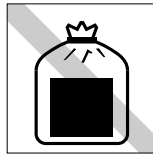
電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）にコンピュータを置かないでください。電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



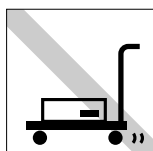
本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



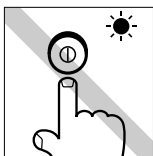
遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



コンピュータは一般ゴミとして廃棄しないでください。廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。



輸送や保管をするときは、付属物（FD、CD-ROMなど）をセットしたままにしないでください。付属物は取り出し、配線ケーブルはすべて取り外してください。



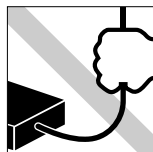
アクセラランプが点灯中は、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。

USB FDD(オプション)

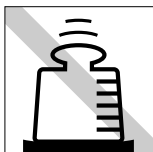
オプションのUSB FDDを使用する時は、次の注意事項を必ず守って、正しく取り扱ってください。



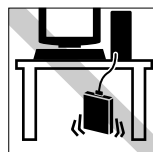
落としたり、衝撃を与えないでください。故障、誤動作の原因になります。



着脱はプラグ部分を持って行ってください。ケーブルを持ってコネクタの着脱を行わないでください。ケーブルの断線や接触不良の原因になります。



上に物を置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



FDD本体をぶらさげた状態で使用しないでください。ケーブルの断線や接触不良の原因になります。



表面を上にして水平に置いて使用してください。裏返しや傾けて使うと、読み書きエラー発生の原因になります。

記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。記録メディアの種類は、次のとおりです。

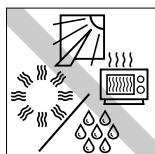
FD

CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM、DVD+RW、DVD+Rなど

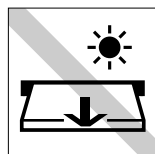
FD

CD

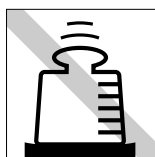
記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



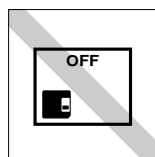
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



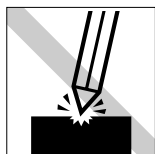
アクセスランプが点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。



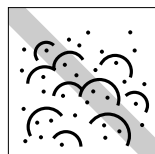
上に物を載せないでください。



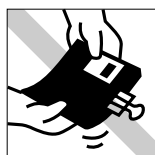
使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。専用のケースに入れて保管してください。



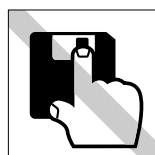
キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。

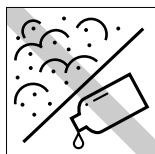


クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

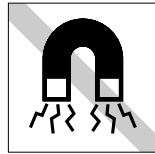


アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。

FD



磁性面にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。FD

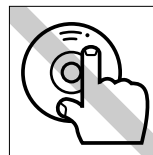


テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

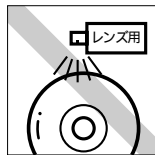
FD



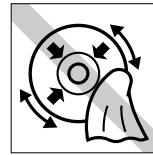
何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。 **FD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。 **CD**



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。 **CD**



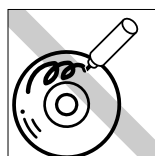
レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMなどのメディアは、内側から外側に向かって拭いてください。 **CD**



コンボドライブ、DVD+RW/+Rドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。 **CD**



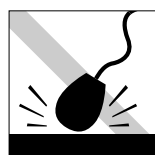
CD-ROMなどのメディアにシールを貼らないでください。 **CD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。 **CD**

マウス

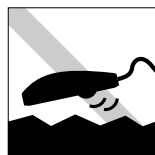
マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



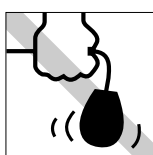
落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



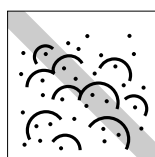
マウスボールを素手で触らないでください。



平らな場所で使用してください。凹凸のある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。



持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。

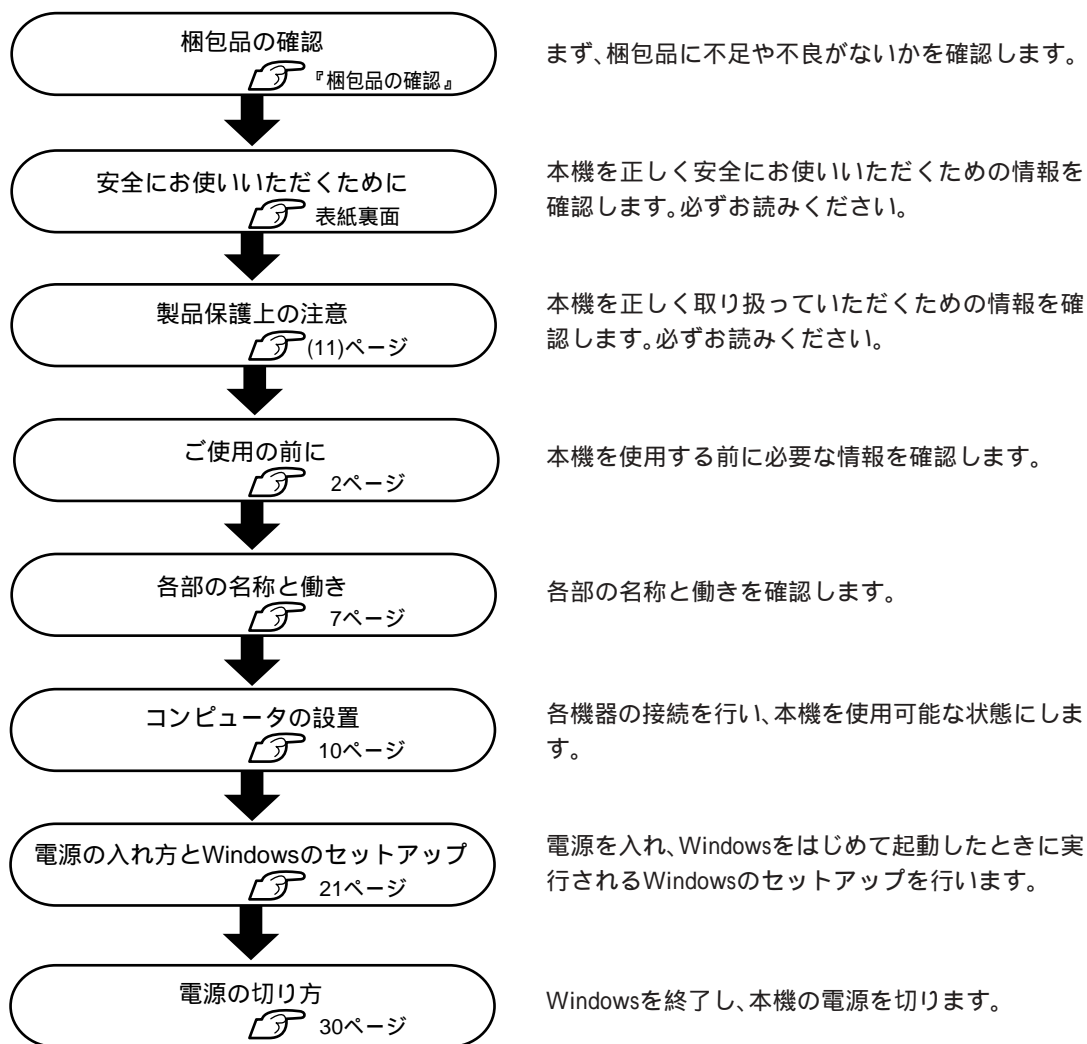
使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法や電源の入れ方、切り方や、Windowsのセットアップについて説明します。

ご使用前に

コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後にはじめて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。



ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認 本機には、製品情報が記載されたラベルが次の場所に貼られています。本機をご使用前に、ラベルが貼られていることを確認してください。また、ラベルは絶対にはがさないでください。

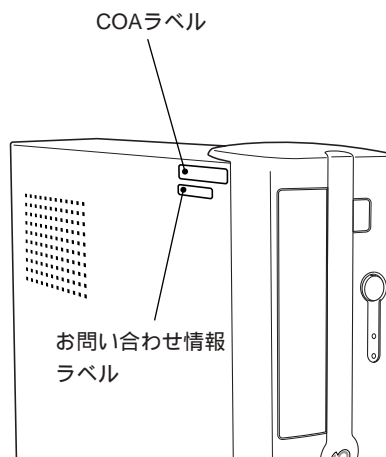
お問い合わせ情報ラベル

お問い合わせ情報ラベルには、型番や製造番号などが記載されています。弊社へのサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

COAラベル

COAラベル(Windows Certificate of Authenticityラベル)は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。コンピュータからCOAラベルを絶対にはがさないようにしてください。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



システムの特長

本機は、メインボード上に高速ビデオ機能やサウンド機能を標準搭載した、コンパクトで高性能なシステム構成になっています。本機のシステムの特長は、次のとおりです。

CPU性能

インテルPentium4プロセッサまたはインテルCeleronプロセッサを搭載しています。

オペレーティングシステム

Windows XPをインストール済みです。

メモリ容量

購入時の構成により標準で256MBのDDR SDRAMを装着しています。最大768MBまで増設が可能です。



拡張スロット

PCI スロットを 2 本装備しています。FAX モデムボードが装着済みです。TV チューナボードが装着済みです。

画面表示機能

ディスプレイ機能をメインボード上に搭載しています。TV-Out機能をメインボード上に搭載しています。

5.25型ドライブ

DVD+RW/+Rドライブを搭載しています。

サウンド機能

サウンド機能をメインボード上に搭載しています。アンプ内蔵ステレオスピーカを標準装備しています。

その他

IEEE1394コネクタ/USB2.0コネクタを装備しています。PCカードスロットを装備しています。LANコネクタを装備しています。

添付されているソフトウェア

本機に添付されているソフトウェアは次のとおりです。

表中記号の見方



: 購入時にHDDにインストールされています。



: 購入時にはインストールされていません。Windows XPのセットアップ後にインストールしてください。

リカバリCDに登録されているソフトウェア

Windows XP
Windowsは最新のものがインストールされています。
📖 『Windows XPファーストステップガイド』



ドライバCDに登録されているソフトウェア

インテル845GV用チップセットドライバ
メインボード上のデバイスを正常に使用できるようにするドライバです。



ディスプレイドライバ
Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。



サウンドドライバ
音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。



キーボードユーティリティ
ホットキーを使用するためのドライバです。



PCカードコントローラドライバ
PCカードスロットを使用するためのドライバです。



マウスドライバ
ホイール付きPS/2マウスを使用するためのデバイスドライバです。



Norton AntiVirus2002
最新マクロウイルスに対応し、ウイルス駆除もできる高機能なウイルス対策プログラムです。



Adobe Acrobat Reader
様々なアプリケーションソフトで作成した書類を、そのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。



専用のCDが添付されているソフトウェア

<p>B's Recorder GOLD DVD+RW/+Rドライブの書き込み機能を使用するためのソフトウェアです。データ、音楽、画像などへの書き込みや、メディアのコピーもできます。 CD名:「B's Recorder GOLD/B's CLiP CD-ROM」</p>	
<p>B's CLiP DVD+RW/+Rドライブの書き込み機能を使用するためのソフトウェアです。FDDのように、ドラッグ&ドロップするだけでファイルやフォルダをメディアへコピーできます。 CD名:「B's Recorder GOLD/B's CLiP CD-ROM」</p>	
<p>Win DVD DVD VIDEO再生のためのソフトウェアです。 CD名:「Win DVD CD-ROM」</p>	
<p>Symphomovie ビデオ編集のためのソフトウェアです。 CD名:「Symphomovie CD-ROM」</p>	
<p>Symphovision コンピュータ上でテレビを見たり、録画するためのソフトウェアです。 CD名:「Symphovision CD-ROM」</p>	



次の機能を使用するためのドライバは、Windows XP標準ドライバ*を使用します。

- ・FAXモデム機能
- ・ネットワーク機能
- ・IEEE1394機能

* Windows XP標準ドライバとは、Windows XPをインストールすると自動的にインストールされるドライバのことです。

各部の名称と働き

本体前面

イジェクトボタン
DVD+RW/+Rドライブのディスクトレイの開閉を行います。

DVD+RW/+Rドライブ
CDメディア、DVDメディアの読み込み、書き込みを行います。

PCカードイジェクトボタン
PCカードを取り出すときに押します。

PCカードスロット
PCカードをセットします。

IEEE1394 コネクタ
IEEE1394 機器を接続します。(4ピン)

電源スイッチ
コンピュータ本体の電源の入/切を行います。

電源ランプ
電源を入ると点灯します。スタンバイ中は点滅します。

HDD アクセ斯拉ンプ
HDD にアクセスしているときに点灯します。

ヘッドフォン出力コネクタ
ヘッドフォンを接続します。


マイク入力コネクタ
マイクを接続します。


USB2.0 コネクタ
USB 機器を接続します。


本体背面





ゲームポート/MIDIコネクタの形状は、日本電気(株)製PC-9801シリーズ用ディスプレイコネクタと同じ形です。
誤ってディスプレイをゲームポート/MIDIコネクタに接続しないでください。接続すると、火災の危険があります。


USB2.0コネクタ 
USB装置を接続します。


シリアルコネクタ  1
TA や外付けモデムなど、RS-232C インタフェースに対応した装置を接続します。


パラレルコネクタ 
プリンタや、スキャナなどを接続します。


VGAコネクタ 
VGA入力端子を装備しているCRTディスプレイやLCDディスプレイなどとアナログ(VGA)ケーブルで接続します。


ライン出力コネクタ 
アンプ内蔵スピーカやヘッドフォンなどを接続します。


ライン入力コネクタ 
カセットデッキなどのオーディオ機器の出力信号線を接続します。

マイク入力コネクタ 
マイクを接続します。


DVI-Dコネクタ 
DVI入力端子を装備しているLCDディスプレイとデジタル(DVI-D)ケーブルで接続します(DVI-Iケーブルは接続できません)。


キーボードコネクタ 
キーボードを接続します。


マウスコネクタ 
マウスを接続します。


LANコネクタ 
ネットワークケーブルを接続します。

セキュリティロックスロット
市販の盗難防止用ケーブル(ワイヤー)を接続します。

ゲームポート/MIDIコネクタ 
ジョイスティックなどを接続します。

拡張スロット
TVチューナボードとFAXモデムボードが装着されています。
 p.9「拡張スロット」

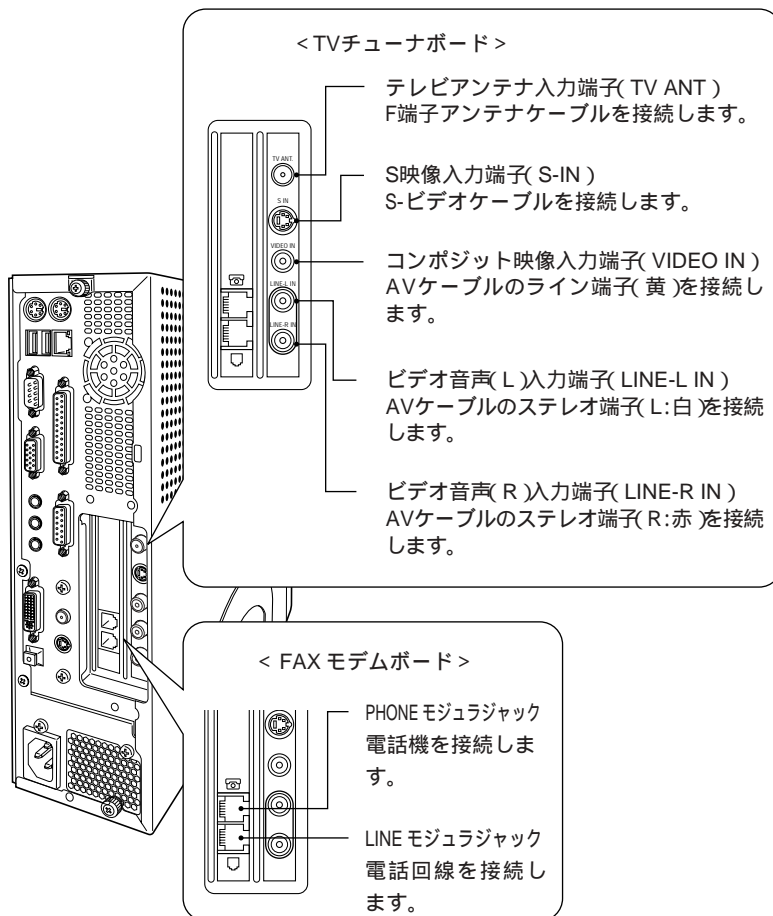
コンジット出力端子 
コンジット映像入力端子を装備しているテレビとAVケーブルで接続します。

S-ビデオ出力端子 
S-ビデオ入力端子を装備しているテレビとS-ビデオケーブルで接続します。

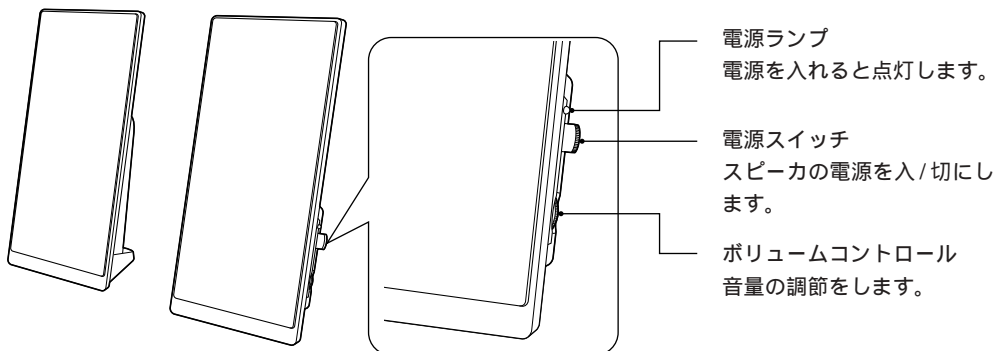
光デジタルオーディオ出力(S/PDIF)コネクタ(角型)SPDIF
光デジタルオーディオ機器を接続します。

電源コネクタ
添付の電源コードを接続して電気を供給します。

拡張スロット



スピーカ



コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。プリンタやスキャナなどの周辺機器の接続は、Windowsのセットアップ終了後に、周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。



設置における注意



- 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本製品の通風孔をふさがないください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。
 - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところに設置しない。
 - ・じゅうたんや布団の上に設置しない。
 - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、p(11)「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード(ケーブル)接続時の注意



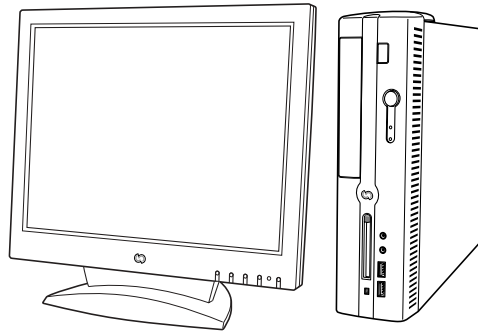
- めれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



- 各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。
- ヘッドフォンやスピーカを使用するときは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。ボリュームの調節が大きくなっていると思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

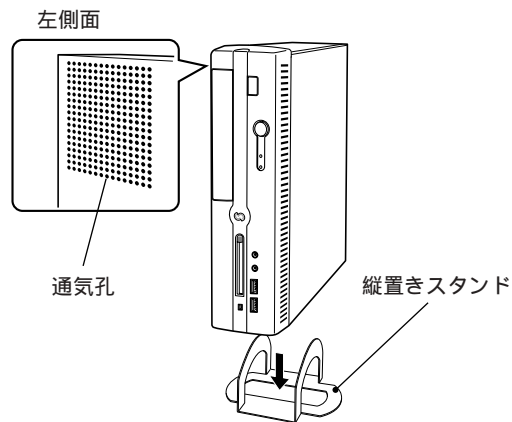
設 置

- 1** コンピュータとディスプレイを設置場所(机などの丈夫で水平な台の上)に置きます。本機は、縦置き状態で使用することをおすすめします。



2 本体を縦置きスタンドにセットします。

- ① 縦置きスタンドにセットします。設置するときは、通風孔をふさがないでください。
- ② 本体が安定するようにスタンドの位置を調節します。



ディスプレイの接続

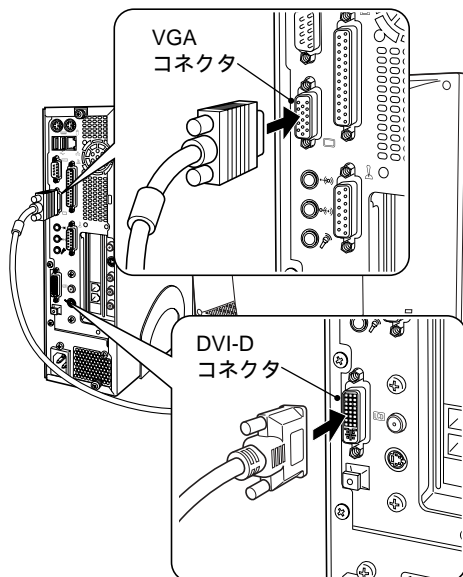
ディスプレイの接続方法や注意事項などの詳細については、お使いになるディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

3 使用するディスプレイがアナログ方式かデジタル方式かを確認し、ディスプレイの接続コードを該当するコネクタに接続します。

アナログ(VGA)方式ディスプレイの場合 : VGAコネクタ

デジタル(DVI-D)方式ディスプレイの場合 : DVI-Dコネクタ

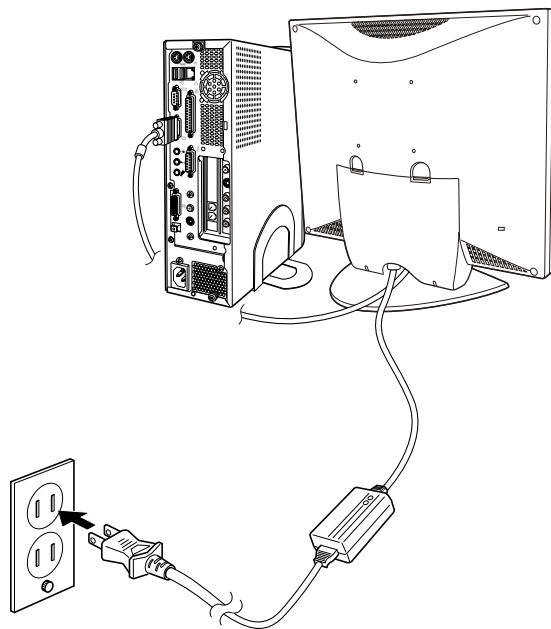
<アナログ方式ディスプレイの場合>



<デジタル方式ディスプレイの場合>

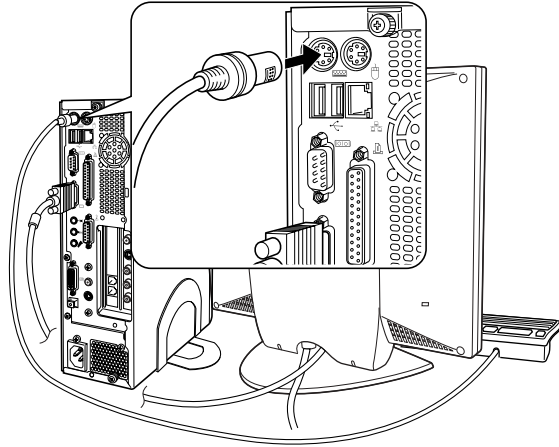
4

ディスプレイの電源コードを家庭用電源コンセントに接続します。

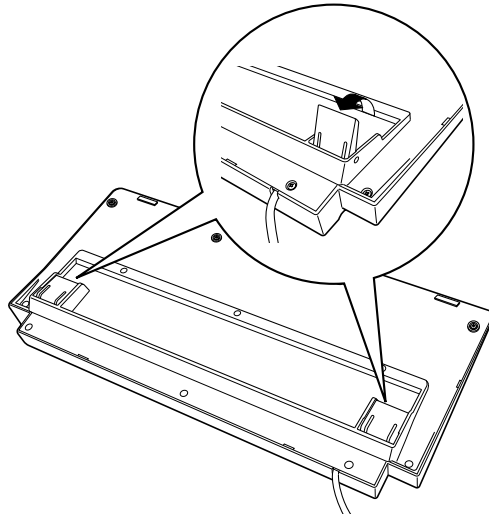


キーボードの接続

- 5** キーボードケーブルのコネクタを本機のキーボードコネクタ(紫色)に差し込みます。



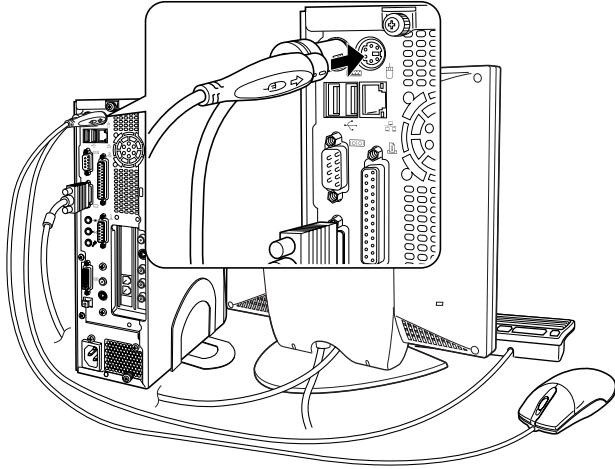
キーボードは操作しやすい位置に置きます。
キーボードを傾斜させるときは、両端の脚を起こして調節します。



マウスの接続

6

マウスケーブルのコネクタを本機のマウスコネクタ(緑色)に差し込みます。

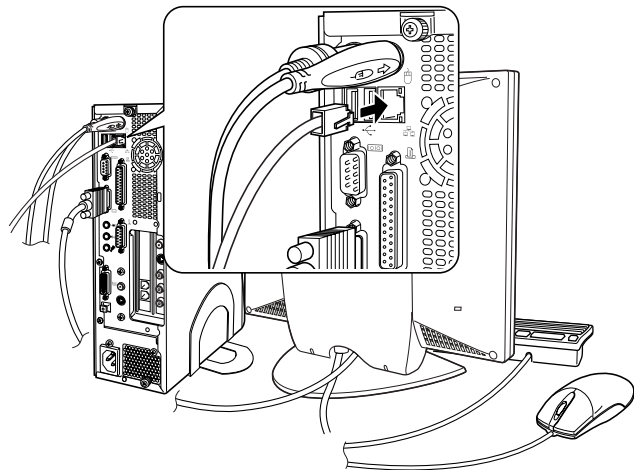


ネットワークへの接続

7

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークケーブルをLANコネクタに接続します。

ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。





FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

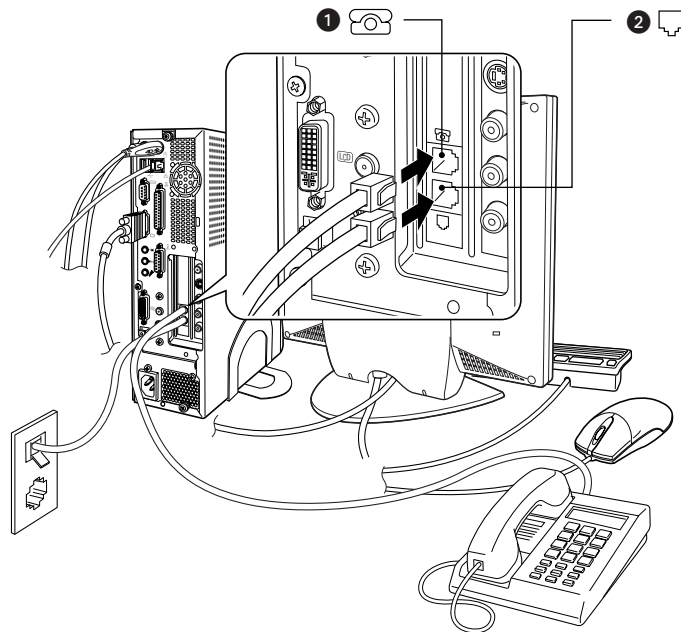
- ・ 構内交換機 (PBX)
- ・ 2線式でない回線 (ホームテレホンやビジネスホンなど)
- ・ ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

8

FAXモデム機能を使用する場合は、電話回線への接続を行います。

使用している回線や、電話機によっては接続ができないことがあります。p.67「FAXモデムを使う」をご覧ください。

- ① 電話機のモジュラコードをモデムのPHONEモジュラジャックに接続します。
- ② 屋内配線のモジュラコネクタとモデムのLINEモジュラジャックを付属のモジュラコードで接続します。

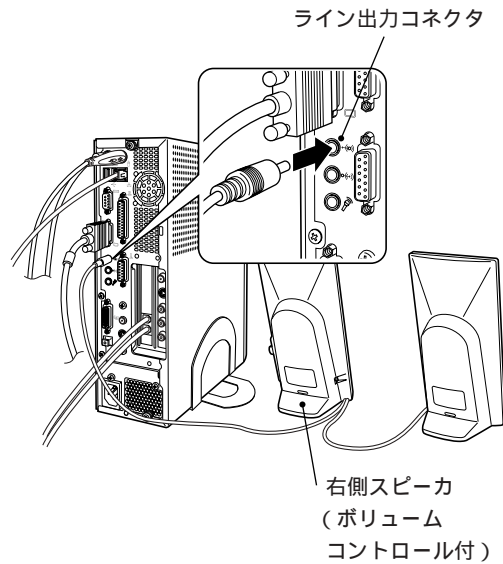


スピーカの接続

9

スピーカを設置してコンピュータと接続します。

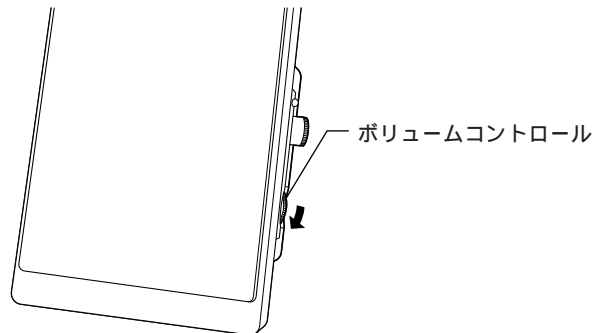
- ① ボリュームコントロールの付いているスピーカを正面右側に置きます。
- ② オーディオケーブルのジャックを本体背面のライン出力コネクタに接続します。



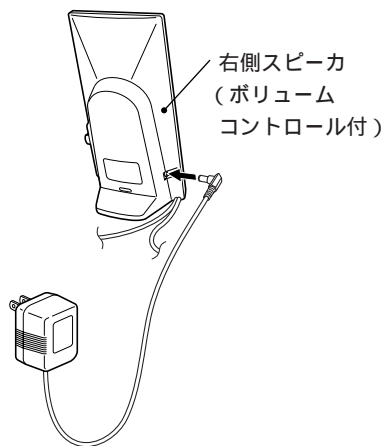
10

右スピーカのボリュームコントロールを完全に下に回します。

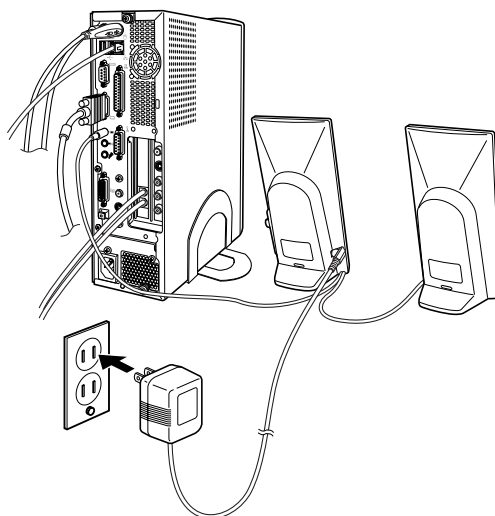
この状態で音量は(ゼロ)です。調節はWindowsのセットアップ終了後に行ってください。



11 ACアダプタをスピーカに接続します。

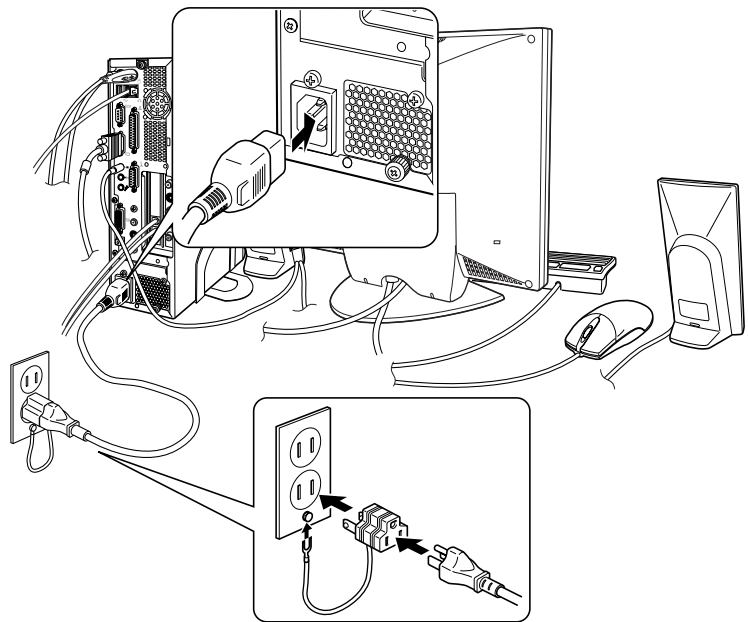


12 家庭用電源コンセントにACアダプタを接続します。



13 家庭用電源コンセントに、添付の電源プラグ変換アダプタを接続してから、電源コードを接続します。

アース端子がついているコンセントの場合は、電源コードのアース線を接続してください。



これでコンピュータの設置は終了です。続いてWindowsのセットアップを行います。

参考

TVチューナボードへの接続

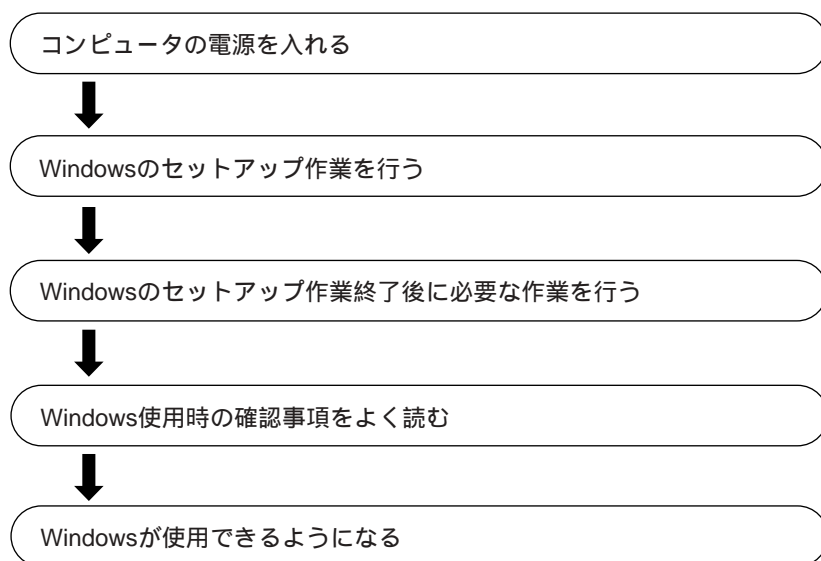
テレビを見る・録画するための接続については、『Symphovisionユーザーズマニュアル』をご覧ください。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、コンピュータを購入後に、はじめて電源を入れてから、Windowsを使用できる状態にするまでの作業を説明します。

Windowsが使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。次ページからの手順に従って作業を行ってください。



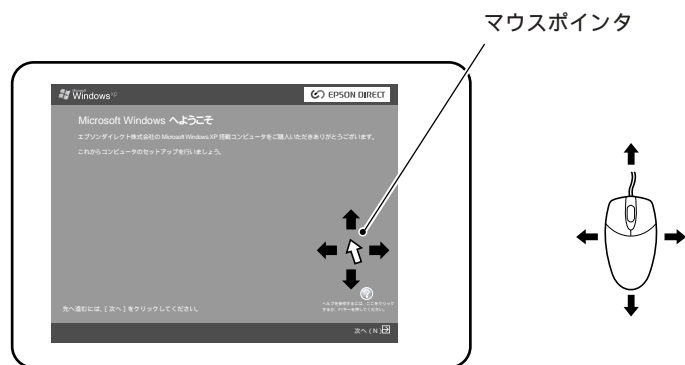
電源を入れる前に

Windowsのセットアップとは 「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、はじめて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って簡単に行うことができます。

マウスの使い方 Windowsのセットアップは、マウスで行います。セットアップに必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

マウスポインタを動かす

マウスを前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているマウスポインタもマウスと同じ動きをします。

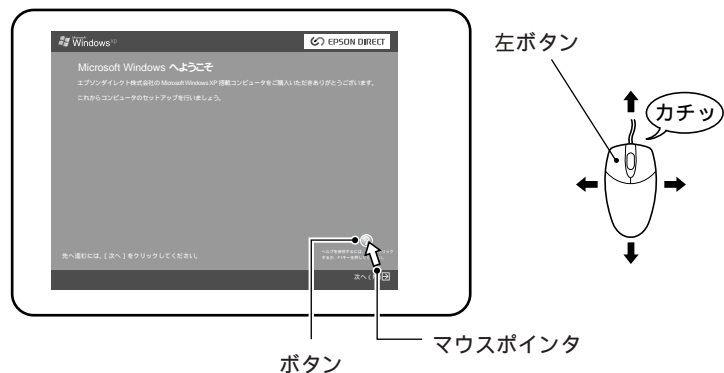


ボタンをクリックする

- ① マウスを動かして、マウスポインタを画面のボタンの上に重ねます。
- ② マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

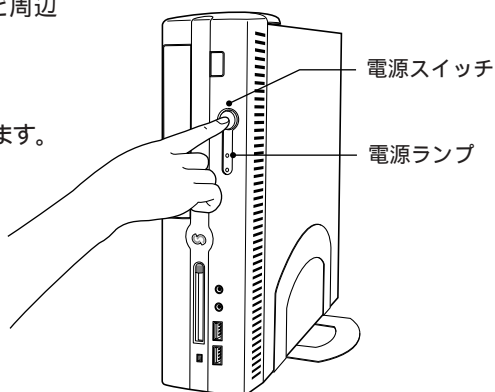
ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



電源の入れ方とWindows XPの起動

本機の電源の入れ方は次のとおりです。

- 1 ディスプレイやスピーカなど周辺機器の電源を入れます。
- 2 本体の電源スイッチを押します。
電源ランプが点灯します。
- 3 しばらくするとWindows XPが起動します。
初めて電源を入れたときには、「Windows XPのセットアップ」が始まります。次ページからの「Windows XPのセットアップ」をご覧ください。
電源を入れたときに、次のような現象が発生した場合は、以下の点を確認してください。
 - 電源ランプが点灯しない場合
電源コードが正しく接続されているか確認してください。
 - 画面に何も表示されない場合
ディスプレイが正しく接続され、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。



Windows XPのセットアップ

Windows XPのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows XPセットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Microsoft Windowsへようこそ

↓ セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

使用許諾契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかどうかを設定します。
*「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

コンピュータ名

↓ 「このコンピュータの名前」を入力します。このコンピュータをネットワークに接続して使用する場合は、ネットワーク管理者の指示に従って入力してください。

パスワードの設定

↓ Windows XP Professionalをお使いの場合は、パスワードの設定を行います。

インターネットへの接続

↓ ここでは接続を行いませんので、[省略]をクリックします。

ユーザー登録

↓ ここでは登録を行いませんので、「いいえ、今回はユーザー登録しません」を選択し、[次へ]をクリックします。

コンピュータを使用するユーザーの指定



このコンピュータを使用するユーザーの名前(最大5ユーザー)を入力します。少なくともユーザー名を1つ入力してください。

インストールの完了

Windows XPが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが再起動します。

2

Windows XPが再起動すると、次の画面が表示されます。

セットアップ中にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windows XPの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。ユーザー名をクリックすると、次の画面が表示されます。



ユーザー登録とライセンス認証(アクティベーション)について
 セットアップ中にスキップしたユーザー登録を行う場合は、[スタート]
 -「ファイル名を指定して実行」-「REGWIZ /R (はスペース)を実行
 します。ウィザード画面の指示に従ってください。

ユーザー登録は、Microsoft社からWindowsに関するサポートを受けるため
 のものではありません。本機のサポートは弊社で行っています。


弊社より提供されたWindows XP(購入時にコンピュータにインストール
 されているもの、および「リカバリCD」より再インストールを行ったもの)
 は、ライセンス認証を行う必要はありません。

セットアップ終了後の作業

Windowsのセットアップが終了したら、次の作業を行います。

Norton
AntiVirus2002
のインストール

「Norton AntiVirus2002」は、コンピュータウイルスを検索し駆除するためのソフトウェアです。購入時には「Norton AntiVirus2002」がインストールされていません。必ず「Norton AntiVirus2002」のインストールを行ってください。


 p.86「コンピュータウイルスの検索・駆除」

ネットワーク
に接続する

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルや、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

FAXモデムの設定

FAXモデムを使ってインターネットへ接続する場合は設定を行います。

 p.72「インターネットに接続するには」

Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用前に次の事項を確認してください。


Windowsの使用方法は、Windowsに添付の『ファーストステップガイド』や、『Windowsのヘルプ』をご覧ください。

2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータに電源を入れるときには、次の点に注意してください。

電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。

省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまうないように注意しましょう。

 p.92「省電力機能を使う」

電源を入れ直すときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。

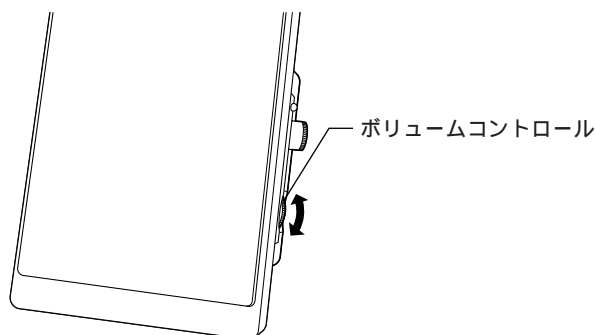
電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。

コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。


音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎる場合は、スピーカのボリュームコントロールで音量を調節します。音量は、ボリュームコントロールを上に戻すと大きく、下に回すと小さくなります。



省電力機能

本機では、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合は、電源ランプの点灯/点滅を確認し、次の操作を行うと、元の状態に戻すことができます(購入時の設定の場合)。

 p.92「省電力機能を使う」

電源ランプ	操作
緑点灯	キーボードやマウスを操作する。
緑点滅	電源スイッチを押す。

デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD Disc1」をセットしてください。

購入時のHDD領域の設定について

本機のHDDは、購入時に次のとおり設定されています。

<HDDを1台装着している場合>

ドライブ	容量	ファイルシステム
Cドライブ	20GB	NTFS
Dドライブ	残りの容量	NTFS

<HDDを2台装着している場合>

ドライブ	容量	ファイルシステム
Cドライブ	1台目HDDの20GB	NTFS
Dドライブ	1台目HDDの残りの容量	NTFS
Eドライブ	2台目HDDの全容量	NTFS

B's CLiPのインストールについて

本機のHDDには、「B's CLiP」がインストールされていません。「B's CLiP」を使用すると、FDDのように、ドラッグ&ドロップするだけでファイルやフォルダをメディアへコピーすることができます。必要に応じてインストールを行ってください。



p.48「DVD+RW/+Rドライブを使う」

ステップバイステップインタラクティブの実行について

「ステップバイステップインタラクティブ」を実行すると、Windows XPの使い方の詳細をデスクトップ上で見ることができます。「ステップバイステップインタラクティブ」の実行は、[スタート]-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「Microsoftインタラクティブトレーニング」-「Microsoftインタラクティブトレーニング」をクリックします。

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。



制限

電源を切って、もう一度入れ直す場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。

HDDやFDDなどのアクセス中にコンピュータの電源を切ると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。

本機は、電源を切ってもコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

Windowsの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows XPを終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-[終了オプション] をクリックします。
- 2 「コンピュータの電源を切る」画面で[電源を切る] をクリックします。
Windows XPが終了し、自動的に電源が切れます。
- 3 ディスプレイなど接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows XP 終了時の注意

Windows XPを複数のユーザーが使用している場合に、[終了オプション]-[電源を切る] を選択して電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、画面を切り替えて、ログオンしているすべてのユーザーのログオフを行ってください。

リセット

コンピュータの電源が入っている状態で、コンピュータを再起動する場合には「リセット」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

使用しているソフトウェアで指示があった場合

プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合

リセットすると、保存されていないデータはすべて消失します。

ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsの リセット方法

リセットするには[スタート]-「終了オプション」-[再起動]をクリックします。

リセットできない ときは

プログラムがハングアップしてしまい、上記の方法でリセットできなくなってしまった場合は、あわてず次のように対処します。

Ctrl + Alt + Delete を押してリセットする



コンピュータがリセットできないときは...

コンピュータの電源スイッチを押す



コンピュータの電源が切れないときは...

コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。



コンピュータの基本操作

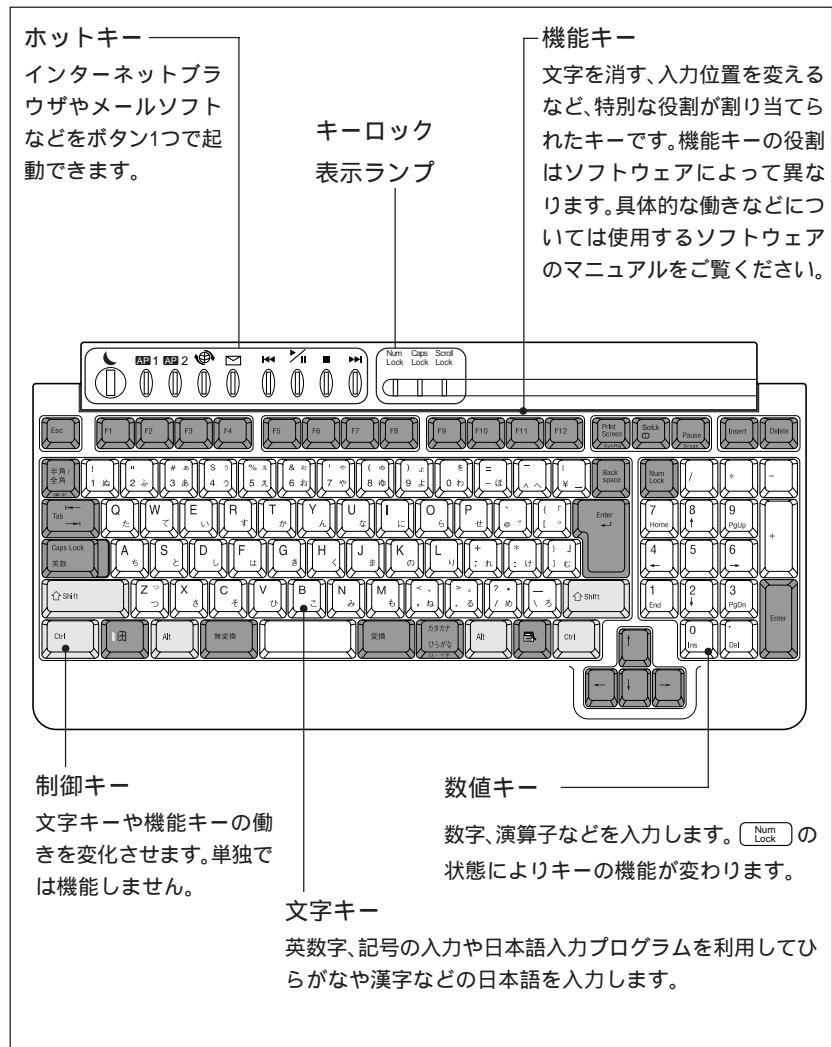
キーボードやマウスなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

キーボードを使う

本機のキーボードは9個のホットキーを搭載した日本語対応113キーボードです。
キーボードの接続方法についてはp.10「コンピュータの設置」をご覧ください。

キーの種類と役割

113個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。



文字を入力するには

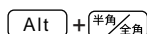
文字キーを押すとキートップ(キーの上面)に印字された文字が入力されます。キートップには複数の文字が印字されており、入力モードによって入力される文字が異なります。

直接入力モード : キートップのアルファベットをそのまま入力します。

日本語入力モード

- ローマ字入力: キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
- かな入力 : キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

入力モードの切り替え 直接入力モードと日本語入力モードの切り替えは次のキー操作で行います。



日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方 MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行います。










- ① 入力モード
入力モード(ひらがな、カタカナ、英数字など)を選択します。
- ② ヘルプ
日本語入力の方法が詳しく説明されているので参照してください。
- ③ かなキーロック
日本語入力モードの切り替えを行います。
ボタンが押されていない状態 : ローマ字入力
ボタンが押されている状態 : かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。



キーロック表示ランプ

キーボード上部中央の3つのランプはキーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割 : 数値キーの状態を切り替え 切り替え :  を押します。 点灯 : 数値を入力 消灯 : カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割 : アルファベットの大文字/小文字の切り替え 切り替え :  +  を押します。 点灯 : 大文字を入力 消灯 : 小文字を入力
Scroll Lock	役割 : ソフトウェアによって異なります。 切り替え :  を押します。

そのほかのキー

Windowsキー、アプリケーションキーを使うことにより、Windowsをより効率的に使用することができます。











キー名	機能
 (Windowsキー)	画面左下の[スタート]をクリックするのと同じ働きをします。
 (アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。 (ソフトウェアによって異なる場合があります。)

ホットキーを使用する

ホットキーには、音楽CDの再生、メールソフトの起動などの機能が割り付けられており、デスクトップ上で操作しなくても、キーを押すだけで実行することができます。

インターネットキー、メールキーを使用する場合は、インターネットへの接続を完了させてからお使いください。

各ホットキーの機能は、次のとおりです。

ホットキー	機能
スタンバイキー 	通常動作時に押すとスタンバイモードに入ります。  p.92「省電力機能を使う」
アプリケーションキー 1 	「Win DVD」を起動します。
アプリケーションキー 2 	「Symphovision」を起動します。
インターネットキー 	Internet Explorer (インターネットエクスプローラ) を起動します。
メールキー 	Outlook Express (アウトルックエクスプレス) を起動します。
CD プレーヤーキー	Windows Media Player を起動します。音楽CDを聴く場合に、簡単に操作することができます。  前のトラック  再生 / 一時停止  停止  次のトラック

ホットキーの設定

ホットキーの設定は、タスクバーの「ホットキー」アイコンを右クリックして表示されるキーボードユーティリティで変更できます。



<ホットキーアイコン>

キーボード
ユーティリティ

キーボードユーティリティでは次の設定ができます。

メニュー	サブメニュー	設定内容
セットアップ	アプリケーションキー-1	アプリケーションキー-1に機能を割り付けます。 「Win DVD」が割り付けられています。
	アプリケーションキー-2	アプリケーションキー-2に機能を割り付けます。 「Symphovision」が割り付けられています。
画面表示	フォント	ホットキーを押したときに、キーの内容を画面上に表示するフォントを選択します。
	表示場所	ホットキーを押したときに、キーの内容を画面上に表示する位置を「左上」、「右上」、「左下」、「右下」、「中央」から選択します。
	表示する/しない	ホットキーを押したときに、キーの内容を画面上に表示するかしないかを選択します。
終了		キーボードユーティリティを終了します。



アプリケーションキーについて

Windowsを再インストールした場合、アプリケーションキーの機能が、「NOTEPAD」と「エクスプローラ」になります。テレビ出力した際に、DVDを見る、テレビを見るといった操作を簡単に行うために、アプリケーションキーの機能を、「WinDVD」と「Symphovision」に変更することをおすすめします。

 p.146「アプリケーションキー-1,2に機能を割り付ける」

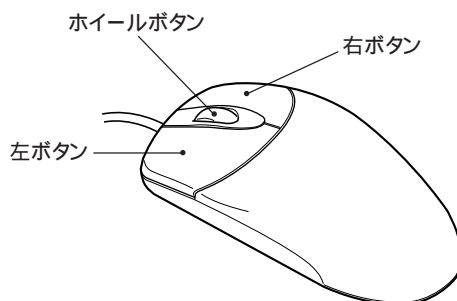
マウスを使う

本機に標準で添付されているマウスには、左右のボタンのほかにホイールボタンがあります。ホイール機能を使用するには「マウスドライバ」のインストールが必要です。「マウスドライバ」は、購入時にあらかじめインストールされています。

マウスの操作



アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

- クリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせてボタンを1回カチッと押します。
- ダブルクリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせてボタンを2回続けてカチカチッと押します。
- ドラッグアンドドロップ: マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを押したままの状態をマウスを移動し、離します。
- スクロール : ホイールボタンを指先で回転させます。縦スクロール操作を行うことができます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境を変更するときは、デスクトップ右下のタスクバーに表示されている「マウス」アイコンをダブルクリックし、「マウスのプロパティ」で設定変更します。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

USB FDDを使う (オプション)

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。USB FDDでは、次のFDを使用できます。

3.5型2HD : 1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。

3.5型2DD : 720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。

FDDを使う前に、必ずp(12)「製品保護上の注意」の「USB FDD(フロッピーディスクドライブ)」をお読みにになり、取り扱い時の注意を確認してください。



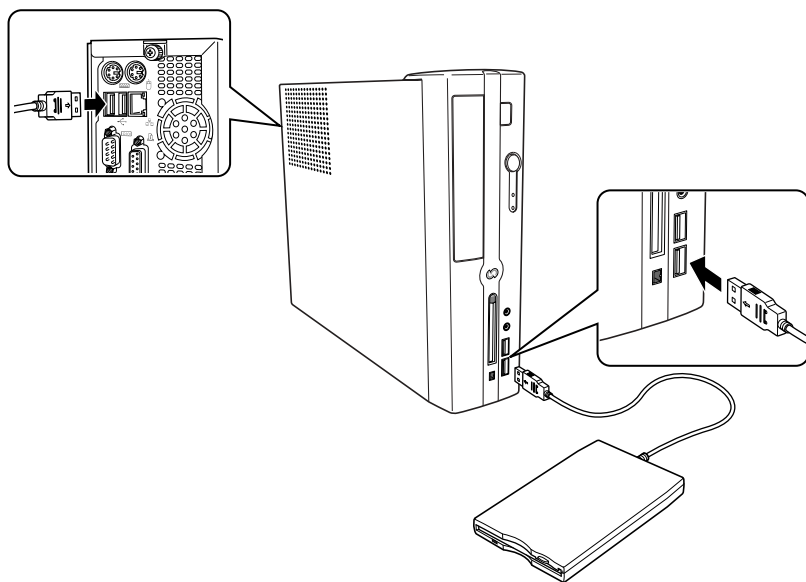
制限

FDDは消耗品です。読み書きを繰り返すと、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

FDDの接続

FDDのUSBコネクタを、本機のUSBコネクタに差し込みます。

USBコネクタは、前面、背面のどのコネクタにも接続できます。



参考


USB FDDは、必要なときだけ接続して使うことができます。

USBコネクタは、本機の電源が入った状態で接続できます。

システムが登録されているFDをセットして、本機の電源を入れると、USB FDDから起動することができます。

FDDの取り外し

USB FDDの取り外しは、次の方法で行います。

- 1 タスクバーに表示されている次のアイコンをクリックします。

- 2 アイコンをクリックして、「USB Floppy - ドライブを安全に取り外します」を選択しクリックします。
- 3 「ハードウェアの取り外し」画面が表示されたら、FDDのUSBコネクタを抜きます。

FDのセットと取り出し



制限

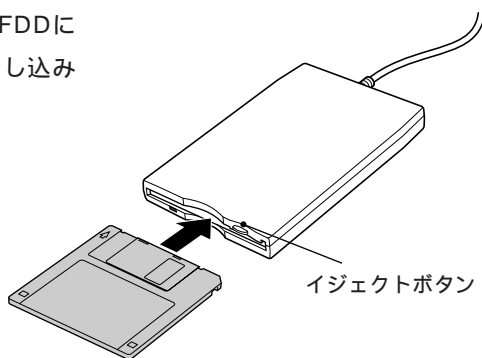
アクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

コンピュータの電源を切る場合やコンピュータをリセットする場合は、必ずFDを取り出してください。

セット方法

1

ラベル面を上に向け、USB FDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。



2

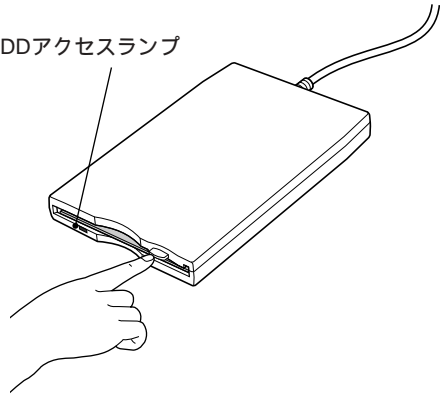
正しくセットされると、イジェクトボタンが押し出されます。

取り出し方法

1

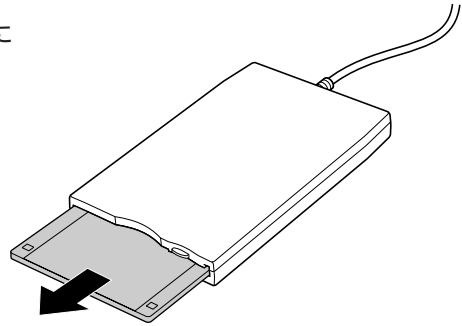
FDDアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。

FDDアクセスランプ



2

FDが飛び出しますので、静かに引き抜きます。



FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。

メディアの種類にあったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。



FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

720KBの記憶容量のFDをフォーマットすることはできません。

フォーマット方法

FDのフォーマットは、次の方法で行います。

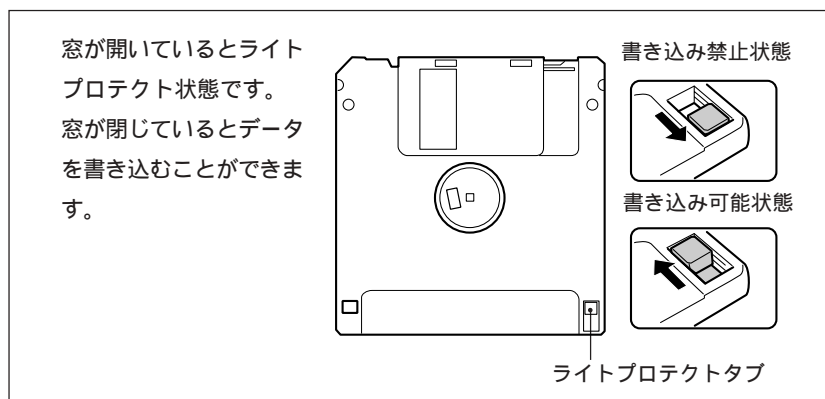
- 1 [スタート]-「マイコンピュータ」をクリックします。
- 2 「3.5インチFD(A:)」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。
- 3 「フォーマットオプション」などを設定して[開始]をクリックします。
- 4 「警告:フォーマットするとこのディスクのすべてのデータが消去されます...」と表示されたら、確認して[OK]をクリックします。
- 5 「フォーマットが終了しました。」と表示されたら、[OK]をクリックします。
続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3~5を繰り返します。
- 6 [閉じる]をクリックします。

データのバックアップ

大切なデータは別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトとは、FDにデータを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDには、データを書き込み、削除、フォーマットができなくなります。重要なデータを登録したFDはライトプロテクトをしておく安心です。ライトプロテクトするには、FD裏面のライトプロテクトタブを操作します。



HDD(ハードディスクドライブ)を使う

本機には、HDDが内蔵されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。



誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。

HDDを分解しないでください。

HDDアクセスランプ点灯中に、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。

HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することができません。

本機を落としたり、ぶついたりしてショックを与えるとHDDが破壊されるおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。

データのバックアップ

HDD内に、重要なデータを作成したら、必ずFDなどの別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

購入時のHDD領域の設定について

本機のHDDは、購入時に次のとおり設定されています。

< HDDを1台装着している場合 >


ドライブ	容量	ファイルシステム
Cドライブ	20GB	NTFS
Dドライブ	残りの容量	NTFS

< HDDを2台装着している場合 >


ドライブ	容量	ファイルシステム
Cドライブ	1台目HDDの20GB	NTFS
Dドライブ	1台目HDDの残りの容量	NTFS
Eドライブ	2台目HDDの全容量	NTFS

HDD領域の変更

CドライブのHDD領域の構成を変更したい場合は、Windowsの再インストールが必要です。

 p.134「ソフトウェアの再インストール」

2台目のHDD領域を変更したい場合は、Windowsの「ディスクの管理」で行います。

 p.144「領域の作成」



データの保存

Cドライブの容量は購入時には、20GBに設定されています。容量の大きいデータを保存する場合は、本機を快適にお使いいただくためにも、Dドライブまたはそれ以降(HDDを2台装着している場合)のドライブに保存することをおすすめします。

DVD+RW/+Rドライブを使う

本機には、DVD+RW/+Rドライブが搭載されています。DVD+RW/+Rドライブの機能は次のとおりです。

CD-ROM、DVD-ROMメディアの読み込み、再生機能

データCDや音楽CD、DVDなどのメディアを読み込み、再生することができます。

メディアへの書き込み機能

CD-R、DVD+RWなどのメディアにデータや音楽などを書き込むことができます。



制限

メディアの書き込み

本機のDVD+RW/+Rドライブでは、次のメディアへの書き込みはできません。

- ・DVD-R
- ・DVD-RW


メディアのセットと取り出し



制限

必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。

「B's CLiP」でフォーマットしたCD-RメディアやCD-RWメディアは、イジェクトボタンを押しても取り出すことができません。タスクバーの「B's CLiP」アイコンを右クリックして「取り出し」を選択してください。詳しい説明が、『B's CLiPユーザーズマニュアル』に記載されています。

 p.53「ライティングソフト」

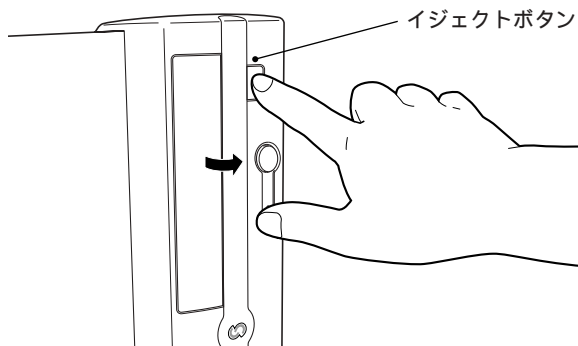
本機は、縦置きで使用するため、8cmメディアを使用することはできません。また、楕円などの通常と異なった形状のメディアも使用することができません。

セット方法、取り出し方法は、次のとおりです。

セット方法

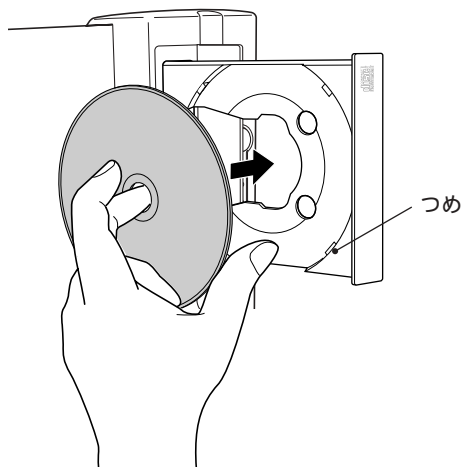
1

イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



2

メディアの印刷面を本体の左側に向け、ディスクトレイにある、落下防止用のつめに合わせてセットします。

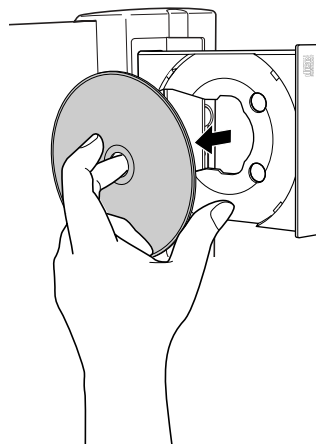


3

イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

- 1 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。
- 2 メディアをディスクトレイから取り出します。
- 3 イジェクトボタンを押してディスクトレイを閉じます。



CD-ROMメディアの読み込み

データCDのほかに、音楽CD、ビデオCDや、フォトCDなどのメディアを再生することができます。これらのメディアの中には、別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

DVD-ROMメディアの再生

本機は、DVD-ROMメディアの再生ができます。

再生には、DVD VIDEO再生のためのソフトウェアが必要です。本機には、「Win DVD」がインストールされています。詳しい使用方法是添付の『Win DVDユーザーズマニュアル』をご覧ください。


DVD VIDEO 再生時の制限

「Win DVD」でDVD VIDEOの再生をする場合、次のように設定していると、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。

- ・ 解像度が1024×768ドットで、リフレッシュレートが「最適」または「85Hz」の場合
- ・ 解像度が1280×1024ドット以上に設定されている場合

DVD VIDEO が再生できない場合は、解像度などを確認して設定を変更してください。

1024×768ドットで表示する場合は、リフレッシュレートを「60Hz」～「75Hz」に設定してください。

 p.52「リフレッシュレートの変更方法」

テレビでDVDを 見る

本機は、TV-Out機能を使って、テレビでDVDを見ることができます。テレビの接続方法、表示方法はp.57「表示装置を使う」をご覧ください。



メディアの再生

本機に装着されているDVD+RW/+Rドライブは、メディアの認識に時間がかかることがあります。不具合ではありません。

また、メディアの種類によっては、再生中に振動することがありますが、故障ではありません。

リフレッシュレートの変更方法 リフレッシュレートの変更は、次の手順で行います。ただし、ディスプレイの仕様によってはリフレッシュレートの変更ができない場合があります。

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「デスクトップの表示とテーマ」アイコンをクリックします。
- 3 「画面」アイコンをクリックし、「画面のプロパティ」を表示します。
- 4 「設定」タブで、「詳細設定」をクリックします。
- 5 「モニタ」タブをクリックします。
- 6 「モニタの設定」-「画面のリフレッシュレート」項目で変更するリフレッシュレートを選択します。



- 7 [適用] をクリックし、[OK] をクリックします。
- 8 「デスクトップのサイズを変更しました...」と表示されたら、表示状態を確認して [OK] をクリックします。
- 9 [OK] をクリックして「画面のプロパティ」を閉じます。
解像度の変更方法については、p.60「解像度や表示色を変更する」を参照してください。

メディアへの書き込み

DVD+RW/+Rドライブでは、データ、音楽、画像などをCD-Rメディア、CD-RWメディア、DVD+RWメディア、DVD+Rメディアに書き込むことができます。DVD+RW/+Rドライブには、バッファアンダーランエラー*の発生を自動的に防止する機能(Just Link™(ジャストリンク)機能)を搭載しています。そのため、書き込みエラーを未然に防ぐことができ、メディアを無駄にすることなく、安心して書き込みが行えます。

* 遅延無くメディアへ書き込まないと、発生するエラーのこと。

メディアへの書き込みは、ドライブ側のバッファメモリに一時的に書き込むデータを蓄えながら書き込んでいるが、書き込み中にコンピュータで他の作業をするなど、バッファメモリのデータを使い切ってしまうと発生する。



制限

作成したDVD VIDEOは、市販のDVDプレーヤーで再生できますが、一部のDVDプレーヤーでは再生できない場合があります。

書き込み可能なメディアの種類

CD-Rメディア

データなどを1度だけ書き込むことができます。書き込まれたデータなどを消去したり、移動したりすることはできません。ただし、マルチセッションという方法により、CD-Rメディアに空き容量があれば、繰り返し追記することができます。

CD-RWメディア

書き込んだデータをフォーマットすることで、繰り返し書き込みが行えます。

DVD+RWメディア

最大4.7GBの容量を持つ、書き換えが可能なメディアです。CD-RWメディアと同様に使用できます。大容量のデータの保存や、DVD VIDEO形式でオリジナルDVD VIDEOを作成することができます。

DVD+Rメディア

CD-Rメディアと同様に、データなどを1度だけ書き込むことができます。マルチセッションという方法により、空き容量があれば、繰り返し追記することができます。



参考

メディアを選ぶ

各メディアには書き込みの対応速度によって異なる種類があります。書き込みを行う場合は、書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

ライティング ソフト

メディアへの書き込みにはライティングソフトが必要です。本機には「B's Recorder GOLD」と「B's CLiP」が添付されています。「B's Recorder GOLD」は購入時にインストールされていますが、「B's CLiP」はインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

インストール方法

「B's CLiP」のインストール方法は「B's Recorder GOLD/B's CLiP CD-ROM」の『B's CLiP クイックガイド』(pdf)をご覧ください。

『B's CLiP クイックガイド』は、次の方法で見ることができます。

- ・[スタート]-「マイコンピュータ」でCD-ROM アイコンを右クリックして「開く」-「BsCLiP」-「DOC」-「Quick」

使用方法

ソフトウェアの詳しい使用方法は、『B's Recorder GOLDユーザーズマニュアル』、『B's CLiPユーザーズマニュアル』をご覧ください。


これらのマニュアルは、次の方法で見ることができます。

- ・[スタート]-「すべてのプログラム」-「B.H.A」-「B's Recorder GOLD5」
- ・[スタート]-「すべてのプログラム」-「B.H.A」-「B's CLiP」

メディア書き込み時の注意

メディアへの書き込みを行っているときに、Windowsが省電力モードに切り替わると、メディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。

書き込みを始める前に次の手順で省電力機能を無効にしてください。

 p.92「省電力機能を使う」

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。
- 3 「電源オプション」アイコンをクリックし、「電源オプションのプロパティ」を表示します。
- 4 「電源設定」タブで「モニタの電源を切る」などすべての項目の時間設定を「なし」に変更します。
- 5 [適用]をクリックし、[OK]をクリックします。

適応フォーマット

DVD+RW/+Rドライブが適応しているフォーマットは次のとおりです。使用目的に合わせたメディアのフォーマットが行えます。

ただし、適応しているフォーマットでも、ライティングソフト側で適応していないフォーマットは使用できません。『B's Recorder GOLDユーザーズマニュアル』をご覧ください。適応フォーマットを確認してください。

DVD+RW/+Rドライブ対応フォーマット

フォーマット	書き込み (Write)	読み込み (Read)
CD-DA		
CD-G	×	×
CD-TEXT		
CD-ROM (Mode1)*		
CD-ROM XA (Mode2 Form1・Form2)*		
Mixed Mode CD-ROM (CD-ROM+CD-DA)		
Photo-CD*		
Video-CD		
CD-I	×	×
CD-EXTRA		
DVD-ROM		
DVD VIDEO		
DVD+RW(Video and Data)		
DVD+R(Video and Data)		

* マルチセッション機能を含む
マルチセッション機能とはCD-Rメディアに書き込みを行ったあと、空き容量があれば最大99回まで追記できる機能です。

表示装置を使う

本機は、ディスプレイ機能とTV-Out機能を搭載しています。これらの機能により、次の表示装置が使用できます。

アナログディスプレイ

デジタルディスプレイ

テレビ(コンポジット、S-ビデオ入力端子を装備したテレビ)

アナログディスプレイとデジタルディスプレイを接続すると、同時に表示することができます。テレビは、ほかのディスプレイと同時に表示することはできません。

ディスプレイ
の接続

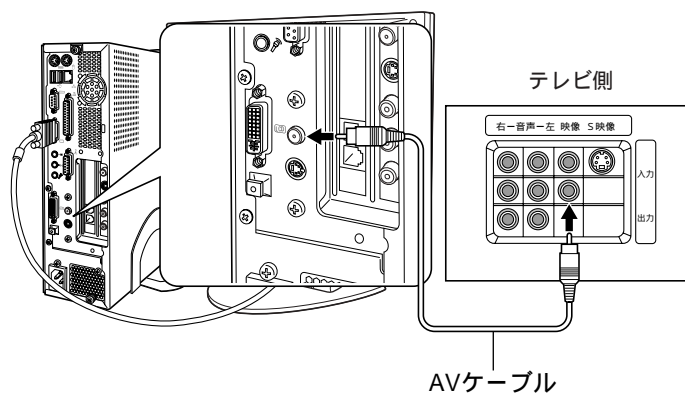
アナログディスプレイは本機背面のVGAコネクタに、デジタルディスプレイはDVI-Dコネクタに接続します。DVI-Iケーブルは接続できません。

 p.10「コンピュータの設置」

テレビの接続

テレビは、本機背面のコンポジット出力端子またはS-ビデオ出力端子に接続します。AVケーブル、S-ビデオケーブルは、市販のものをご利用ください。

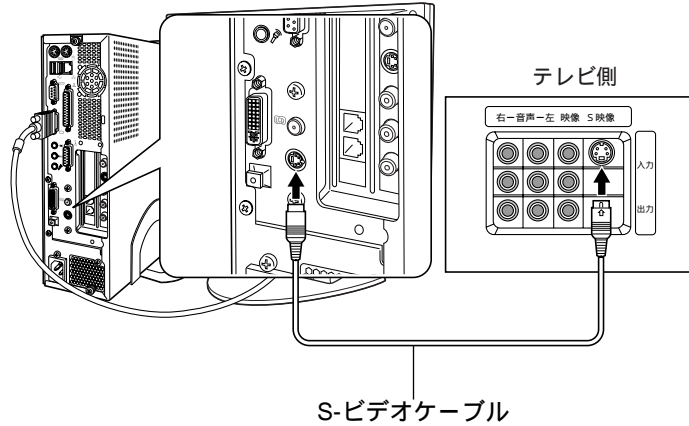
- 1 本機とテレビの電源を切ります。
- 2 < AVケーブルを使用する場合 >
市販のAVケーブルを使用して、本機のコンポジット出力端子と、テレビ側のコンポジット入力端子(黄色)を接続します。



< S-ビデオケーブルを使用する場合 >

市販のS-ビデオケーブルを使用して、本機のS-ビデオ出力端子と、テレビ側のS-ビデオ入力端子を接続します。

接続するテレビによっては、各端子の名称が異なる場合があります。



- 3 本機とテレビの電源を入れます。

表示装置の 切り替え

表示装置の切り替えは次のとおりです。

表示装置が1台接続されている場合

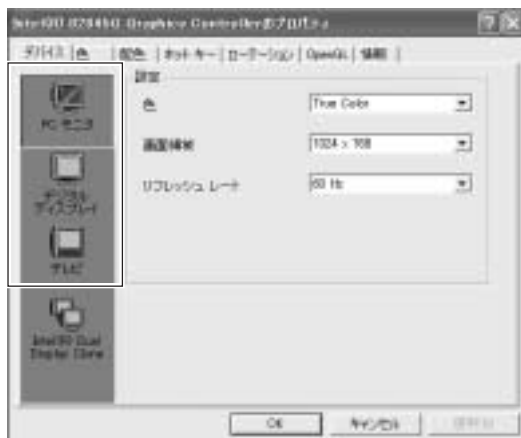
接続されているディスプレイを自動的に検出して表示します。

表示装置が2台接続されている場合

表示装置の切り替え方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面」をクリックして、「画面のプロパティ」を表示します。
- 2 「設定」タブ -[詳細]-「Intel(R)Graphics Technology」タブ -[グラフィックのプロパティ]をクリックします。

- 3 画面左側にあるボタンをクリックし、表示の切り替えを行います。



- 4 変更後は「適用」をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。



テレビに表示させた場合、テレビとほかのディスプレイを同時に表示することができません。

テレビに表示させた場合、テレビの画質がよくありません。これは、テレビの解像度がコンピュータ専用のディスプレイより低いからです。

テレビ出力時の表示の切り替え

テレビからディスプレイへ表示を切り替える場合、起動しているソフトウェアを終了しておく必要があります。ソフトウェアの終了方法は次のとおりです。

起動しているソフトウェアをクリックして **[Alt] + [F4]**

「コンピュータの電源を切る」画面が表示された場合、「コンピュータの電源を切る」画面右下の白いボタン(キャンセル)をクリックします。

すべてのソフトウェアを終了したら、次の方法で表示の切り替えを行います。

デジタルディスプレイに表示する場合

[Ctrl] + [Alt] + [F4]

デジタルディスプレイに表示する場合

[Ctrl] + [Alt] + [F1]


解像度や表示色を変更する

解像度や表示色の基本的な設定について説明します。
詳しい変更方法は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。



セーフモードでの起動

本機のビデオ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

 p.154「表示装置の不具合」

解像度や表示色
を変更するには

本機の画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。

1 [スタート]-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面解像度を変更する」をクリックします。

2 「画面の解像度」、「画面の色」で設定を変更します。



3 設定を変更したら、「適用」をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

解像度と表示色

本機で表示可能な解像度と表示色は次のとおりです。



制限

下記以外の設定を選択することもできますが、それらの設定に関しては動作保証していません。

解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトなどを再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてください。

解像度	表示色	
	中(16ビット)	最高(32ビット)
800 × 600 ドット		
1024 × 768 ドット		
1280 × 1024 ドット		
1600 × 1200 ドット*		

*アナログディスプレイのみ

ただし、表示可能な解像度、表示色は、接続するディスプレイによって異なります。詳しくは、お使いのディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

サウンド機能を使う

本機のメインボード上には、サウンド機能が搭載されています。

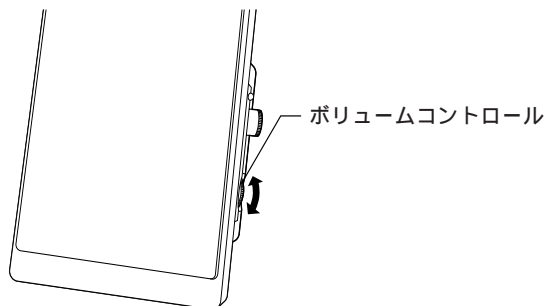


ヘッドフォンやスピーカを使用するときは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

アンプ内蔵ステレオスピーカ

本機には、アンプ内蔵ステレオスピーカが添付されています。このスピーカを接続して、音源からの音声を出力することができます。スピーカの音量の調節は次の方法で行います。

右側のスピーカ側面に付いているボリュームコントロールを動かして音量を調節します。

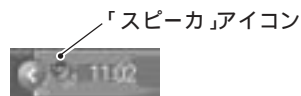


「スピーカ」アイコン

画面右下のタスクバーに表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。

システム音量の調整

[スタート]-「コントロールパネル」-「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」-「システム音量を調整する」をクリックして、「音量」タブの「デバイスの音量」で調整します。





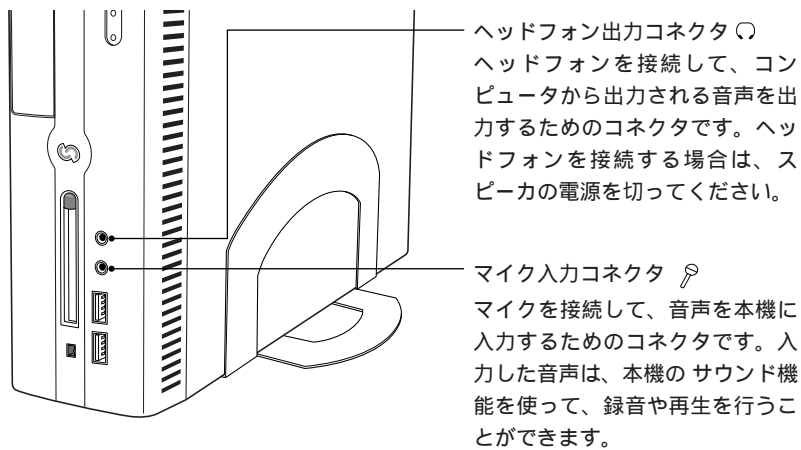
「スピーカー」アイコンの再表示

Windowsを再インストールした場合、「スピーカー」アイコンがタスクバーに表示されません。[スタート]-「コントロールパネル」-「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」-「タスクバーに音量アイコンを配置する」にチェックを付けます。

外部オーディオ機器などの接続

本機の前面と背面には、カセットデッキなどのオーディオ機器、外部スピーカーやマイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。


前面側



背面側

ライン出力コネクタ

アンプ内蔵スピーカなどを接続して、音声を出力するためのコネクタです。本機は、添付のアンプ内蔵ステレオスピーカを接続します。

 p.18「スピーカの接続」

ライン入力コネクタ

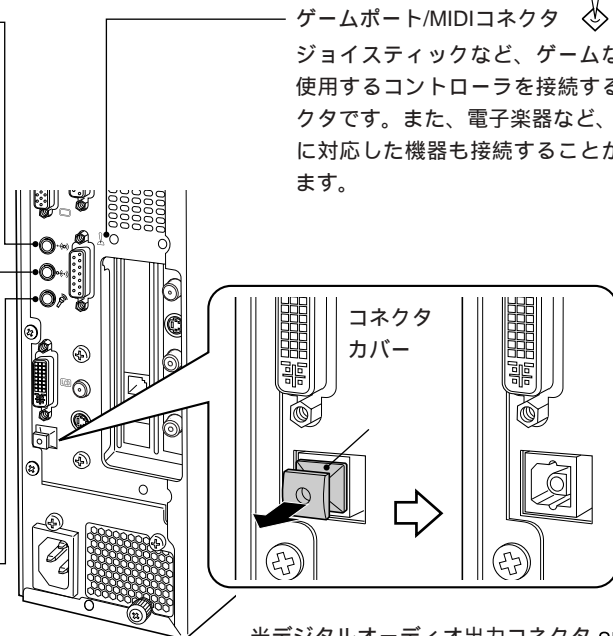
カセットデッキなどのオーディオ機器の音声出力端子と接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能を使って、録音や再生を行うことができます。

マイク入力コネクタ

マイクを接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能を使って、録音や再生を行うことができます。

ゲームポート/MIDIコネクタ

ジョイスティックなど、ゲームなどに使用するコントローラを接続するコネクタです。また、電子楽器など、MIDIに対応した機器も接続することができます。



光デジタルオーディオ出力コネクタ SPDIF (S/P DIFコネクタ)

MDデッキやサラウンドスピーカシステムなどのデジタルオーディオ機器の光デジタル入力端子と接続し、音声を出力してデジタル録音などをするためのコネクタです。このコネクタを使うときは、コネクタカバーを外してください。



光デジタルオーディオ出力コネクタ(S/P DIF)について

MDデッキなどのデジタルオーディオ機器と接続するには、別途「光角形デジタル接続ケーブル」が必要です。

本機から出力されるサンプリングレートは48KHz固定のため、サンプリングレート変換機能が搭載されていないデジタルオーディオ機器では、本機から出力される音声データを録音できません。

5.1チャンネルサラウンドスピーカシステムを「光角形デジタル接続ケーブル」で接続することができます。

音声の再生

Windows XP標準のサウンドユーティリティ「Windows Media Player」を使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。

「Windows Media Player」は、次のフォルダに登録されています。

[スタート]-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「エンターテイメント」

ホットキーからの再生

音楽CDをセットした場合、キーボード上のホットキー 、、

、 を使用することができます。また、 ボタンを押すと、

「Windows Media Player」が起動します。また、DVD VIDEOをセットした場合、

「Win DVD」が起動している状態で  ボタンを押すと、DVD VIDEOが再生されます。



参考

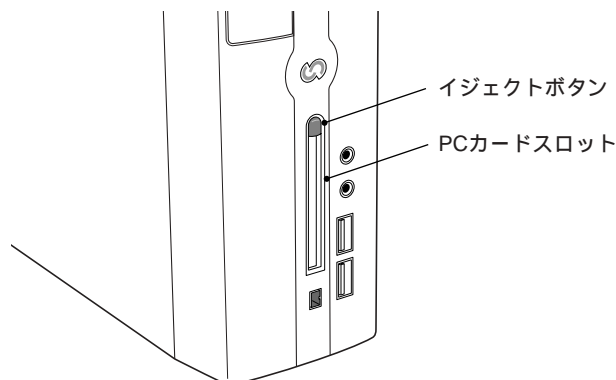
音楽CDを再生する

音楽CDをDVD+RW/+Rドライブにセットすると、CDメディアによっては、自動的に次の画面が表示されます。「オーディオCDの再生」を選んで「OK」をクリックすると、「Windows Media Player」が起動し、音楽CDが再生されます。



PCカードを使う


本機の前面には、PCカードスロットが装備されています。本機では、PC Card Standardに準拠したType IIのPCカードを装着することができます。



PCカード使用時の制限

CardBus対応のPCカードとECP対応のデバイスを同時に使用できません。ECP対応のデバイスを使用する場合には、CardBus対応のPCカードを取り外してください。

FAXモデムカードやネットワークカードなどは、使用途中に電源の供給が停止されると不具合が発生する可能性があります。これらのカードを使用するときは、省電力機能を使用しないでください。

 p.92「省電力機能を使う」

PCカードスロットにFAXモデムカードを取り付けて使用する場合には、回線の呼び出し音が鳴りません。これは、CardBusの仕様によるもので故障ではありません。

PCカードによっては専用のデバイスドライバが必要です。詳しくはPCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

PCカードの形状によっては装着できないカードがあります。

PCカードのセットと取り外し



制限

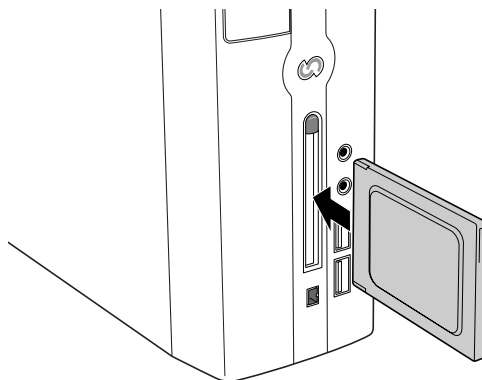
PCカードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。PCカードやコネクタ部に静電気が流れると、PCカードが壊れることがあります。

PCカードの抜き差しは省電力モード時には行わないでください。システムが正常に動作しなくなる可能性があります。

PCカードの セット

PCカードは、次の手順でセットします。

- 1 使用するPCカードがType IIのPCカードか確認します。
- 2 PCカードをPCカードスロットに挿入します。
PCカードの表面を左側に向けて奥までしっかりと押し込みます。



- 3 コンピュータの電源が切れている場合は、電源を入れます。

4

認識されるとPCカードが使用できます。

正しくセットされると認識音が鳴り、タスクバーにPCカードアイコンが表示されます。



PCカードによっては、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が起動します。メッセージに従ってデバイスドライバを選択、またはインストールしてください。インストール中にWindowsのCDを要求された場合は、「リカバリCD Disc1」をセットしてください。



PCカードの内容を確認するには

タスクバーにある「PCカード」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの安全な取り外し」画面で [プロパティ] をクリックします。

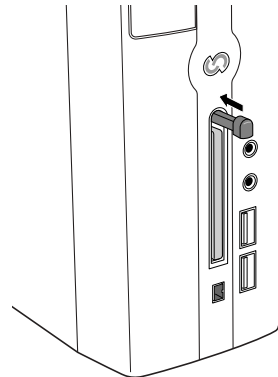
PCカード の取り外し



本機にセットされていたPCカードは、高温になっている可能性があります。
火傷に注意して取り外してください。

PCカードの取り外し手順は、次のとおりです。

- 1 「PCカード終了処理」を行うか、またはコンピュータの電源を切ります。
PCカード終了処理
 - ① タスクバーの「PCカード」アイコンをダブルクリックします。
 - ② 取り外すPCカードを選択して「停止」をクリックします。
 - ③ 画面の指示に従います。「...は、安全に取り外すことができます。」と表示されたらPCカードの終了処理は完了です。
- 2 カードを取り出します。
 - ① イジェクトボタンを押すとイジェクトボタンが飛び出します。
 - ② イジェクトボタンを押します。Windowsの動作中は、認識音が鳴ります。
カードが勢いよく飛び出すことがあるので落とさないように注意してください。
- 3 PCカードが出てきたら、まっすぐに引き抜きます。
取り外したPCカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。



FAXモデムを使う

本機には56Kbps(V.90対応)の通信速度に対応したFAXモデムボードが搭載され、高速の通信が可能です。



FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

- ・ 構内交換機(PBX)
- ・ 2線式でない回線(ホームテレホンやビジネスホンなど)
- ・ ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

お使いになる前に

使用回線について 本機のFAXモデムは、ダイヤル回線でも、プッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTTへお問い合わせください。ダイヤル回線、プッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトや、Windows上で設定することができます。

ダイヤル回線 : 回転式ダイヤル電話機のように、ダイヤルの戻る時間によりダイヤルパルスを送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

プッシュ回線 : 押しボタン電話機のように、「ピ・ボ・パ・・・」とトーンによる信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

特殊な電話機・回線での使用


PBXやホームテレホン回線への接続

本機のFAXモデムは構内交換機(PBX)やホームテレホン、ビジネスホンなどの2線式でない回線およびISDN対応公衆電話のデジタル側ジャックに接続して使用できません。モデムに必要な以上の電流が流れ、故障の原因になります。これらの回線には接続しないでください。

キャッチホンサービスについて

NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用は避けてください。

なお、この現象を回避できるサービスについては、NTTまたは、類似サービスの供給元へお問い合わせください。


- 通信速度の制限** 本機のモデム機能は、V.90*の通信方式により、最大受信速度(プロバイダなどの相手側から本機側への方向)は56000bps、最大送信速度(本機からプロバイダなどの相手側への方向)は、33600bpsになります。
ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、使用している電話回線が繋がる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。
- * V.90 : ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格
- 通信を行う** モデム機能を使って、データ通信やFAX機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使い方については、通信ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
また、Windowsの通信機能を使用する場合は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。
- ATコマンドについて** 本モデムでは、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドの詳細については、添付の「ドライバCD」の「MODEM」「ATコマンドリファレンス.pdf (英文)」をご覧ください。
 p.178「ATコマンドの使用」
- 国モードの設定について** 本機の「国モード」は、次の場所で「日本」に設定されています。この設定は変更せずに使用してください。
国モードの設定
[スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「システム」-「ハードウェア」タブ-[デバイスマネージャ]-「モデム」をダブルクリック -「HSP56 World Micro Modem」をダブルクリック -「詳細設定」タブ -「国または地域の選択」

インターネットに接続するには

インターネットのホームページを見たり、電子メールを交換するには、インターネットへの接続が必要です。FAXモデムを使用してインターネットに接続する場合の作業の流れは次のとおりです。

電話回線への接続

本機のFAXモデムのコネクタと電話回線を付属のモジュラコードで接続します。

 p.17「電話回線への接続」



ダイヤルするための準備

ダイヤル情報(「国」や「市外局番」など)を設定します。

 p.75「ダイヤル情報の設定」



プロバイダとの契約とアカウントの登録

個人でインターネットを利用するにはインターネット・サービス・プロバイダ(以降プロバイダ)と契約して、接続のための各種設定を行います。


契約方法には大きく分けて次の2つがあります。

①オンラインで契約する。

電話回線を使用してプロバイダと契約します。インターネットに接続している状態で契約を行うため、画面の指示に従って情報を入力していくと、電話番号の登録やネームサーバーアドレスなどの設定が自動的に行われます。その場で契約してすぐ使えますが、支払いについては、クレジットカード決済になります。

②ハガキや電話で申し込み、契約する。

プロバイダにハガキや電話で申し込みをすると、インターネットに接続するための資料が送付されます。資料の内容をもとに、インターネット接続のための設定を各自で行います(ダイヤルアップ接続の設定)。支払いについては、銀行振込などが利用できます。

 p.75「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」



回線接続前の設定

「接続に関する設定」と「Outlook Expressの初期設定」を行います。

 p.78 「回線接続前の設定」



接続

インターネットに接続します。ブラウジング(インターネット閲覧)や、電子メール交換が可能になります。

本書はブラウジングソフトウェア(ブラウザ)として「Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)」、メールソフトウェアとして「Outlook Express(アウトルックエクスプレス)」を使用することを前提に記載しています。

 p.80 「Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方」



モデムを使わずにインターネットに接続する

FAXモデムを使わずに、次の方法でインターネットに接続することができます。

ISDN回線を利用する

FAXモデムの代わりにTA(ターミナルアダプタ)を使用します。接続方法はTAに添付のマニュアルをご覧ください。

ネットワークを利用する

インターネットに接続されたLANなどに接続します。接続を行う際は、お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルや、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

ケーブルテレビの回線を利用する

詳しくはCATV会社にお問い合わせください。

ADSLを利用する

詳しくはADSLサービス会社にお問い合わせください。

プロバイダの選択 プロバイダは、サービスや料金体系、使用頻度やアクセスポイントなどを考慮して、使い方に合わせて選びましょう。不明点はプロバイダにご確認ください。

インターネットにかかる費用 インターネットを利用する場合に発生する費用は以下のとおりです。

初期費用: プロバイダへ契約時に支払います。

入会費、登録料のようなものです。無料の場合もあります。

基本料金: 月または年ごとにプロバイダへ支払います。

通信の有無に関わらず請求される一定の料金です。基本料金だけで数時間は無料で使用できます。使用時間別や通話料金込み、使い放題などのコースがあります。

追加料金: 基本料金での対応時間を超えた分だけプロバイダへ支払います。基本料金で使用できる時間を超えると、分あたりいくらという追加料金が加算されます。

通話料金: プロバイダのアクセスポイントまでの通話料金です。契約している電話会社へ支払います。

アクセスポイントとは、プロバイダが用意している接続地点です。プロバイダへ支払う料金が割安でも、アクセスポイントが市内通話エリアにないと通話料金が割高になります。料金無料のプロバイダもありますが、アクセスポイントが遠いときは、別のプロバイダを選んだ方が良い場合があります。市内通話エリア内にプロバイダのアクセスポイントがあるかどうかを確認しておきましょう。


インターネットを使う上での注意 インターネットや電子メールを利用すると、簡単に情報を得ることができたり、メッセージを手軽に送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないこともあります。次の点に気をつけて使用してください。

電子メールは途中経路の障害などにより、必ずしも届くとは限りません。

電子メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、セキュリティが確保されません。第三者が内容を見る可能性があります。

インターネット上の情報は、正しくない可能性があります。正しい情報であることを充分に見極めて、有効に活用する必要があります。

ウィルスに感染したメールを受信したり、気づかずに送信してしまうことがあります。

 p.86「コンピュータウィルスの検索・駆除」

ダイヤルするための準備

ダイヤル情報の設定 モデムの設定をしていない場合は、市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「電話とモデムのオプション」をクリックします。
- 2 「登録名」、「国/地域」、「市外局番」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。

手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合は、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行います(ダイヤルアップ接続の設定)。次の手順は設定方法の一例です。プロバイダより、設定方法資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。



接続に関する用語一覧

プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
ユーザー名	コネクションID、PPP ログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続ID、ID 番号、接続アカウント、ダイヤルアップログイン名
パスワード	PPP パスワード、パスワード、接続パスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	Mail アカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mail アカウント
メールパスワード	Mail パスワード、パスワード、初期パスワード
メールサーバー	メールサーバー、POP メールサーバー

ダイヤルアップ 接続の設定をする

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート]-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「通信」-「新しい接続ウィザード」をクリックします。
- 2 「新しい接続ウィザードの開始」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 3 「ネットワーク接続の種類」と表示されたら、「インターネットに接続する」にチェックが付いている状態で[次へ]をクリックします。
- 4 「準備」と表示されたら、「接続を手動でセットアップする」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
- 5 「インターネット接続」と表示されたら、「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
- 6 「接続名」と表示されたら、接続先の名前を入力して[次へ]をクリックします。
- 7 「ダイヤルする電話番号」と表示されたら、接続先の電話番号を入力して[次へ]をクリックします。
- 8 「インターネットアカウント情報」と表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」をそれぞれの項目に入力して[次へ]をクリックします。
- 9 「新しい接続ウィザードの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 10 [スタート]-「接続」-「(手順6で設定した接続先の名前)」をクリックします。

- 1 1 [プロパティ] をクリックします。
- 1 2 プロバイダからDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを指定されている場合は次の設定を行います。
 - ❶ 「ネットワーク」タブ - 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」 - [プロパティ] をクリックします。
 - ❷ 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」にチェックを付けます。
 - ❸ 「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを入力し、[OK] をクリックします。
- 1 3 「全般」タブ - 「ダイヤル情報を使う」にチェックを付けて [OK] をクリックします。
- 1 4 [キャンセル] をクリックします。

回線接続前の設定

回線接続前に次の設定を行います。

接続に関する設定

Outlook Expressの初期設定

接続に関する設定 接続に関する設定は次のとおりです。

接続方法の設定

電話回線を使用して、インターネットに接続するように設定をします。

切断画面の設定

Internet Explorerを起動または終了した際に、インターネットとの切断画面を表示するように設定します。

接続に関する設定は、次の手順で行います。

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」-「ネットワークとインターネット接続」-「インターネットオプション」-「接続」タブをクリックします。
- 2 「通常の接続でダイヤルする」にチェックを付けます。
(接続方法の設定)
- 3 [設定]-[詳細設定]をクリックします。
- 4 「接続がなくなったら切断する」にチェックを付けて[OK]をクリックします。(切断画面の設定)
- 5 「(接続先の名前)の設定」画面で[OK]をクリックします。
- 6 「インターネットのプロパティ」画面で[OK]をクリックします。これで接続に関する設定は終了です。

Outlook Expressの初期設定

Outlook Expressをはじめて起動した際には、メールアドレスなどいくつかの情報を入力する必要があります。「オンライン契約」では、この設定が必要ない場合があります。

初期設定は、次の手順で行います。

- 1 [スタート]-「すべてのプログラム」-「Outlook Express」をクリックします。
- 2 「インターネット接続ウィザード」画面で、「名前」と表示されたら、名前を入力して「次へ」をクリックします。
- 3 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得した電子メールアドレスを入力して「次へ」をクリックします。
- 4 「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダから指定されているサーバー名を入力して「次へ」をクリックします。
- 5 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているアカウント名とパスワードを入力して「次へ」をクリックします。
- 6 「設定完了」と表示されたら、「完了」をクリックします。

参考

初期設定をあとから行う

Outlook Expressの初期設定を行わなかった場合は、次の方法で、設定を行うことができます。

「ツール」メニュー - 「アカウント」 - 「追加」 - 「メール」

Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方

この章では、インターネットを利用するためのソフトウェアの使い方について簡単に説明しています。詳しい使い方は、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)

インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。

Outlook Express(アウトルックエクスプレス)


メールを書いたり、送受信するためのソフトウェアです。

起動方法


起動方法は、次のとおりです。

- 1 ソフトウェアを起動します。

Internet Explorer


 - ・[スタート]-「すべてのプログラム」-「Internet Explorer」
 - ・ホットキーの  キーを押します。

Outlook Express

 - ・[スタート]-「すべてのプログラム」-「Outlook Express」
 - ・ホットキーの  キーを押します。

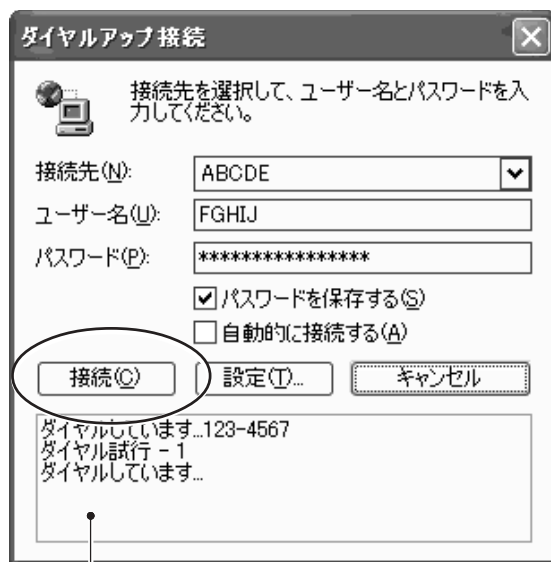
Outlook Expressで、「オンラインに切り替えますか?」と表示されたら、インターネットに接続する場合やメール送受信を行う場合は、[はい] をクリックしてください。

Outlook Expressの初期設定をまだ行っていない場合は、初期設定を行います。

 p.79「Outlook Expressの初期設定」
- 2 「ダイヤルアップ接続」画面が表示されます。「接続先」「ユーザー名」「パスワード」を入力します。

自動的に入力されている項目もあります。

- 3 入力内容を確認して[接続]をクリックします。



[接続]をクリックすると接続状態が表示されます

- 4 接続するとユーザー名や、パスワードの確認が行われます。
接続が完了すると、タスクバーに次の接続アイコンが表示されます。



参考

メールソフトウェア使用時のインターネット接続
インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。

終了方法

Internet Explorerの
場合

Internet Explorerの終了方法は、次のとおりです。

- 1 画面右上の をクリックして、「Internet Explorer」を終了します。
- 2 「自動切断」画面が表示されます。[今すぐ切断する] をクリックします。

Outlook Expressの
場合

Outlook Expressの終了方法は、次のとおりです。


- 1 インターネットに接続している場合は、「ファイル」-「オフライン作業」をクリックします。
- 2 「オフライン状態にする前に、モデム回線を切断しますか？」と表示されたら [はい] をクリックします。
- 3 画面右上の をクリックして、「Outlook Express」を終了します。

Internet Explorerの使い方



画面の内容は予告なく変更する場合があります。

見たいホームページを開くには

- ・アドレスバーにアドレスを入力して  を押します。
- ・キーワードを使って検索します。




[検索] ボタンを押して、検索画面でキーワードを入力します。

「お気に入り」にページを登録する

頻繁にアクセスするページは「お気に入り」に登録しておく、「お気に入り」をクリックするだけで一覧が表示され、すぐにアクセスすることができます。

- ・登録方法: 「お気に入り」- 「お気に入りの追加」をクリックします。

リンクしているページにジャンプする

ホームページの画面上でマウスポインタが  から  に変わる場所があります。  に変わる場所をクリックすると、リンク先のページ(ステータスバーに表示されているアドレス)にアクセスできます。

Outlook Expressの使い方



接続の状態を表示します。
オンライン：インターネットに接続しています。
オフライン：インターネットに接続していません。



メールの作成とインターネット接続

インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。

Outlook Express使用時にインターネットを切断するには、「ファイル」-「オフライン作業」をクリックします。

メールを送信する（オンラインの場合）

- 1 [メールの作成] をクリックしてメール作成画面を表示します。
- 2 必要事項「宛先」「件名」「本文」を入力してメールを作成します。
- 3 [送信] をクリックします。

メールを送信する(オフラインの場合)

- 1 p.84「メールを送信する(オンラインの場合)」1、2を参照して、メールを作成します。
- 2 [送信]をクリックすると、「送信トレイ」フォルダにメールが一時保存されます。
複数のメールを作成し、一度に送信することができます。
- 3 [送受信]をクリックして、「...オンラインに切り換えますか?」と表示されたら[はい]をクリックします。
- 4 「ダイヤルアップ接続」画面で[接続]をクリックします。
接続が完了すると「送信トレイ」に保存されていたメールが送信されます。

メールを受信する

- 1 「Outlook Express」を起動してインターネットに接続すると自動的に受信します。
インターネットに接続されていない場合は、[送受信]をクリックすると接続作業が行われます。
- 2 受信したメールはフォルダの「受信トレイ」に格納されます。
「受信トレイ」をクリックすると、画面右側に、受信メールの一覧と内容が表示されます。

アドレス帳を作る

アドレス帳にメールアドレスを登録しておく、メールを送信するときに宛先をアドレス帳から選択できます。

- 1 [アドレス]をクリックします。
- 2 [新規作成]をクリックして、[新しい連絡先]をクリックします。
- 3 情報を登録します。「表示名」と「電子メールアドレス」は必ず入力します。

コンピュータウィルスの検索・駆除

本機にはコンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「Norton AntiVirus2002」が添付されています。購入時には「Norton AntiVirus2002」がインストールされていませんので、インストールを行ってください。

 p.87「インストールする前に」

コンピュータウィルスとは

第三者のプログラムやデータベースに対して意図的に何らかの被害を及ぼすように作られたプログラムです。外部とデータをやり取りすることで感染する危険があります。インターネットや電子メールの普及とともに、コンピュータウィルスに感染する可能性はますます高くなってきています。

ウィルスの被害に遭わないために

コンピュータウィルスの被害に遭わないために、次の内容を実施することをおすすめします。

ウィルス検索・駆除ソフトウェアを使用し、ウィルス定義ファイルは常に最新のものを使用する。

メールの添付ファイルはウィルスチェックをしてから開く。

外部から持ち込まれたFDやダウンロードしたファイルはウィルスチェックをしてから使用する。

万一のウィルス被害に備えてデータのバックアップを取る。

ウィルスに感染してしまったら

コンピュータウィルスに感染してしまった場合は、感染被害の拡大と再発の防止のため、「情報処理振興事業協会」に届出を出してください。

詳しくは、「情報処理振興事業協会」の下記アドレスを参照してください。

<http://www.ipa.go.jp>

インストールする前に

Norton AntiVirus2002をインストールする前に、ウイルス定義ファイルについて必ずご確認ください。

ウイルス定義ファイルとは

ウイルス情報が登録されているファイルです。Norton AntiVirus2002は、ウイルス定義ファイルを使用して、お使いのコンピュータにウイルスが侵入しないように、常に監視します。新種のウイルスからお使いのコンピュータを守るためには、最新のウイルス定義ファイルに更新していく必要があります。

更新するためには ウイルス定義ファイルの更新(購読)は、Norton AntiVirus2002のLiveUpdate機能を使用して行います。LiveUpdate機能を使用するためには、インターネットへの接続環境が必要です。

LiveUpdate機能についての詳細は、Norton AntiVirus2002のヘルプ、またはオンラインマニュアルをご覧ください。

 p.91「Norton AntiVirus2002の使い方」

更新期限について ウイルス定義ファイルの更新には期限が定められています。本コンピュータに添付のNorton AntiVirus2002は製品版ではありませんので、更新期限は、Norton AntiVirus2002をインストールしてから90日間になります。90日間は、無償でウイルス定義ファイルを更新することができます。

ただし、90日経過以降にウイルス定義ファイルを更新する場合は、Symantec社に購読サービスの継続を申し込み、更新権を購入(有償)する必要があります。更新権を購入する際は、次のアドレスをご覧ください。

<http://shop.symantec.co.jp/AttachmentKey.asp>

更新権が無効になる場合

更新権を購入してウイルス定義ファイルの購読サービスを継続している場合に、次の事項を行うと、更新権が無効になり、再度更新権を購入(有償)する必要があります。あらかじめご了承ください。

Windowsを再インストールする

Windowsをアップグレードする

リストア(システムを復元)する

ウイルス定義ファイルの更新についての詳細は、Symantec社のホームページでもご覧いただけます。

<http://www.symantec.co.jp>

Norton AntiVirus2002のインストールとセットアップ

Norton AntiVirus2002では、インストールを行ったあとに、セットアップを行います。これらの作業は、「コンピュータの管理者 (Administrator)」権限を持っているユーザー名でログオンして行ってください。

インストール方法 Norton AntiVirus2002のインストール手順は、次のとおりです。

- 1 5.25型ドライブに「ドライバCD」をセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。表示されない場合は、「マイコンピュータ」-「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「Norton AntiVirus のインストール」を選択して「開始」をクリックします。
- 3 「Norton AntiVirus2002 Installation Wizard へようこそ」と表示されます。「次へ」をクリックします。
- 4 「ライセンス契約書」と表示されたら、契約内容に同意するかしないかを設定します。
- 5 「宛先フォルダ」と表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 6 「アプリケーションのインストール準備をする」と表示されたら、「次へ」をクリックします。インストールが始まります。
- 7 「Readme 情報」と表示されたら、内容を確認して「次へ」をクリックします。
- 8 「Norton AntiVirus2002は、正常にインストールされました。」と表示されたら、CD-ROM を取り出し「終了」をクリックします。
- 9 「スタート」メニューからコンピュータを再起動します。コンピュータが再起動すると、Norton AntiVirus2002のインストールは終了です。

セットアップ方法 Norton AntiVirus2002のインストールが終了したら、セットアップを行います。セットアップ手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート]-「(すべての)プログラム」-「Norton AntiVirus」-「NortonAntiVirus2002」をクリックします。
- 2 「Norton AntiVirus 情報更新ウィザード」画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 3 「使用許諾契約」と表示されたら、契約内容に同意するかどうかを設定します。
- 4 「購読サービス」と表示されたら、内容をよくお読みになり「次へ」をクリックします。
ここでは、ウイルス定義ファイルの更新に関する重要な内容が表示されません。必ずお読みください。
- 5 「インストール後のタスク」と表示されます。実行したい各項目にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
LiveUpdateを実行する場合は、インターネット接続環境が必要です。インターネット接続環境が整っていない場合は、チェックを外します。
- 6 「概略」と表示されたら、「インストール後のタスク」と「設定」の内容を確認して「完了」をクリックします。
- 7 手順5 で設定したタスクが実行されます。以降は、画面の指示に従ってセットアップを行ってください。タスクが終了すると、Norton AntiVirus2002のセットアップは終了です。

Norton AntiVirus2002使用時の注意

Norton AntiVirus2002がインストールされている状態で、新しくデバイスドライバやソフトウェアをインストールすると、インストール中に「警告」画面が表示されることがあります。このような場合は、下記を参照して、対処してください。

弊社から供給のドライバやソフトウェアをインストールしている場合

インストール作業を続行してください。メッセージ内の「処理」欄から、「スクリプト全体を1回実行する」を選択して、インストール作業を続行します。弊社製のドライバやソフトウェアには、主に次のようなものがあります。

- ・ コンピュータに添付のCDに登録されているドライバやソフトウェア
- ・ 弊社ホームページよりダウンロードしたドライバやソフトウェア

弊社から供給以外のドライバやソフトウェアをインストールしている場合

インストールを中止してください。その後、ドライバやソフトウェアの製造元にお問い合わせください。

弊社製以外のドライバやソフトウェアには、主に次のようなものがあります。

- ・ 弊社以外から購入した製品に添付されているドライバやソフトウェア
- ・ ホームページ上のソフトウェア

Norton AntiVirus2002の使い方

Norton AntiVirus2002の詳しい使用方法や操作方法などについては、Norton AntiVirus2002のヘルプやオンラインマニュアルをご覧ください。

Norton AntiVirus2002のヘルプ

「Norton AntiVirus2002」を起動して「ヘルプ」をクリックすると、ご覧いただけます。

オンラインマニュアル

「ドライバCD」に、PDF ファイルで登録されています。

オンラインマニュアルを開く方法は、次のとおりです。

- 1 DVD+RW/+Rドライブに「ドライバCD」をセットします。
自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されますが、特に操作を行う必要はありません。
- 2 [スタート]-「マイコンピュータ」のCD-ROM アイコンを右クリックして「開く」を選択します。
- 3 「NAV2002」-「MANUAL」-「NAV2002」にある「NAV_2002.pdf」をダブルクリックします。



参考

PDF ファイルをコピーする

デスクトップ上にPDF ファイルをコピーしておくと、以降はPDF ファイルのアイコンをダブルクリックするだけで、マニュアルを見ることができます。

省電力機能を使う

省電力機能を利用すると、コンピュータを使用していない間、ディスプレイの電源を切ったり、省電力モードに移行して、消費電力を抑えることができます。本章では、Windowsでの省電力機能について説明しています。




ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。

CD-Rメディア、CD-RWメディア、DVD+RWメディアおよびDVD+Rメディアへの書き込み中に省電力モードに移行すると、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを行う場合は、省電力モードを無効にしてください。

 p.55「メディア書き込み時の注意」

ビデオ編集を行う場合は省電力モードを無効にしてください。

 『Symphomovieユーザーズマニュアル』

省電力モードに移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書やデータなど)は保存しておいてください。

サウンド機能を使って録音・再生している場合に、省電力モードに移行するとサウンド機能が正常に動作しない可能性があります。

省電力モード移行中にPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

周辺機器を接続している場合や、アプリケーションを起動している場合などに、省電力機能が動作しないことがあります。

省電力機能の種類

省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。

スタンバイ

作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプは緑色に点滅します。BIOSの設定(ACPI Suspend to RAM)により、消費する電力量などが異なります。

 p.94「スタンバイの動作状態」

休止状態

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。

電源ランプの表示 省電力モードの状態は、電源ランプの点灯または点滅によって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	緑点滅
休止状態	消灯
電源切断時	消灯

省電力機能を実行する前の確認事項

省電力機能を実行する前に、次の事項を確認してください。

スタンバイの動作状態

「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を、「Enabled」または「Disabled」に設定することにより、スタンバイの動作状態が異なります。

「Power」メニュー画面 - 「ACPI Suspend to RAM」

購入時には、「Enabled」に設定されています。

「Enabled」設定時

「Enabled」に設定してスタンバイを実行すると、作業内容をメモリに保持した状態で、本機のメモリ以外の電源が切れます。そのため電力はほとんど消費されません。

「Disabled」設定時

「Disabled」に設定してスタンバイを実行すると、作業内容をメモリに保持した状態で、不必要な電源が切れます。電力消費は通常モードの約半分になります。

スタンバイ実行時の制限事項

「ACPI Suspend to RAM」を「Enabled」に設定してスタンバイを実行する際には、次のような制限事項があります。

スタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しません。この場合は、本機の電源を切ってからもう一度入れ直してください。

スタンバイが正常に動作しない場合は、相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。

「Disabled」に設定してスタンバイを実行してください。

休止状態を有効にする

本機は、Windowsを再インストールした際には、「休止状態を有効にする」にチェックが付いていません。休止状態を有効にする方法は次のとおりです。

[スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「電源オプション」-「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」にチェックを付けます。



実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。省電力モードを実行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書など)を保存しておくことをおすすめします。

① 時間経過で実行

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないと省電力モードに移行します。

② 直ちに実行

席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力に関する各種設定は、「スタート」-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「電源オプションのプロパティ」画面の各タブで行います。

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



設定した時間を超えて何も操作しないと、各省電力モードに移行します。

直ちに実行

次の方法で、スタンバイ、または休止状態に移行します。

キーボード上のスタンバイキー()を押します。この場合はスタンバイに移行します。

[スタート]-「終了オプション」-「スタンバイ」をクリックします。

[スタート]-「終了オプション」で、**[Shift]** キーを押しながら「スタンバイ」をクリックします。この場合は、休止状態に移行します。

電源スイッチを押して実行します。

電源スイッチを押したときにどのモードに入るかを「詳細設定」タブで設定します。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD、ディスプレイの電源が切れている状態	緑点灯	マウス、キーボードを操作する。 (誤って電源スイッチを押さないでください。)
スタンバイ (ACPI Suspend to RAM: Enabled)	緑点滅	電源スイッチを押す。
スタンバイ (ACPI Suspend to RAM: Disabled)		キーボードやマウスを操作する。
休止状態	消 灯	電源スイッチを押す。

そのほかの機能

ネットワーク機能を使う

本機のメインボードにはネットワーク機能が搭載されています。ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、ネットワークケーブルやハブ、サーバーなどが必要です。そのほかに、Windows上で、ネットワーク接続に必要なプロトコルの設定なども必要になります。ネットワークの構築は、お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルや、ネットワーク管理者の指示に従って行ってください。



制限

ネットワーク上のファイルなどを開いたままだと、省電力モードに移行できないことや通常モードに復帰できないことがあります。

おもな機能
について

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、Wakeup On LANやリモートブートなどの機能を使用できます。

Wakeup On LAN

Wakeup On LANとは、電源切断時にネットワークからの信号により本機を復帰させることができる機能です。ただし、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。分電盤またはOAタップなどにより、コンピュータ本体の電源をいったん切断して再度供給した場合は正常に動作しない場合があります。Wakeup On LANの詳しい使用方法是ネットワーク管理者の指示に従ってください。



参考

Wakeup On LANを設定している場合

BIOSの設定で、Wakeup On LANが有効に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピュータが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。

リモートブート

本機はリモートブートを使用することができます。

リモートブートを使用すると、コンピュータ側のHDDにOSがインストールされていない場合でも、ネットワークを介して、サーバー上からOSをインストールすることができます。

リモートブートを行う場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

USBコネクタを使う

本機には、USB2.0に対応したUSBコネクタが前面に2個、背面に2個用意されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。4個のUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用してもかまいません。

転送速度

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コントローラに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

接続と取り外し

USB機器の接続、取り外しは電源が入っている状態で行えます。接続する周辺機器によっては、デバイスドライバが必要です。

また、USB機器の接続を行った際に、タスクバーに次のようなアイコンが表示された場合は、取り外しを行う前にWindows上で終了処理が必要です。

詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをお読みください。



制限

USB HDDなどの大容量記憶装置を接続したまま、コンピュータの電源を入れると、Windowsが起動するまでに5分くらい時間がかかる場合があります。この場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で「Removable Device」の順番を「IDE Hard Device」より下に設定します。

 p.130「Bootメニュー画面」

コンピュータの電源コードが接続されている状態では、常にUSBポートに5Vの電力が供給されています。たとえば、光学式のUSBマウスなどを接続しておくと、コンピュータの電源を切った状態でも、マウスが光り続けます。これは、製品の仕様で、故障ではありません。

IEEE 1394 コネクタ

本機には、4ピンのIEEE1394コネクタが前面に1個用意されています。

接続と取り外し


IEEE1394機器の接続、取り外しは、電源が入った状態で行えます。ただし、タスクバーに次のようなアイコンが表示される場合は、Windows上での終了処理が必要です。



IEEE1394コネクタに接続する周辺機器によってデバイスドライバが必要です。詳しくは、接続する周辺機器のマニュアルをご覧ください。


パラレルコネクタ

本機背面のパラレルコネクタには、プリンタなどを接続します。本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指定がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.128 「Advanced」メニュー画面 - 「I/O Device Configuration」

シリアルコネクタ

本体背面のシリアルコネクタにはシリアルマウスやTA(ターミナルアダプタ)などを接続します。本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常はシリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指定がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.128 「Advanced」メニュー画面 - 「I/O Device Configuration」

ビデオ編集をする

本機には、ビデオ編集のためのソフトウェア「Symphomovie」がインストールされています。デジタルビデオからの画像の取り込み、編集を行うことができます。デジタルビデオとの接続や、編集方法などSymphomovieのくわしい使用方法是、『Symphomovieユーザーズマニュアル』をご覧ください。

テレビを見る、録画する

本機には、TVチューナボードが内蔵されています。インストールされているソフトウェア「Symphovision」を使用して、テレビを見たり、録画することができます。接続やテレビを見る、録画するなど「Symphovision」の詳しい使用方法是、『Symphovisionユーザーズマニュアル』をご覧ください。



システムの拡張


コンピュータに内蔵オプション装置を装着して機能を拡張する方法を説明します。

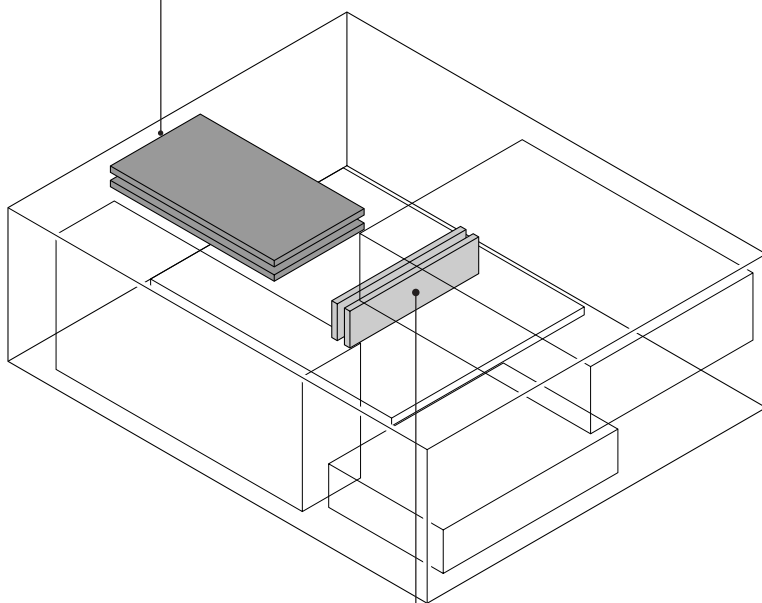
拡張できる装置

本機は、内蔵メモリや拡張ボードを増設・交換して機能を拡張することができます。

拡張スロット

本機にはPCI仕様のスロットが2本装備されています。PCI仕様の拡張ボードを2枚装着できますが、購入時にFAXモデムボード、TVチューナボードが装着済みのため、拡張ボードを増設することはできません。ほかのボードを装着するには、FAXモデムボードかTVチューナボードと交換する必要があります。

 p.112「拡張ボードの装着」



DIMMソケット

本機にはDIMMソケットが2本用意されており、内蔵メモリを768MBまで拡張することができます。

 p.108「DIMMの増設」

作業時の注意

コンピュータ内部に拡張ボードやDIMMを装着する場合は、必ず以下の点を確認してから作業を始めてください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



拡張ボードやDIMMの交換、増設は、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
不安定な場所(ぐらついた机の上や、傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



本機は電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電流が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

拡張ボードやDIMMの取り付け・取り外しを行うときは、裏表や前後を間違えないでください。間違えて装着すると故障の原因になります。本書や拡張ボードに添付のマニュアルの指示に従って、正しく装着してください。
コンピュータおよび接続している周辺機器の電源を切ってください。
コンピュータ内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
作業直前には、金属のものに触れるなどして、静電気を逃がしてから作業を行ってください。
DIMM、拡張ボードの端子部やコネクタ部に触れないでください。

本体カバーの取り外し・取り付け



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。

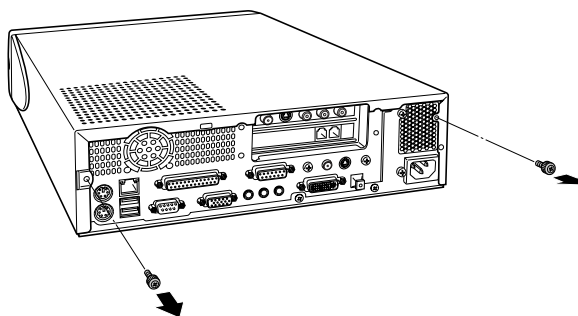
本体カバーの取り外し・取り付け

取り外し

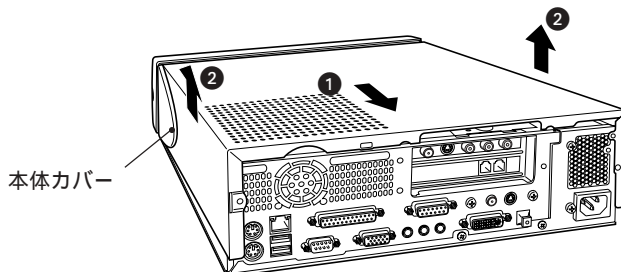
本機の内部に拡張ボードやDIMMを装着する場合は、本体カバーを外す必要があります。

本体カバーは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。作業は、コンピュータからスタンドを外し、横置きにして行います。

- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 電源コード、キーボード、ケーブルなどすべてのケーブル類をコンピュータ本体から外します。
- 3 本体背面のネジ(2本)を外します。



- 4 本体カバーを取り外します。
 - ① 本体カバーを背面側にずらします。
 - ② 本体カバー側面の両側を持ち上げます。

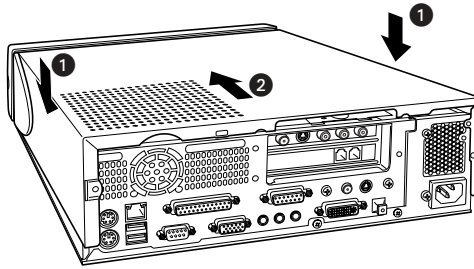


取り付け

1

本体カバーを取り付けます。

- ① 本体カバーを本体側面の両側にはめ込みます。
- ② 本体背面からフロントパネル側に向けて押し込みます。



2

ネジ(2本)で本体カバーを固定します。

DIMMの増設

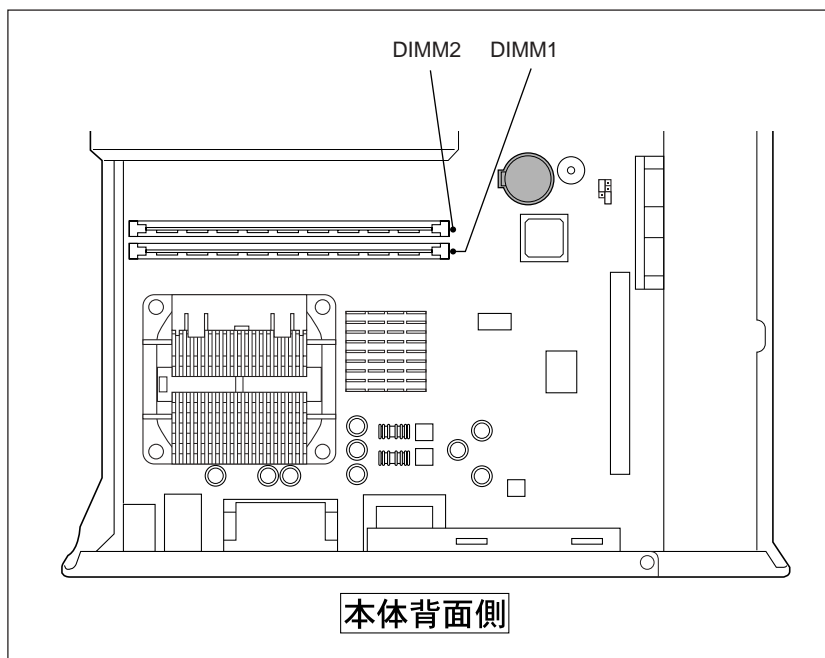
本機で、使用可能なDIMM(メモリ)の仕様とDIMMの取り付け方法について説明します。



本機では、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メインメモリ容量の表示は、ビデオメモリ容量を差し引いて表示されます。

DIMMの仕様

本機には、2つのDIMMソケットが用意されており、DIMMの交換、増設することにより最大1GBまで拡張できます。DIMMはDIMM1ソケットから取り付けます。購入時には、DIMM1ソケットにあらかじめDIMMが取り付けられています。



DIMMを増設する場合は、下記仕様と一致するDIMMを、弊社のオプション一覧より選択してください。

PC2100 DIMM(DDR266 SDRAM使用、184ピン)

メモリ容量* 256MB、512MB

Non ECC

* 今後、新しい容量のメモリを取り扱う場合があります。

最新のオプション一覧は、ホームページに掲載しています。下記URLのホームページをご覧ください。



<http://www.epsondirect.co.jp>

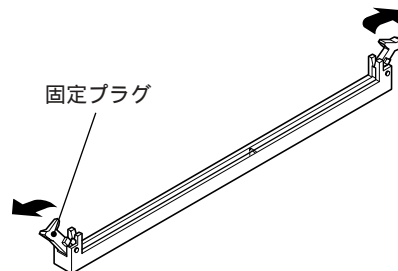
DIMMの取り付け

作業を始める前にp.67「作業時の注意」を必ずお読みください。

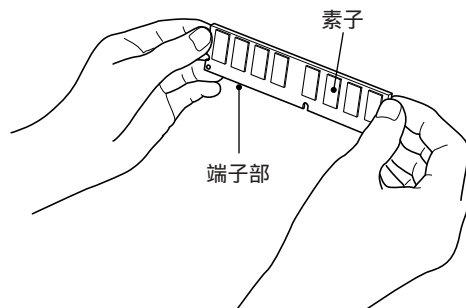
作業は、コンピュータを横置きにして行います。DIMMの取り付け方法は次のとおりです。

取り付け

- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。
- 2 本体背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 3 本体カバーを取り外します。
 p.106「本体カバーの取り外し」
- 4 拡張ボードが作業の妨げとなる場合は取り外します。
 p.113「拡張ボードの交換」
- 5 DIMMソケットの固定プラグを開きます。

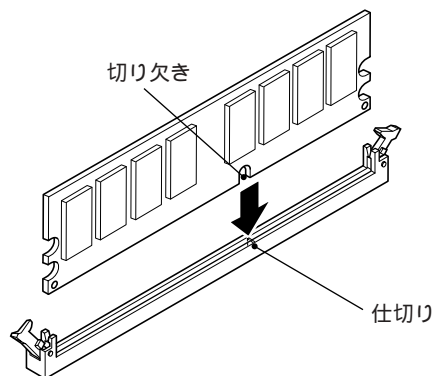


- 6 DIMMを静電気防止袋から取り出します。DIMMの端子部や素子に触れないように注意します。




7 DIMMソケットにDIMMを差し込みます。


- ① DIMMの切り欠きをDIMMソケット内の仕切りに合わせます。
- ② さらに押し込むと、固定プラグが閉じて、DIMMが固定されます。



8 手順4で拡張ボードを取り外した場合は、もとどおりに取り付けます。

 p.113「拡張ボードの交換」

9 本体カバーを取り付けます。

 p.107「取り付け」

10 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

11 メモリ容量を確認します。

- ① コンピュータの電源を入れたら **Delete** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.119「BIOS Setupユーティリティの操作」

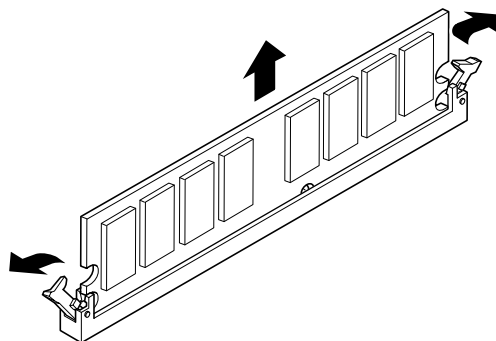
- ② 「Main」メニュー画面の「Installed Memory」に表示されている総メモリ容量を確認します。

装着したDIMMの容量だけメモリ容量が増えていればDIMMは正しく取り付けられています。増えていない場合は、正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付け直してください。

DIMMの外し方

1

DIMMの両端を固定している固定プラグを開きます。



2

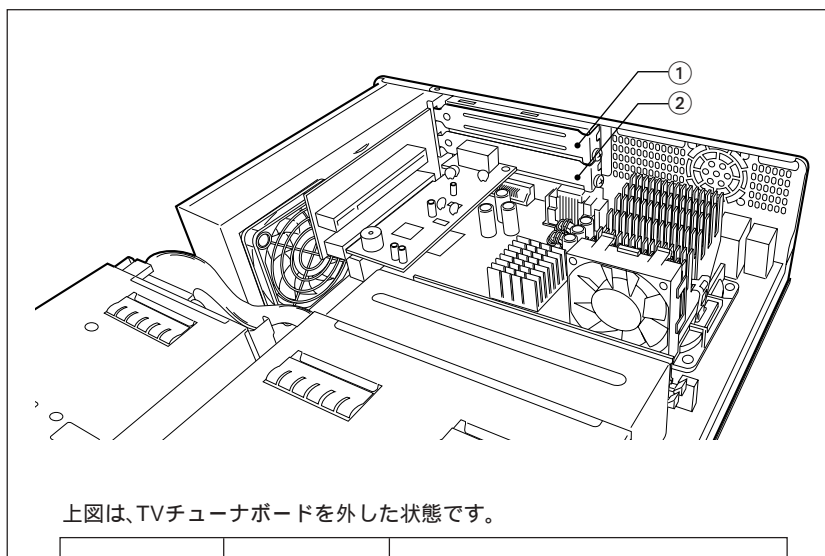
DIMMが外れたら静かに取り外し、静電気防止袋に入れて保管してください。

拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と拡張ボードを取り付ける方法について説明します。
本機には拡張スロットが2本装備されていますが、FAXモデムボード、TVチューナボードが装着済みのため、拡張ボードを増設することができません。ほかの拡張ボードを装着する場合は、FAXモデムボードかTVチューナボードと交換して装着します。

拡張スロットの仕様

本機には、拡張スロットが2つあります。使用できる拡張スロットの仕様は、次のとおりです。



スロット番号	コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ (mm)
①	PCI	ボード長150mm × ボード幅107mmまで
②	PCI	ボード長120mm × ボード幅55mmまで

拡張ボードの交換


本機には、すでにFAXモデムボード、TVチューナボードが装着されています。ほかの拡張ボードを使用する場合、FAXモデムボードかTVチューナボードと交換する必要があります。

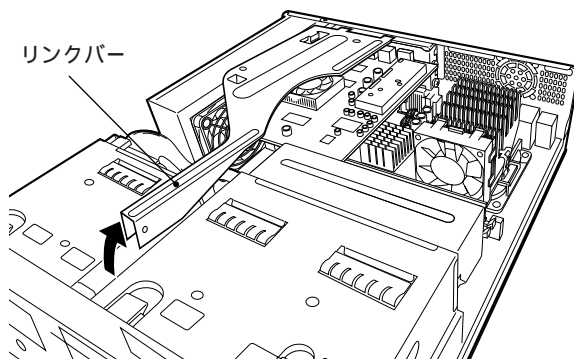
拡張ボードを交換する前に、p.105「作業の注意」と「拡張ボードに添付のマニュアル」を必ずご覧ください。

交換方法

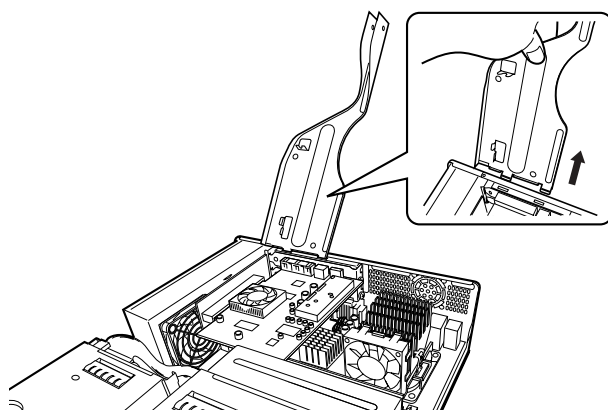
FAXモデムボードまたはTVチューナボードと拡張ボードの交換方法は、次のとおりです。

作業は、コンピュータを横置きに行います。また、FAXモデムボード(スロット②)を外す作業は、必ずTVチューナボードを外してから行ってください。

- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。
- 2 本体背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 3 本体カバーを取り外します。
 p.106「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4 リンクバーを外します。
① リンクバーをドライブベイ側から持ち上げます。このとき周辺の部品やケースの角などで手を切らないように気を付けてください。



- ② リンクバーを背面側へ持ち上げます。作業の邪魔になる場合は、リンクバーを取り外してください。



5 装着済みのボードを取り外します。

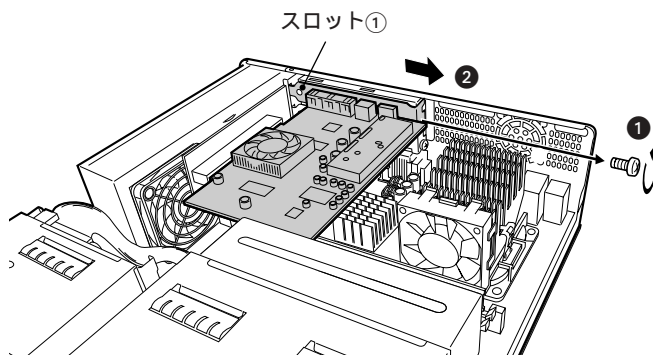
< 拡張ボードとTVチューナボードを交換する場合 >

- ① TVチューナボードを固定しているネジを外します。
 - ② TVチューナボードを矢印の方向に引き抜きます。
- 取り外したTVチューナボードは大切に保管してください。

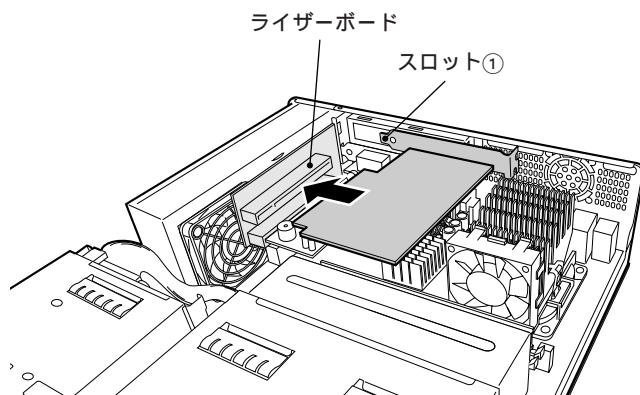
< 拡張ボードとFAXモデムボードを交換する場合 >

- ① ②と同様の手順でTVチューナボードとFAXモデムボードを外します。
- 取り外したFAXモデムボードは大切に保管してください。

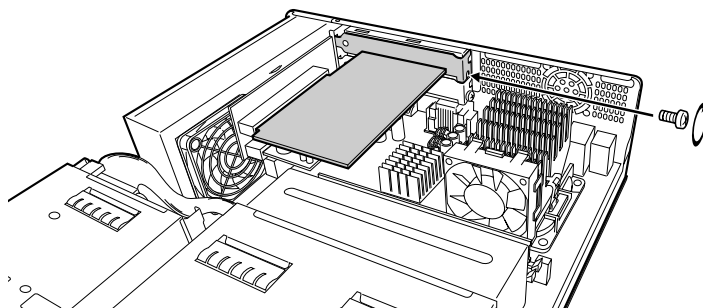
交換した拡張ボードを外したあと、別の拡張ボードを装着しない場合は、再びTVチューナボード(FAXモデムボード)を装着してください。




- 6 拡張ボードを、拡張スロットに差し込みます。
 拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていることを確認し、ライザーボードを手で軽く押さえながら拡張ボードをゆっくり押し込みます。
 拡張ボードとFAXモデムボードを交換した場合、必ずTVチューナボードをスロット①に装着してください。



- 7 拡張ボードをネジで固定します。



- 8 リンクバーをもとの位置に戻します。
- 9 本体カバーを取り付けます。
 p.107「取り付け」
- 10 コンピュータを使用できるように、取り外した本体背面のケーブル類を接続します。



BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
パスワードを設定する場合


BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、リセットしても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうなどの現象が頻発するような場合にはリチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 p.172「リチウム電池の交換」



制限

BIOS Setupユーティリティで、設定を変更する場合には、必ず購入時の設定値（初期値）と、変更後の設定値を記録しておいてください。万一、システムが動作しなくなった場合や、リチウム電池の寿命などでCMOS RAMのデータが失われた場合でも、もとに戻すことができます。

 p.131「BIOSの設定値」

BIOS Setupユーティリティには、ハードウェアに依存した詳細な項目も含まれています。このような項目を誤って変更すると、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。万一、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になった場合には「Load Setup Defaults」（初期値に戻す）を実行してください。

 p.122「設定値をもとに戻すには」

BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの起動

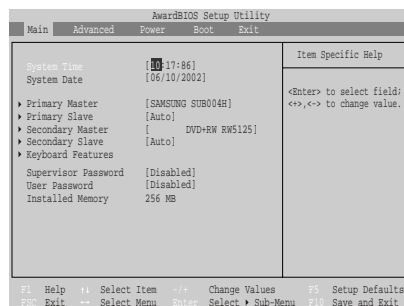
1 コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合は、一旦電源を切り、再び電源を入れます。

2 右の画面が表示されたらすぐに **Delete** を押します。

Press [TAB] to show POST screen, [DEL] to enter SETUP
このメッセージが表示されている間に **DEL** を押さないとWindowsが起動します。



3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。




BIOS Setupユーティリティ画面 (イメージ)

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、コンピュータの電源を入ると、次のメッセージが表示されることがあります。

「 Press F1 to continue, DEL to enter SETUP 」

このメッセージが表示されたら **Delete** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Exit Saving Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

 p.123「BIOS Setupユーティリティの終了」

F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

BIOS Setupユーティリティの操作

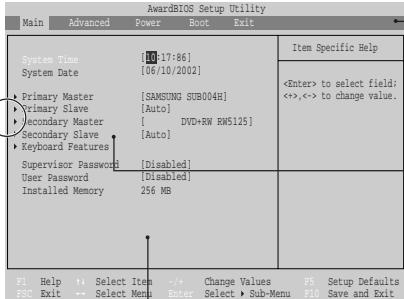
「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

操作は、次の順番で行います。

- ① 「処理メニュー」を選択
- ② 「設定項目」を選択
- ③ 「設定値」を選択

詳しい操作方法は、次のとおりです。各設定項目の説明は、p.100をご覧ください。

<メニュー画面>

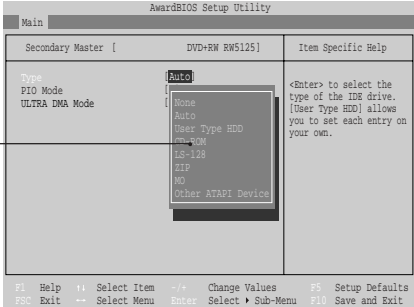


① 処理メニューを選択
→ ← で変更します。
起動直後は、「Mainメニュー画面」が表示されています。

② 設定項目を選択
↑ ↓ で変更します。

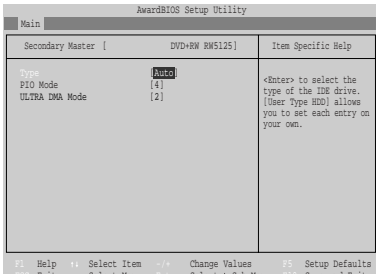
③ 設定値を選択
黒字表示されていると、設定変更可能です。
+ / - を押すと値が変わります。
← を押すと「選択ウィンドウ」が表示されます。

<選択ウィンドウ>
選択ウィンドウ内の設定値を
↑ ↓ で変更し、← で設定します。



▶ マークの付いている設定項目を選択して ← を押すと、「サブメニュー画面」が表示されます。

<サブメニュー画面>



「サブメニュー画面」での設定方法は、「メニュー画面」での設定方法と同様です。
Esc を押すと<メニュー画面>に戻ります。

キー操作

キー	操作できる内容
F1 , Alt + H	ヘルプを表示します。
Esc	<ul style="list-style-type: none"> ・「EXIT」画面を表示します。 ・「サブメニュー画面」から「メニュー画面」に戻ります。
↑ , ↓	設定を変更する項目を選択します。
← , →	処理メニューを選択します。
- , +	項目の値を変更します。
↵	<ul style="list-style-type: none"> ・メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ・選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ・設定値を選択します。
F5	全設定項目の値を、初期値に変更します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。
Page Up , Home	画面の中の最初の項目に移動します。
Page Down , End	画面の中の最後の項目に移動します。

設定値をもとに戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup
Defaults
(初期値に戻す)

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に変更します。

- 1 **F5** を押す、または「Exit」メニュー画面 - 「Load Setup Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load default configuration now ?	
[Yes]	[No]

- 2 BIOSの設定を初期値に戻す場合は、[Yes]を選択して **↵** を押します。

Discard
Changes
(前回保存した
設定値に戻す)

変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exit」メニュー画面 - 「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load previous configuration now ?	
[Yes]	[No]

- 2 BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、[Yes]を選択して **↵** を押します。

BIOS Setupユーティリティの終了

BIOS Setupユーティリティを終了するには、次の2とおりの方法があります。

Exit & Save
Changes
(変更した内容を
保存し、終了する)

- 1 **F10** を押す、または「Exit」メニュー画面 - 「Exit & Save Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Save configuration changes and exit now ?	
[Yes]	[No]

- 2 変更した設定値を保存して終了する場合は [Yes] を選択し、**←** を押します。

Exit & Discard
Changes
(変更した内容を
破棄し、終了する)

- 1 「Exit」メニュー画面 - 「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Discard configuration changes and exit now?	
[Yes]	[No]

- 2 変更した設定値を保存せずに終了する場合は [Yes] を選択し、**←** を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。


- Mainメニュー画面 : 日付、時間、FDD、HDDやパスワードなどの設定を行います。
- Advancedメニュー画面 : CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。
- Powerメニュー画面 : 省電力機能に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面 : システムを起動するドライブの順番の設定やコンピュータの動作状態の設定などを行います。
- Exitメニュー画面 : BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。

Mainメニュー画面

■ は初期値

*印は項目表示のみ

System Time(hh:mm:ss)時間の設定	時刻を設定します。
System Date(mm:dd:yy)日付の設定	日付を設定します。

Primary Master Primary Slave Secondary Master Secondary Slave (IDE装置の設定) 表示される詳細 項目は、選択する ドライブにより 異なります。	Type	IDE装置の仕様を設定します。 IDE装置の仕様を設定します。通常は「 Auto 」を指定します。「 Auto 」で自動的に仕様が設定されない古いIDE装置を使用する場合には「 User Type HDD 」などを選択して各項目を設定します。 None : IDE装置を接続しない場合を選択します。 Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。 User Type HDD : 以降のHDDに関する仕様を個別に設定することができます。 CD-ROM : CD-ROMドライブに関する項目を個別に設定することができます。
	Translation Method	HDDの記憶容量のモードを設定します。 LBA : 容量が528MB以上でLBA(Logical Block Addressing)をサポートしているHDDを接続している場合を選択します。 LARGE : 容量が528MB以上でLBAをサポートしていないHDDを接続している場合を選択します。 Normal : 容量が528MB以下のHDDを接続している場合を選択します。 Match Partition Table : HDDの記憶容量のモードを自動的に判別して設定します。 Manual : 「 Cylinders 」、「 Head 」、「 Sector 」項目を個別に設定します。
	Cylinders	HDDのシリンダ数を設定します。
	Head	HDDのヘッド数を設定します。
	Sector	HDDのセクタ数 (1シリンダ当たり) を設定します。
	*CHS Capacity	HDDの最大容量(CHS)を表示します。
	*Maximum LBA Capacity	HDDの最大容量(LBA)を表示します。
	Multi-Sector Transfers	1度に何セクタ転送するかを設定します。最適でない設定にすると、HDD転送速度が落ちる可能性があります。 Disabled : 複数のセクタを転送しません。 2,4,8,16,32 Sectors : 転送セクタを設定します。 Maximum : HDDがサポートする最大セクタサイズを設定します。
	SMART Monitoring	初期値「 Disabled 」のまま使用します。
	PIO Mode	IDE装置の転送モード(PIO)を設定します。 0/ 1/ 2/ 3/ 4 : 転送モードを設定します。
	ULTRA DMA Mode	Ultra DMA対応装置の転送モードを設定します。 0/ 1/ 2/ 3/ 4/ 5 : 転送モードを設定します。 Disabled : 使用しません。
Keyboard Features		キーボードに関する設定を行います。
	Boot Up NumLock Status (起動時の NumLock の設定)	起動時の NumLock の状態を設定します。 Off : NumLock が押されていない状態にします。 On : NumLock が押された状態にします。
Supervisor Password User Password		コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。初期値は「 Disabled 」です。  p.126 「 Password の設定 」
Installed Memory		メモリ容量を自動的に表示します。

Passwordの設定

Supervisor
/User Password

この機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時などにパスワードの入力が要求され、正しいパスワードを入力しないとコンピュータを使用することができなくなります。

パスワードには「Supervisor Password(管理者パスワード)」と「User Password(ユーザーパスワード)」の2種類があり、「Main」メニュー画面の「Supervisor Password」および「User Password」項目で設定します。それぞれの「Password」の詳細は以下のとおりです。

	パスワード項目	設定値	BIOS Setup ユーティリティ起動時	起動時 Windows
1	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1変更可能)	○
	User Password	Enabled	○ (一部項目*2のみ変更可能)	○
2	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1変更可能)	×
	User Password	Disabled	×	×
3	Supervisor Password	Disabled	×	×
	User Password	Enabled	○ (全項目*1変更可能)	○

○: パスワード要求あり ×: パスワード要求なし

*1: BIOS Setup ユーティリティの変更可能な全項目を指します。


*2: 次の項目を指します。



「Main」メニュー画面 - 「System Time」、「System Date」、「User Password」

「Exit」メニュー画面 - 「Exit Saving Changes」、「Exit Discarding Changes」

パスワードの 設定・変更

パスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

- 1 「Supervisor Password」または、「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 任意のパスワードを入力し、 を押します。
 「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの
 大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。
- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入
 力し、 を押します。
 同じパスワードを入力しないと、手順1のメッセージに戻ります。

Confirm Password:
- 4 パスワードの設定が完了すると、設定したパスワード項目の値が「Enabled」に変
 わります。





制限

登録したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは、書き移して保管して
 おくことをおすすめします。

万一、パスワードを忘れた場合は、p.175「CMOS RAMの初期化」を実行します。ただ
 し、CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報がすべてクリアされます。

パスワード の削除

- 1 「Supervisor Password」または、「User Password」を選択して  を
 押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 何も入力せずに  を押すと、選択したパスワード項目の値が「Disabled」に
 変わります。これでパスワードが削除されます。

Advancedメニュー画面

*CPU Speed	コンピュータに搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
*CPU Frequency Multiple	CPUベースクロックの倍率を表示します。
*CPU External Frequency	CPUベースクロックを表示します。
I/O Device Configuration	周辺デバイスのアドレス設定を行います。
Onboard Serial Port 1 (シリアルポートの設定)	シリアルポートのアドレスとIRQ信号を設定します。 3F8H/IRQ4, 2F8H/IRQ3, 3E8H/IRQ4, 2E8H/IRQ10 Disabled : シリアルポートを使用しません。
Onboard Parallel Port (パラレルポートの設定)	パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled : パラレルポートを使用しません。 378H/IRQ7, 278H/IRQ5
Parallel Port Mode (パラレルポートの設定)	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 Normal : 標準の設定です。 EPP : EPP モードに設定します。 ECP : ECP モードに設定します ECP+EPP : EPP+ECP モードに設定します。
ECP DMA Select (パラレルポートのDMA設定)	パラレルポートのDMAチャンネルを設定します。動作モードにNormal、EPPを選択した場合は、表示されません。 1 : DMAチャンネル1を使用します。 3 : DMAチャンネル3を使用します。
Onboard AC97 Audio Controller (オーディオ機器の設定)	メインボード上のオーディオ機能を使用するかどうかを設定します。サウンドボード使用時は、[Disabled]に設定します。 Disabled : 使用しません。 Auto : 使用します。
Onboard MIDI I/O (MIDIの設定)	メインボードのMIDIで使用するアドレスを設定します。 Disabled : 使用しません。 330H-331H 300H-301H : 設定したアドレスを使用します。
Onboard MIDI IRQ (MIDI IRQ信号の設定)	MIDIで使用するアドレスを設定すると表示されます。 メインボードのMIDIで使用するIRQ信号を設定をします。 3 4 5 7 9 10 11 12 14 15
Onboard Game Port (ゲームポートの設定)	メインボードのゲームポートで使用するアドレスを設定します。 Disabled : 使用しません。 200H-207H 208H-20FH : 設定したアドレスを使用します。

PCI Configuration	メインボード上のデバイスに関する設定をします。
USB 1.1 Controllers	USB コントローラの設定をします。このままの設定で使用してください。 Disabled 3 Controllers
USB 2.0 Controller	USB コントローラの設定をします。このままの設定で使用してください。 Disabled Enabled
Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効/無効を決定します。 Disabled : リモートブート機能を無効にします。 Enabled:* : リモートブート機能を有効にします。

Powerメニュー画面

ACPI Suspend to RAM	スタンバイモードをSuspend to RAMで行うかを設定します。 Disabled : Suspend to RAMで行いません。 Enabled : Suspend to RAMで行います。
Power Up Control(起動方法の設定)	起動する方法や条件を設定します。
AC Power Loss Restart (再起動時の電源の設定)	電源スイッチを押さずに、AC電源供給時に起動するかどうかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピュータの同時起動を行うと、コンピュータの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Enabled : 電源切断時に、AC電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。 Disabled : AC電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Previous State: コンピュータの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断された後にAC電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。コンピュータを正常終了させた状態では、AC電源が供給されてもコンピュータは起動しません。
Power Up on PCI Card (LANからの起動設定)	電源切断時に、ネットワークからの信号により、起動するかどうかを設定します。この機能は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Enabled : 設定します。 Disabled : 設定しません。
Automatic Power Up (自動電源投入の起動設定)	設定した日付と時間に応じて、自動的に起動します。ただし、分電盤やOAタップなどにより、本機の電源供給をいったん切断して再度供給した場合は、正常に動作しない場合があります。 Disabled : 設定しません。 Everyday : 設定した時間に、毎日起動します。 By Date : 設定した日付と時間に、起動します。

Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、コンピュータ起動時の動作設定や起動するドライブの順番を設定することができます。

「Boot Sequence」では起動するドライブの順番を設定します。初期設定は、
[1.Removable Device][2.ATAPI CD-ROM][3.IDE Hard Drive][4.Other Boot Device]です。

「Other Boot Device」-「Realtek Boot Agent」は、次の項目を「Enabled」に設定して再起動すると表示されるようになります。

・「Advancedメニュー」-「PCI Configuration」-「Onboard LAN Boot ROM」

ドライブを選択して を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。

ドライブを選択して を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

Boot Sequence	1. Removable Device	この項目で設定したドライブから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled/Legacy Floppy/USB FDD
	2. ATAPI CD-ROM	ATAPI CD-ROM から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled/接続している5.25型ドライブの型番
	3. IDE Hard Drive	IDE HDDから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled/接続しているHDDの型番
	4. Other Boot Device	SCSI装置やネットワーク機能から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled /SCSI Boot Device/Realtek Boot Agent
Interrupt Mode (割り込みモードの設定)		初期値 [APIC]のまま使用します。
Full Screen Logo		コンピュータの起動時に、ロゴを表示するかどうかを設定します。 Disabled /Enabled

Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面は、BIOS Setupユーティリティの終了方法などを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit Discarding Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期値に戻します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Save Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を保存します。

BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Main メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Primary					
Type					
Translation Method					
Cylinders					
Head					
Sector					
Multi-Sector Transfers					
PIO Mode					
ULTRA DMA Mode					
Secondary					
Type					
Translation Method					
Cylinders					
Head					
Sector					
Multi-Sector Transfers					
PIO Mode					
ULTRA DMA Mode					
Keyboard Features	Boot Up NumLock Status	Off	On	Off	On

Advanced メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容					
I/O Device Configuration	Onboard Serial Port 1	3F8H/IRQ4	2F8H/IRQ3	3E8H/IRQ4	3F8H/IRQ4	2F8H/IRQ3	3E8H/IRQ4			
		2E8H/IRQ10	Disabled		2E8H/IRQ10	Disabled				
	Onboard Parallel Port	Disabled	378H/IRQ7	278H/IRQ5	Disabled	378H/IRQ7	278H/IRQ5			
	Parallel Port Mode	Normal	EPP	ECP	ECP+EPP	Normal	EPP	ECP	ECP+EPP	
	ECP DMA Select	1		3	1		3			
	Onboard AC97 Audio Controller	Disabled		Auto	Disabled		Auto			
	Onboard MIDI I/O	Disabled	330H-331H	300H-301H	Disabled	330H-331H	300H-301H			
	Onboard MIDI IRQ	3	4	5	7	9	10	11	12	14
Onboard Game Port	Disabled	200H-207H	208H-20FH	Disabled	200H-207H	208H-20FH				
PCI Configuration	Onboard LAN	Disabled		Enabled	Disabled		Enabled			
	Boot ROM	Disabled		Enabled	Disabled		Enabled			

Power メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容		
ACPI Suspend to RAM		Disabled		Enabled	Disabled		Enabled
Power Up Control	AC Power Loss Restart	Disabled	Enabled	Previous State	Disabled	Enabled	Previous State
	Power Up on PCI Card	Disabled		Enabled	Disabled		Enabled
	Automatic Power Up	Disabled	Everyday	By Date	Disabled	Everyday	By Date

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容		
Boot Sequence	() Removable Device	Disabled		USB Floppy	Disabled		USB Floppy
	() ATAPI CD-ROM	Disabled	()		Disabled	()	
	() IDE Hard Drive	Disabled	()		Disabled	()	
	() Other Boot Device	Disabled	SCSI Boot Device	Realtek Boot Agent	Disabled	SCSI Boot Device	Realtek Boot Agent
Full Screen Logo		Disabled		Enabled	Disabled		Enabled

ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする
手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

再インストールとは

HDDをフォーマットして、Windowsやデバイスドライバなどのソフトウェアを新しくインストールしなおす作業のことを、本書では、「再インストール」と記載します。

再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。


なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復できない場合
HDD領域の構成を変更したい場合

重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

弊社製以外のBIOSに、絶対にアップデートしないでください。弊社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

Norton AntiVirus2002で、90日経過後に更新権を購入してウィルス定義ファイルの購読サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新権が無効になります。この場合、再度更新権を購入(有償)していただく必要があります。あらかじめご了承ください。

 p.86「コンピュータウィルスの検索・駆除」

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

HDD上の重要なデータは、FDやCD-Rなどの別のメディアに、必ずバックアップしておいてください。再インストールするときは、HDDをフォーマットするため、Cドライブのデータはすべて消去されます。また、Cドライブ以外のドライブ(領域)は、Windowsの再インストール時の選択によってはフォーマットされませんが、念のため、バックアップすることをおすすめします。

ソフトウェアの再インストールを行う

本章では、再インストールの方法について記載しています。

必要なメディア

再インストールするには、次のメディアが必要です。

リカバリCD

Windowsが登録されているDisc1とDisc2の2枚組のCD-ROMです。

ドライバCD

各種デバイスドライバ、Adobe Acrobat Reader、Norton AntiVirus2002が登録されているCD-ROMです。

B's Recorder GOLD/B's CLiP CD-ROM

CD-Rなどのメディアへ書き込みを行うためのライティングソフトウェアが登録されているCD-ROMです。

Win DVD CD-ROM

DVD VIDEO再生ソフトウェアが登録されているCD-ROMです。

Symphomovie CD-ROM

ビデオ編集ソフトウェア(Symphomovie)が登録されているCD-ROMです。

Symphovision CD-ROM


TVチューナボードのデバイスドライバと、コンピュータ上でテレビを見たり、録画するためのソフトウェア(Symphovision)が登録されているCD-ROMです。

そのほか必要なメディア

オプション製品を使用するなど、お使いのシステム構成によって、必要なメディアは異なります。


インストールの順番


再インストールは、次の順番で行います。

Windowsのインストール ( p.138)

↓ HDD領域の変更は、Windowsのインストール中に行います。

デバイスドライバのインストール ( p.141)


Adobe Acrobat Readerのインストール ( p.143)


Norton AntiVirus2002のインストール ( p.88)


B's Recorder GOLDのインストール
( 『B's Recorder GOLDクイックガイド』)

↓ 『B's Recorder GOLDクイックガイド』(pdf)は「B's Recorder GOLD/B's CLiP CD-ROM」に登録されています。次の方法で見ることができます。

[スタート]-「マイコンピュータ」でCD-ROMアイコンを右クリックして「開く」-「BsGOLD5」-「DOC」-「Quick」

Win DVDのインストール
( 『Win DVDユーザーズマニュアル』)

Symphomovieのインストール
( 『Symphomovieユーザーズマニュアル』)

Symphovisionのインストール
( 『Symphovisionユーザーズマニュアル』)

そのほかの作業 ( p.144)

インストール作業における確認事項

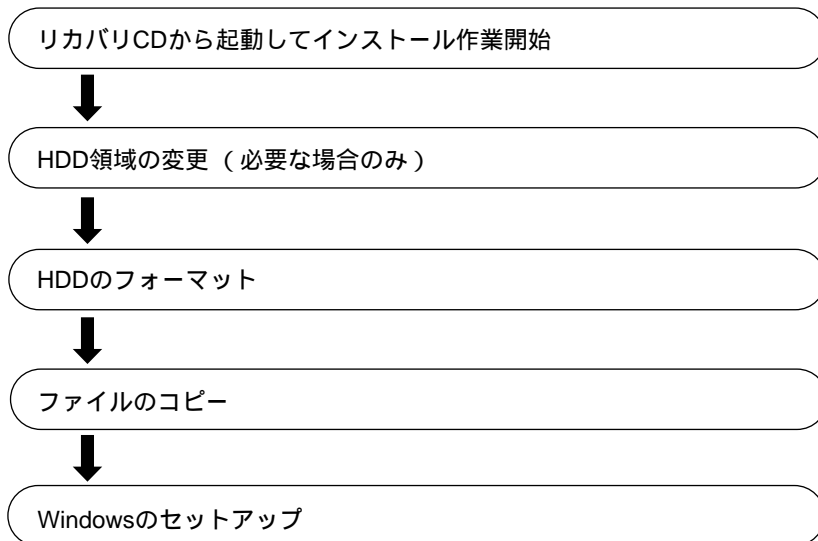
再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

システム構成	本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提としています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。
HDDのファイルシステム	購入時のHDDは、NTFSを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールは、必ずNTFSを使用してください。
ドライブ名	本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。 Aドライブ : FDD(オプションのUSB FDDを接続した場合) C, Dドライブ : HDD(HDDを2台装着している場合は、EドライブもHDDになります。) Eドライブ : DVD+RW/+Rドライブ(HDDを2台装着している場合は、DVD+RW/+RドライブはFドライブになります。) DVD+RW/+Rドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。
入力文字	インストール手順中の入力文字の表記は、すべて大文字で記載していますが、入力する際は、大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。
管理者権限でログイン	デバイスドライバのインストール作業は、コンピュータの管理者でログインして行ってください。
Windows CD-ROMを要求されたら	デバイスドライバ類のインストール時に「WindowsCD-ROM」を要求されることがあります。本書でなにも記載がない場合は、リカバリCD Disc1をセットしてください。
メーカー情報	Windowsのインストールを行うと、次の場所に表示されているメーカーロゴとサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「システムのプロパティ」
各種設定の確認	ネットワークやモデム、インターネットなどを使用している場合は、Windowsをインストールすると、再設定が必要になります。設定を書き移しておいてください。

Windowsのインストール

インストールの流れ

Windowsのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、次ページからの手順に従ってください。



HDD領域の変更






HDD領域を変更して使用したい場合は、「Windowsのインストール」作業中にHDD領域の変更を行います。本機のHDD領域は購入時に、Cドライブ20GB、残りをDドライブと設定されています。Cドライブの容量や、分割する領域数の変更を行う場合は、Dドライブの領域も削除する必要があります。また、Windowsをインストールする領域は、作業中にフォーマットを行いますが、Windowsをインストールしない残りの領域（未設定領域）はインストール終了後にWindowsの「ディスクの管理」でフォーマットなどの設定を行います。

Windows XPの インストール

Windows XPのインストールは、次の手順で行います。

- 1 コンピュータの電源をいれ、「リカバリCD Disk1」をDVD+RW/+Rドライブにセットします。
- 2 コンピュータを再起動します。
- 3 起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。手順4の画面が表示されるまで少し時間がかかります。一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。
- 4 次のように表示されたら、 を押します。
MB ディスク ××のパーティション
D:パーティション2[NTFS] **MB(**MB 空き)
に Windows XP をインストールします。...
- 5 「次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。...」と表示されます。
通常は「C:」を選択して、 を押します。
HDD領域を変更する場合は (削除)を押して、下記の手順①～⑥を行います。

< HDD領域を変更する場合 >
 - ① 「削除しようとしたパーティションは...」と表示されたら、 を押します。
 - ② 「 MB ディスク××から次のパーティションを削除します。...」と表示されたら を押します。
 - ③ 「次の一覧にはこのコンピュータ上の...」と表示されたら、 (パーティションの作成)を押します。
 - ④ 「 MB ディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ」に任意の数値を入力して、 をクリックします。

- 5 「次の一覧にはコンピュータ上の…」と表示されたら、「C : パーティション1(未フォーマット)」を選択して  をクリックします。
「未設定領域」はインストール終了後「管理ツール」で領域の作成を行ってください。
 p.144「領域の作成」
- 6 「別のオペレーティングシステムのあるパーティションに…」と表示されたら、 を押します。
- 7 「…にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して  を押します。
- 8 「警告:このドライブをフォーマットすると…」と表示されたら、 を押します。
- 9 「Windows XP ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するか、しないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindows XPのインストールが中止されます。
- 10 「Windows XP セットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従って設定を行います。
- ソフトウェアの個人用設定
ここでは「名前」を必ず入力してください。
コンピュータ名(Windows XP Home Edition)または
コンピュータ名とAdministratorのパスワード
(Windows XP Professional)
コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
日付と時刻の設定
コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
ワークグループまたはドメイン名(Windows XP Professional)
ネットワーク管理者の指示に従って必要事項を入力します。

- 1 1 再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
- 1 2 「モニタの設定」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
- 1 3 「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下のをクリックします。
- 1 4 「インターネットに接続する方法を指定してください。」と表示されたら、画面右下にある (省略) をクリックします。
- 1 5 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ、今回はユーザー登録しません。」にチェックを付けてをクリックします。
- 1 6 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力してをクリックします。
- 1 7 「設定が完了しました」と表示されたら、をクリックします。
- 1 8 Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、CD-ROMを取り出します。続けてドライバのインストールを行います。ドライバをインストール行わないと、Windows XPが正常に機能しません。必ず、次頁の「デバイスドライバのインストール」を行ってください。

デバイスドライバのインストール

本機のメインボード上に搭載しているデバイスのドライバを一括してインストールします。インストール手順は次のとおりです。

- 1 「ドライバCD」をDVD+RW/+Rドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、「マイコンピュータ」-「CDドライブ」を右クリックして「自動再生」を選択します。

- 2 表示された項目から「一括インストール」を選択して「開始」をクリックします。
- 3 「ご注意」画面が表示されます。内容をよくお読みになり「OK」をクリックします。
- 4 表示されたドライバを確認して「インストール開始」をクリックします。インストールするドライバが自動的に検出されます。
- 5 「確認」画面が表示されたら「OK」をクリックします。各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには数分かかります。
- 6 「インストールの完了」画面が表示されます。内容をよくお読みになり「OK」をクリックします。
- 7 「Windowsの再起動」画面が表示されたら「はい」をクリックします。
- 8 Windowsを再起動し、「マイコンピュータ」-「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 9 表示された項目から「Microsoft .NET Framework」を選択して、「開始」をクリックします。
- 10 「セットアップ」画面が表示されたら「今すぐインストール」をクリックします。
「マイコンピュータ」画面の下に隠れている場合があります。
- 11 「セットアップはコンピュータが再起動された後に再開します。」と表示されたら、「今すぐ再起動」をクリックします。
- 12 Window XP再起動後に「セットアップ完了」画面が表示されます。「完了」をクリックします。これで、デバイスドライバのインストールは終了です。

TVチューナボードドライバのインストール

TVチューナボードを使用するために、TVチューナボードドライバをインストールする必要があります。詳しくは、本機に添付の『Symphovisionユーザーズマニュアル』をご覧ください。


Adobe Acrobat Readerのインストール

Adobe Acrobat Readerのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「ドライバCD」をDVD+RW/+Rドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、「マイコンピュータ」-「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「Adobe Acrobat Readerのインストール」を選択して「開始」をクリックします。
- 3 「Acrobat Readerのセットアップ」画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 4 「インストール先の選択」画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 5 「情報」画面が表示されたら、「OK」をクリックします。これでAdobe Acrobat Readerのインストールは終了です。

Norton AntiVirus2002のインストール

Norton AntiVirus2002をインストールします。

 p.86「コンピュータウィルスの検索・駆除」

そのほかの作業

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域は、そのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

Windowsの「ディスクの管理」は、次の場所にあります。

[スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「管理ツール」-「コンピュータの管理*」

* 画面左側の「記憶域」の下にあります。

SBSIのインストール

Windows XPの使い方の詳細がデスクトップ上でいつでも見られるように、「ステップバイステップインタラクティブ(SBSI)」をインストールします。

インストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD Disc2」をDVD+RW/+Rドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
E:¥SBSI¥SETUP¥SETUP
- 4 「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 5 「製品ライセンス契約」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。
- 6 「Microsoftインタラクティブトレーニング」画面が表示されたら、「名前」と「会社名」を入力して[次へ]をクリックします。
- 7 「この登録情報は正しいですか?」と表示されたら、入力した「名前」と「会社名」を確認して[はい]をクリックします。
- 8 「次の登録情報があります」と表示されたら、内容を確認し[はい]をクリックします。[いいえ]をクリックすると、手順7に戻ります。
[はい]をクリックすると、インストールが始まります。
インストールには数分かかります。

- 9 「セットアップが完了しました。・・・」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 10 「Readme」ファイルが表示されます。内容を確認したら右上にある☒をクリックします。
- 11 Windowsを再起動します。Windowsが再起動したら、ステップバイステップインタラクティブのインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

オプション製品などを購入して使用している場合、オプション製品のドライバはインストールされません。

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、オプション類に添付されているメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション類に添付のマニュアルをご覧ください。



参考

インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

USB対応機器を使用する場合	: USB機器に添付のドライバ
プリンタを使用する場合	: プリンタに添付のドライバ

アプリケーション
キー 1、2に機能
を割り付ける

アプリケーションキー1、2には、それぞれ「Win DVD」と「Symphovision」の機能を割り付けます。機能の割り付けは、次の手順で行います。

- 1 タスクバーの「ホットキー」アイコンを右クリックし、キーボードユーティリティを表示します。



<ホットキーアイコン>

- 2 「セットアップ」から、「アプリケーション_1」をクリックします。
- 3 「ファイルを開く」画面が表示されたら、「ファイルの場所」-「デスクトップ」をクリックし、「InterVideo WinDVD 4」を選択して「開く」をクリックします。
- 4 タスクバーの「ホットキー」アイコンを右クリックし、キーボードユーティリティを表示します。
- 5 「セットアップ」から、「アプリケーション_2」をクリックします。
- 6 「ファイルを開く」画面が表示されたら、「ファイルの場所」-「ローカルディスク(C:)」-「Program Files」-「Epson Direct」-「Symphovision」-「TVControl」を選択して「開く」をクリックします。
上記は、Symphovisionが「C:\Program Files\Epson Direct」にインストールされている場合の手順です。Symphovisionのインストール先を変更している場合は、変更した先から「TVControl」を選択してください。

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。



参考

ホームページのサポート情報について

エプソンダイレクトホームページには、お客様からよく寄せられる質問や技術情報などを掲載しています。本章の記述とあわせてご覧ください。

エプソンダイレクトWebサイト

<http://www.epsondirect.co.jp/>

コンピュータ本体の不具合



制限

電源を切ってから入れ直す場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電氣的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。

現象

起動時に電源ランプが点灯しない。

確認と対処

電源コードが正しく接続されているか確認します。

 p.10「コンピュータの設置」

電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。

電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

起動時に警告メッセージが表示される、または起動しない。


確認と対処

現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行なった場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、次のようなメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to continue, DEL to enter SETUP


Delete を押して「 BIOS Setupユーティリティ 」を起動します。通常は、そのまま「 Exit & Save Changes 」を実行して「 BIOS Setupユーティリティ 」を終了します。

 p.119「 BIOS Setupユーティリティの操作 」


F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

起動時の自己診断テスト終了後(Windowsの起動中)に警告メッセージが表示されている場合には、Windowsが正常に動作していない可能性があります。警告メッセージの内容をメモして、テクニカルセンターまでご連絡ください。

起動時に警告メッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題点が解決できない場合には、テクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.168「 警告メッセージが表示されたら 」

BIOSの設定が正常でない可能性があります。「 BIOS Setupユーティリティ 」で設定値を初期値に戻してください。

 p.119「 BIOS Setupユーティリティの操作 」

「 BIOS Setupユーティリティ 」の値を初期値に戻しても問題が解決しない場合は、CMOS RAMを初期化してみてください。

 p.175「 CMOS RAMの初期化 」

ピープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象


起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

Enter Password:

確認と対処


「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。

 p.126「パスワードの設定」

パスワードを正しく入力しているか確認します。 の状態により数値が入力されない場合があります。

 p.36「キーロック表示ランプ」

パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。

 p.175「CMOS RAMの初期化」

現象

起動時に次のようなメッセージが表示されてWindowsなどのOSが起動しない。

- ・ DISK BOOT FAILURE,INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
- ・ Invalid system disk Replace the disk, and then press any key
- ・ Operating System not found




確認と対処

USBシステムが登録されていないFDがセットしてある場合は、FDを抜いてください。

現象


ハングアップしてしまい何も反応しない。

確認と対処

 +  +  を押してリセットします。

リセットしても反応がない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってください。

電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。


 p.31「リセット」

現象

BIOS Setupユーティリティの情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。

 p.172「リチウム電池の交換」

省電力機能に関する不具合


現象

正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない

確認と対処

使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

「ACPI Suspend to RAM」を「Enabled」にして、スタンバイを実行しているときや休止状態のときは、キーボードやマウスの操作では省電力モードから復帰しません。電源スイッチを押して、本機を復帰させてください。



 p.97「復帰方法」

省電力モードから復帰できない場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存データはすべて消失します。

省電力モード時にPCカードを抜き差しすると、正しく復帰できません。**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して、本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存データは、すべて消失します。

キーボードの不具合

現象 数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処 数値キーは  の状態により機能が変わります。
 p.36「キーロック表示ランプ」

現象 どのキーを押しても応答がない。


確認と対処 キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は電源を入れる前に行ってください。

 p.15「コンピュータの設置」

マウスを操作してみてください。マウスで操作できる場合もあります。

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合はリセットしてください。

 p.31「リセット」

現象 キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処 直接入力モードで日本語を入力することはできません。

Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。次のキーボードが選択されていることを[スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「キーボード」-「ハードウェア」タブをクリックして確認します。

101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード

マウスの不具合

現象

マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。

確認と対処


マウスが正しく接続されているか確認します。マウスの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.16「コンピュータの設置」

キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。

 p.31「リセット」

現象

OSやアプリケーションソフトでマウスポインタが表示されない。

確認と対処

マウスが正しく接続されているか確認します。

 p.16「コンピュータの設置」

MS-DOSアプリケーションでマウスを使用する場合は、専用のマウスドライバをインストールする必要があります。本機にはMS-DOS用のマウスドライバは添付されておりません。

現象

マウスポインタの動きが悪い。

確認と対処

マウスのクリーニングを行ってください。

 p.170「マウスのお手入れ」

表示装置の不具合

現象

起動時にディスプレイに何も表示されない。

確認と対処

ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認します。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの接続コードがコンピュータに正しく接続されているか確認します。

 p.13「コンピュータの設置」

ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

ピープ音が鳴った場合は、起動時の診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象


使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処

ディスプレイが省電力モードになっている可能性があります。キーボードを操作してください。

 p.92「省電力機能を使う」

テレビを接続して表示した場合、ほかのディスプレイとの同時出力はできません。出力先を、ディスプレイに設定してください。

 p.57「表示装置を使う」

ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの接続コードがコンピュータに正しく接続されているか確認してください。

 p.13「コンピュータの設置」

ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売会社などにご確認ください。

現象 画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示しなくなった。

確認と対処 ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。

使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで、起動し直してみてください。

現象 テレビを接続して出力させたとき、画像が悪い。

確認と対処 テレビ自体の解像度が、コンピュータ専用のディスプレイより低いため、コンピュータの解像度を設定しなおしても、画質は良くなりません。コンピュータ専用ディスプレイに出力してください。

セーフモードでの起動 Windows XPをセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、Windows XPを基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に **F8** を押し、そのまま離さずしばらく押し続けます。
- 3 「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**←** を押します。以降は画面の指示に従ってください。

USB FDD(オプション)の不具合

現象 FDに正常にアクセスできない。

確認と対処 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

A:¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
[再試行] [キャンセル]

ディスクの挿入
A:ドライブにディスクを挿入してください。
[キャンセル]

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、または、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性もあります。


ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
[はい] [いいえ]

使用しているFDが、本機で使用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。本機では、1.25MBフォーマットのFDは使用できません。

別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、FDに異常があることが考えられます。

FDDのUSBコネクタが、コンピュータに正しく接続されているか確認してください。

現象 FDに書き込みできない。


確認と対処 ライトプロテクトされていないか確認します。
 p.45「ライトプロテクト」

現象 FDDから異常な音がする。

確認と対処 テクニカルセンターにご連絡ください。

HDDの不具合

現象 それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。


確認と対処 HDDに問題が発生している可能性があります。IDE HDDの場合はBIOS Setupユーティリティを実行してHDDの設定を確認してください。
 p.124「Mainメニュー画面」

現象 特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処 ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してみてください。

上記の処置を行ってもこの現象が頻繁に発生する場合は、必要なファイルのバックアップを取ってから、HDDをフォーマットし直してください。HDDをフォーマットしても改善されない場合にはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象 HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処 起動するHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。
 p.130「Bootメニュー画面」

DVD+RW/+Rドライブの不具合

メディアのフォーマットに関する不具合や、書き込みに関する不具合については、『B's Recorder GOLD ユーザーズマニュアル』を参照してください。「B's CLiP」をお使いの場合は、「B's CLiPユーザーズマニュアル」もあわせてご覧ください。『B's Recorder GOLD ユーザーズマニュアル』、『B's CLiP ユーザーズマニュアル』は、次の方法で見ることができます。

[スタート]-「すべてのプログラム」-「B.H.A」-「B's Recorder GOLD5」
[スタート]-「すべてのプログラム」-「B.H.A」-「B's CLiP」

また、DVD VIDEO再生に関する不具合については、添付の『Win DVDユーザーズマニュアル』を参照してください。

現象

セットしたメディアにアクセスまたは書き込みができない。

確認と対処

CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。

CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがいないか確認してください。

コンピュータに添付されていたCD-ROM(データが登録されているCDなど)にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。

特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。

セットしたCDが書き込み済みのメディアの場合、DVD+RW/+Rドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

DVD+RW/+Rドライブで書き込み機能を使用する場合は、専用のライティングソフトウェアが必要です。購入時には、「B's Recorder GOLD」がインストールされています。

添付の「B's Recorder GOLD/B's CLiP CD-ROM」には、別のライティングソフト「B's CLiP」も登録されています。必要に応じてインストールを行ってください。

上記ソフトウェアのインストール方法については、「B's Recorder GOLD/B's CLiP CD-ROM」の『B's Recorder GOLD クイックガイド』(PDFファイル)、『B's CLiP クイックガイド』(PDFファイル)をご覧ください。

『B's Recorder GOLD クイックガイド』『B's CLiP クイックガイド』は、次の方法で見ることができます。

B's Recorder GOLD : [スタート]-「マイコンピュータ」- CD-ROMアイコンを右クリック -「開く」-「BsGOLD5」-「DOC」- quick(ファイル名)

B's CLiP : [スタート]-「マイコンピュータ」- CD-ROMアイコンを右クリック -「開く」-「BsCLiP」-「DOC」- Quick(ファイル名)

DVD VIDEOを再生する場合は、専用の再生ソフトウェアが必要です。コンボドライブおよびDVD+RW/+Rドライブモデルには「Win DVD」が購入時にインストールされています。

メディアのフォーマット形式が本機に対応していない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。

 p.48「DVD+RW/+Rドライブを使う」

 『B's Recorder GOLDユーザーズマニュアル』

本ドライブで、DVD-R、DVD-RWメディアへの書き込みはできません。使用しているメディアが、DVD+RWメディアまたはDVD+Rメディアかどうか確認してください。

現象

メディアをセットすると画面が開いてしまう。

確認と対処

セットしたCD-ROMなどのメディアに自動再生機能があり、自動的に画面を開きます。メディアに登録されている内容を見たい場合は、[キャンセル]や、×をクリックして、画面を閉じます。その後、[スタート]-「マイコンピュータ」のCD-ROMアイコンを右クリックして、[開く]を選択します。

現象


書き込み中に書き込みエラーが発生する。

確認と対処

Windowsが省電力モードに切り替わると、CD-Rメディア、CD-RWメディア、DVD+RWメディアやDVD+Rメディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力機能を無効にしてください。

 p.55「メディア書き込み時の注意」

本機対応のメディアを使用しているかどうか確認してください。

 p.56「適応フォーマット」

メディアの残量があるか確認してください。

ヘッドレンズの汚れによって書き込みができない場合があります。

本機との相性によって、セットしたメディアに書き込めない場合があります。

現象

セットしたメディアが取り出せない。

確認と対処

B's CLiPでフォーマットされたメディアは、イジェクトボタンを押しても取り出すことができません。メディアの取り出し方法については、『B's CLiP ユーザーズマニュアル』をご覧ください。『B's CLiP ユーザーズマニュアル』は、次の方法で見ることができます。

[スタート]-「すべてのプログラム」-「B.H.A」-「B's CLiP」

現象

音楽用CDの音が聞こえない。

確認と対処

ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか、あるいはスピーカのボリュームコントロールは小さくなっていないか確認します。

 p.62「サウンド機能を使う」

アンプ内蔵ステレオスピーカが本体背面のライン出力コネクタに接続されているか確認します。また、スピーカの電源が入っているか確認します。

現象

DVDの再生ができない。

確認と対処

解像度とリフレッシュレートが再生可能な設定か確認してください。

 p.51「DVD-ROMメディアの再生」

アプリケーションソフトの不具合

現象 アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。

確認と対処 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。

ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやホコリ、電源の出力不安定、もしくはそのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象 アプリケーションソフトが起動しない。

確認と対処 アプリケーションソフトの起動に必要なシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。


アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。

アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

現象 メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処 起動時のメモリチェックや、Windows上ではメモリ容量の表示が正しくされないことがあります。BIOS Setupユーティリティを起動し、「Mainメニュー画面」-「Installed Memory」で総メモリ容量を確認してください。

 p.119「BIOS Setupユーティリティの操作」

本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メインメモリ容量の表示は、ビデオメモリ容量を差し引いて表示されます。

DIMMを増設した場合は、DIMMのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

購入時から不具合がある場合は、テクニカルセンターまでご連絡ください。

PCカードの不具合

現象 PCカードを装着しても、使用できない。

確認と対処 PCカードスロットがPCカードの仕様に対応しているか確認してください。

PCカードスロットに正しく装着され、認識されているか確認してください。

 p.66「PCカードを使う」

PCカードを使用するために必要なドライバやアプリケーションソフトがインストールされているか確認してください。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。

外部機器を追加するためにPCカードを装着した場合、外部機器とPCカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

インストール時の不具合

現象

インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

DVD+RW/+Rドライブのドライブレターを確認してください。本書では、インストール手順中のDVD+RW/+Rドライブのドライブレターを「E:」と記載しています。DVD+RW/+Rドライブのドライブレターは、HDD領域の数、HDD装着台数によって変わります。DVD+RW/+Rドライブのドライブレターは[スタート]-「マイコンピュータ」で確認することができます。

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

拡張ボード、周辺機器の増設に関する不具合

現象

拡張ボード、周辺機器を増設したらコンピュータの動作がおかしくなった。

確認と対処

増設した機器が対応する拡張スロットおよびコネクタに正しく装着されているか確認してください。

増設した機器のジャンプスイッチの設定が正しいかどうかを確認してください。例えば、同じIRQ信号を2つ以上の拡張ボードで重複して設定しているとコンピュータは正しく動作しない場合があります。詳細は拡張ボード、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

IRQ信号やDMAの設定は次の場所で確認できます。

[スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「システム」-「ハードウェア」タブ-[デバイスマネージャ]

周辺機器を追加するために拡張ボードを装着した場合、周辺機器と拡張ボードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。

拡張ボードによっては、拡張スロットに装着するだけでなく、メインボードやコンピュータのコネクタとの接続が必要な場合があります。拡張ボードのマニュアルを確認してください。

拡張ボードを使用するためのユーティリティソフトウェアなどが正しく実行されているか確認してください。拡張ボードのマニュアルおよびソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

上記の処置を行っても改善が見られない場合は、拡張ボード、周辺機器の販売元にお問い合わせください。

FAXモデムの不具合

現象 「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。

確認と対処 「モデムのプロパティ」で「モデムの照会」を実行してみてください。モデムに問題がある場合はエラーメッセージが表示されます。

[スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「診断」タブで、「モデムの照会」をクリックします。

現象 インターネットへ接続できない

確認と対処 モジュラコードが、モデムコネクタに接続されているかを確認します。

「ダイヤルのプロパティ」で電話番号や、設定を再確認します。また、国番号と市外局番や、トーンとパルスの設定も確認します。

[スタート]-「接続」-「接続先の名前」-[プロパティ]-[ダイヤル情報]をクリックします。

「モデムのプロパティ」で「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外してみます。これで接続できることがあります。

[スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「モデム」タブ-「ダイヤルの管理」項目-「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。

ユーザー名や、パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。

- ・ 全角の文字を使用していないか。全角文字は使用できません。
- ・ 大文字と小文字をきちんと区別しているか。
- ・ 数字とアルファベットを間違えていないか。数字の0とアルファベットのOなど。
- ・ ユーザー名とメールアドレスを混同していないか。
- ・ パスワードとメールパスワードを混同していないか。

ネームサーバーのIPアドレスを入力した場合は設定が正しいか確認します。正しくない場合は修正します。

次の手順でネームサーバーのIPアドレスを確認します。

- ① [スタート]-「接続」-「接続先の名前」-[プロパティ]をクリックします。
- ② 「ネットワーク」タブ-「インターネットプロトコル(TCP/IP)」-[プロパティ]でDNSサーバーのアドレスを確認します。

原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。

同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合はプロバイダの電話番号を変更してみます。接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときは接続できる場合もあります。

次の理由で、接続できないことがあります。時間を置いて接続してみてください。

- ・ 極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。
- ・ 極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。
- ・ プロバイダのサーバーが停止している。

現象 V.90通信方式で通信できない。

確認と対処 回線状況によって、V.90通信方式で接続できない場合があります。V.90通信方式のほかにはx2方式があります。x2方式の通信は、V.34通信方式(33600bps)以下で接続します。また使用している電話回線が繋がる電話局の交換機からプロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で1度だけ行われる場合にのみ、V.90通信方式で接続することができます。

現象 V.90、V.34通信方式で通信中に、通信速度が下がる。

確認と対処 V.90、V.34通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げて接続する場合があります。

プリンタの不具合

現象

印刷できない。

確認と対処

プリンタの電源が入っているか、印刷するための準備が整っているかを確認してください。

プリンタの設定が正しいかどうか、プリンタに添付のマニュアルで確認してください。

Windowsではプリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法については、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、テクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処法
CMOS checksum error-Defaults loaded	CMOS RAM設定値のエラー検出のためのチェックサムと、実際の設定値のチェックサムが違っています。BIOS Setupユーティリティを実行してみてください。
CMOS battery failed	データ保持用の内蔵リチウム電池の残量が少なくなっており、交換が必要です。リチウム電池の交換については、修理センターまでご連絡ください。
Keyboard error or no keyboard present	キーボードを初期化できません。キーボードが正しく接続されているか確認してください。コンピュータの起動中はキーボードのキーは押さないでください。
Memory test fail	メモリのテスト中にエラーが発生しました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hardware Monitor found an error, Enter Power setup menu for details	電源電圧に異常が発生しました。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。それでもこのエラーが生じるときは、テクニカルセンターまでご連絡ください。
Primary(Secondary)master(Slave)drive fails	HDDやCD-ROMドライブにエラーが見つかった場合に表示されるエラーです。このエラーが表示されたら、テクニカルセンターに連絡してください。
Immediately back-up your data and replace your hard disk drive	HDDの設定をユーザー設定にしてあり、なおかつSMARTファンクションを有効にしている場合に、HDDに不具合が見つかる则表示されるエラーです。このHDDエラーが表示されたら、ただちにHDDのバックアップをとることをお勧めします。
ERROR -- Can't Write ESCD	このエラーが表示されたら、テクニカルセンターに連絡してください。

付 録

お手入れ方法や仕様などについて説明
しています。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

マウスのお手入れ

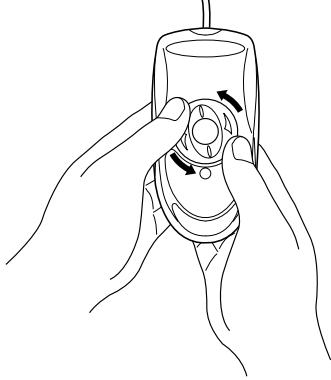
マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたらクリーニングを行ってください。クリーニングはコンピュータ本体の電源を切ったあと、マウスをコンピュータから取り外した状態で行います。



警告

小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。口に入れたりすると窒息する危険があります。マウスボールは、絶対に投げないでください。マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。

クリーニングの手順は、次のとおりです。

- 1 マウス底面のボールフレームを外します。
ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。

- 2 マウスボールを取り出します。
マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。
- 3 マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。
マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。
クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。
- 4 マウスボールをマウス底面の穴に入れます。
- 5 ボールフレームをもとどおりに取り付けます。
右回りに回してマウス本体に装着します。



マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、メインボード上のリチウム電池により保持されます。

本機のリチウム電池の寿命は数年です。リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した値が何もしないのになってしまいます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

CR2032(または同等品)



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。

電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。





内蔵リチウム電池の交換は、本製品の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

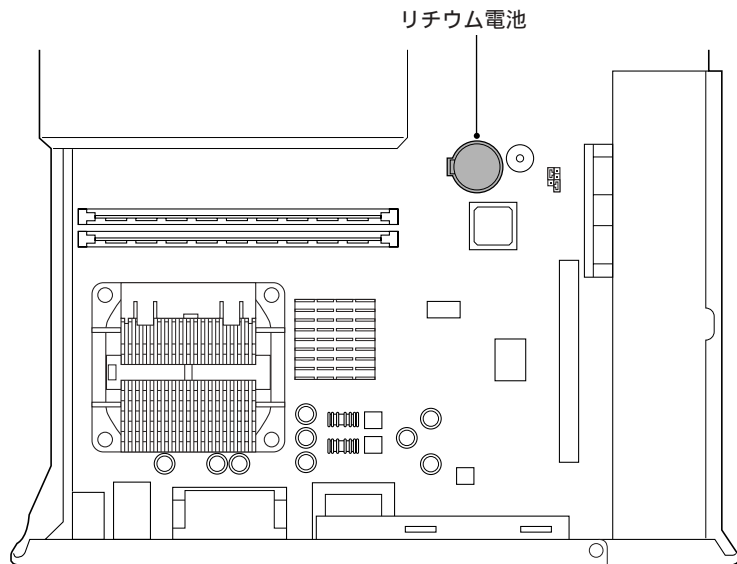
不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



本機の電源を切ってもコンセントに接続されていると微少な電気が流れています。作業を始める前に必ず電源コンセントから本機の電源プラグを外してください。

リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。交換作業は、本機を横置きに行います。

- 1 本機の電源を切り、本機背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。
- 2 本体カバーを取り外します。
 p.106「本体カバーの取り外し」
- 3 リンクバーを取り外します。
 p.113「拡張ボードの交換」
- 4 リチウム電池の位置を確認します。
リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。

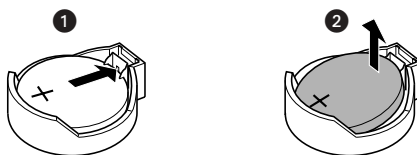


本体背面側

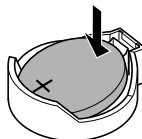
- 5 必要に応じて、作業の妨げになる拡張ボードを取り外します。

- 6 リチウム電池を抜きます。
- ① 電池ホルダの留め金を押します。(電池ホルダの形状は、機種により違う場合があります。)

- ② リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。

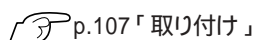


- 7 新しいリチウム電池を取り付けます。
- 刻印面(+ 側)が上側にくるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。正しく取り付けられると、「カチッ」と音が鳴ります。



- 8 リンクバーを取り付けます。
- 手順5で拡張ボードを取り外した場合は、もとどおりに取り付け直してから、リンクバーを取り付けます。

- 9 本体カバーを取り付けます。



p.107「取り付け」

- 10 コンピュータを使用できるように、本機背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

- 11 コンピュータの電源を入れます。[Delete] を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。



p.119「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 12 [F5] を押して「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」を実行します。

- 13 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。

- 14 「Exit」メニュー画面 - 「Exit & Save Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。しかし「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れたり、BIOSの設定を誤ったりして、本機が起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になります。



警告

電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや、感電・火災の原因となります。



注意

CMOS RAMの初期化は、本製品の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。






制限

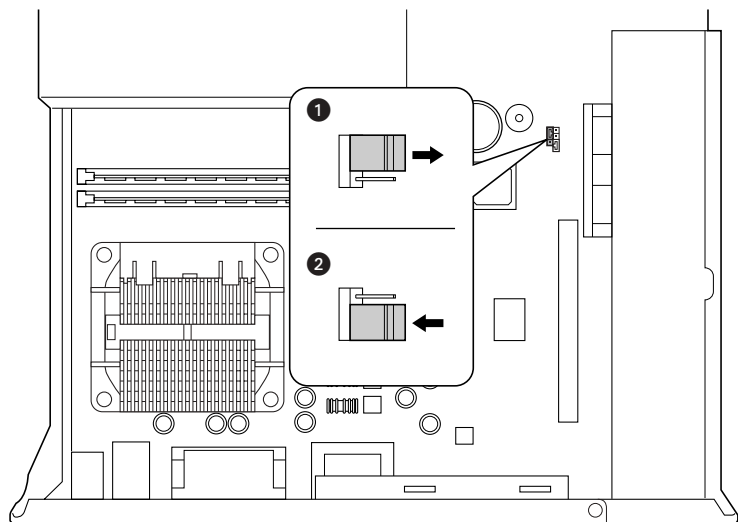
CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報がクリアされます。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.131「BIOSの設定値」




本機の電源を切ってもコンセントに接続されていると微少な電気が流れています。作業を始める前に必ず電源コンセントから本機の電源プラグを外してください。

CMOS RAMの初期化の手順は、次のとおりです。作業は、本機を横置きにして行います。

- 1 本機の電源を切り、本機背面に接続しているケーブル類をすべて外します。作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。
- 2 本体カバーを外します。
 p.106「本体カバーの取り外し」
- 3 リンクバーを取り外します。
 p.113「拡張ボードの交換」
- 4 リチウム電池を取り外します。
 p.173「リチウム電池の交換」
- 5 メインボード上のジャンプスイッチCLEAR_CMOSを次のように変更します。ジャンパクリップは、ピンセットなどを使って抜き差ししてください。その際、メインボードに傷を付けないように注意してください。
 - ① 本体背面側から見て左側奥の2本のピンにジャンパクリップが差し込まれています。このジャンパクリップを抜き取ります。
 - ② ジャンパクリップを本体背面側から見て左側手前の2本のピンに差し込みます。



本体背面側

- 6 このまま5秒間以上、放置します。
- 7 ジャンプスイッチCLEAR_CMOSの設定をもとに戻します。
ジャンパクリップを本体背面側から見て左側奥の2本のピンに差し込み直します。
- 8 リチウム電池を取り付けます。
 p.174「リチウム電池の交換 手順7」
- 9 リンクバーを取り付けます。
- 10 本体カバーを取り付けます。
 p.107「取り付け」
- 11 電源コードを接続します。
- 12 コンピュータの電源を入れます。「CMOS checksum error-Defaults loaded」とメッセージが表示されます。**Delete** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.119「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 13 **F5** を押して「Setup Defaults(初期値に戻す)」を実行します。
- 14 設定値を必要に応じて変更します。
- 15 「Exit」メニュー画面 - 「Exit & Save Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

ATコマンドの使用

ATコマンドについて

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本モデムにはモデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。

本機で使えるATコマンドの一覧(ATコマンドリファレンス)は添付の「ドライバCD」、「MODEM」フォルダに登録されています。(英文)

ATコマンドの使用

通信ソフトウェアでモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

「追加設定」は次の場所にあります。

[スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「詳細設定」タブ-「追加設定」

現象	ATコマンド
ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。	「ATM0」
「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「ATX3」
モデムの設定を工場出荷時の状態にする。	「AT&F」
ダイヤル回線(パルスダイヤル)でダイヤルする。	「ATP」
プッシュ回線(トーンダイヤル)でダイヤルする。	「ATT」
「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「AT+MS=V34」(V.34) または 「AT+MS=V90」(V.90)
接続が不安定(10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう)	使用したい通信方式に応じて設定。
パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	

複数のコマンドを入力したいときは、2番目以降のコマンドはATを付けずに連続して入力します。たとえば、「ATM0」と「ATX3」を入力するときは、「ATM0X3」と入力します。

機能仕様一覧

機種名		EDi Cube MXシリーズ
CPU メモリ		インテルPentium4プロセッサまたはインテルCeleronプロセッサ
	ROM	BIOS 他 256KB FLASH ROM(AWARD BIOS)
	メインメモリ	標準で256MBのPC2100DIMMを装着済み。最大1GBまで増設が可能 (DIMMソケット×2)
ビデオ	コントローラ	インテル845GV Integrated
	ビデオメモリ	メインメモリのうち最大64MBを使用
サウンド	コントローラ	AC97 Codec
キーボード		日本語対応113キーボード(スタンバイキー、ホットキー付き)
マウス		ホイール付きPS/2マウス
記憶装置	USB FDD(オプション)	1.44MB/720KB 2モード対応
	内蔵HDD	IDE HDDを1基内蔵 Ultra ATA/100対応
	5.25型ドライブ装置	DVD+RW/+Rドライブを1基内蔵
インタ フェース	パラレル	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート)
	シリアル	1(RS-232C準拠 D-SUB 9ピン)
	VGA	1(アナログRGB ミニD-SUB 15ピン)
	DVI-D	1(デジタルモニタ DVI-D 24ピン)
	キーボード	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)
	マウス	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)
	サウンド	前面側:ヘッドフォン出力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1 背面側:ライン出力コネクタ×1、ライン入力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1、光デジタルオーディオ出力コネクタ(S/P DIF)×1、ゲームポート/ MIDIコネクタ×1
	USB	4(前面側×2、背面側×2)
	IEEE1394	1(前面側:4ピン)
	TV出力	2(コンポジット出力端子×1、S-ビデオ出力端子×1)
	PCカード	TypeII ×1 CardBus対応(ZVポート未対応)
	ネットワーク	1(RJ-45 10 Base-T/100 Base-TX対応(WOL対応))
	FAXモデム	1(V.90対応)
ドライブ ベイ	5.25型ドライブベイ	1(DVD+RW/+Rドライブで1基使用済み)
	HDDドライブベイ	1(使用済み)
外部拡張スロット		PCIバス用拡張スロット×2 FAXモデムボードとTVチューナボードで2本使用済み
カレンダー時計		内蔵 内蔵電池によりバックアップ)
電源容量		165WDC
入力電圧		AC 100 V ± 10% 50/60 Hz
温湿度条件		温度:10 ~ 35
		湿度:20 ~ 80%(ただし、結露しないこと)
外形寸法		本体:約88(幅)×392(奥行)×304(高さ)mm(突起部、縦置きスタンド除く)
重量		本体:約7.2Kg(本体のみ)
消費電力	定格消費電力	254WAC
	待機時消費電力	4WAC

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略です。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

AGP

CPUとビデオチップを接続するための拡張ポートのことです。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

BIOS(バイオス)

Basic Input Output Systemの略で、コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたものです。コンピュータ内部にROMで提供されています。また「BIOS Setupユーティリティ」で設定する内容を含める場合もあります。

使用例 BIOSの設定を行ってください。
=「CMOS Setupユーティリティ」を実行して設定を変更してください。

類義語 BIOS RAM

BIOS Setupユーティリティ

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラムのことです。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

Boot(ブート)

コンピュータの電源を入れてコンピュータを使用できる状態にすること。起動するとも言います。

CPU

Central Processing Unitの略で、コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

DDR SDRAM

「DDR」とは、「Double Data Rate」の略で、従来のSDRAMよりもデータ転送が2倍早くなります。

DIMM

Dual Inline Memory Moduleの略です。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

DMA転送

Direct Memory Accessの略です。CPUを介さずに、周辺装置とメモリ間で直接データ転送を行うことです。

使用例 DMA転送により高速なデータの出入力が可能です。

DMAチャンネル

DMAでデータを転送する場合の通り道のこと。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャンネルを使用するように設定する必要があります。

使用例 サウンドボードで使用するDMAチャンネルを設定する。

DRAM(ディーラム)

メモリの種類でDynamic Random Access Memoryの略です。コンピュータで最も一般的に使用されるメモリです。

メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

FAT32ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステムです。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます(FAT16では2GBまで)。

HDD領域

HDDの容量を用途に合わせて確保したスペースのことで、パーティションとも呼びます。HDD1台にHDD領域は複数作成することができます、それぞれドライブとして利用できます。

I/Oポート(Input/Outputポート)

CPUとデバイスの間でデータをやりとりするポートです。

IDE

Integrated Device Electronicsの略で、コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。HDDだけでなく、CD-ROMドライブなどもIDEで接続するのが一般的です。

使用例 IDEインタフェースのHDD(IDE HDD)

IEEE1394

コンピュータと周辺機器をシリアル通信で接続するための規格のことです。USBインタフェースより、データ転送速度が速く、大容量のデータ転送も可能です。

IRQ

Interrupt Requestの略で周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号のことです。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

使用例 サウンドボードではIRQ7を使用します。

ISDN

NTTが提供する高速デジタル回線のことで、普通の電話回線よりもデータを高速で送信できるので、コンピュータ間のデータ送受信などに多く使用されています。また、ISDNを導入することにより、一本で二回線分を使用することができます。

MIDI

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

NTFS

NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。障害が発生したファイルの構造を復旧したり、ユーザーやグループごとにアクセス権を設定することができます。

OS

Operating Systemの略で、コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

PCIバス

拡張バス的一种で、一般的に採用されている拡張バスのことです。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応など多くのメリットがあります。

高速性を要求される拡張ボードに使用されます。

RAM(Random Access Memory)

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

ROM(Read Only Memory)

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

RS-232C

シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

SDRAM

外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

S/P DIF

Sony Philips Digital Interfaceの略です。デジタル信号に変換された音声データをやり取りするためのインターフェースのことです。

TA(ターミナルアダプタ)

コンピュータ、モデム、電話機やFAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器を、ISDN回線に接続するためのアダプタのことです。

USB

Universal Serial Busの略で、比較的低速な装置をシリアル通信で接続するための規格のことです。キーボードやマウス、プリンタなどUSB対応品が増えています。

Ultra ATA/100

IDEインタフェース上において100MB/sでデータを転送できるデータ入出力方法のことです。

使用例 Ultra ATA/100対応ケーブル

URL(ユーアールエル)

Uniform Resource Locatorの略です。インターネット上の情報資源(文書や画像など)の場所を示す記述方式で、インターネットのアドレスのことを言います。

VGA

640×480ドット16色を表示するビデオ表示機能で、DOS/V機の基本的な表示機能です。Windowsなどで高解像度表示が可能なコンピュータでも起動時には必ずこのモードで表示されます。

アカウント

ネットワーク上で利用者を識別するための名前(記号や番号)のことです。

アクセス

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

使用例 HDDにアクセスする。=HDDのデータを読み書きします。

アクセスポイント

インターネットに接続するために、プロバイダが用意している電話番号のことです。

アクセスランプ

HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。

使用例 HDDアクセスランプ

アップロード

手元のコンピュータにあるデータを、通信回線を利用して、遠隔地のコンピュータに転送することです。

アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

使用例 メモリアドレス、I/Oポートアドレス

アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算など目的のはっきりしたソフトウェアのことです。

インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

使用例 サウンドドライバをインストールします。

インタフェース

コンピュータと周辺装置の間でデータを入力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

使用例 IDEインタフェース、インタフェースコネクタ、インタフェースケーブル

オフライン

コンピュータがネットワークとつながっていない状態のことです。オンラインの反対語として用いられています。

オンライン

他のコンピュータとつながっている状態や、電話回線でインターネットに接続している状態などのことです。オンライン・ショッピングなどの表現で、幅広く用いられています。

解像度

画面表示の細かさのことです。

使用例 1024×768ドットの解像度で表示します。

外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

類義語 キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

拡張スロット

拡張ボードを装着するためのスロットです。拡張ボードには、AGP用拡張ボードISAバス用拡張ボード、PCIバス用拡張ボードがあります。

カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

使用例 マウスカーソル

起動する

コンピュータの電源を入れて、コンピュータを使用できる状態にすること。ソフトウェアを実行して使用できるようにすることも起動といいます。

類義語 立ち上げる。

キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

使用例 メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

コマンド

コンピュータに与える命令です。

命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

使用例 次のコマンドを入力してください。

サーバー

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバーと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

システム

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

使用例 システムを起動する。=コンピュータの電源スイッチを入れて、OSを立ち上げてコンピュータを使用できる状態にすることです。

ジャンプスイッチ

コンピュータの機能を制御する基板上の小さなスイッチのことです。ジャンプスイッチの設定はジャンプクリップと呼ばれる部品を差し替えて変更します。

ダイヤルアップ接続

モデムを用い、電話回線を通じて離れた場所にある別のコンピュータに接続することです。主に、インターネットを利用するためにプロバイダに接続することを言います。

ダウンロード

遠隔地のコンピュータのデータなどを、通信回線を利用して、手元のコンピュータに転送することです。

ディザリング

複数の画素を組み合わせて、1つの画素とみなすことにより、人間に中間色のように見せかける方法のことです。

ディスプレイ

表示装置のことです。

類義語 CRTディスプレイ、モニタ

ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

使用例 1024×768ドットの解像度=画面上に1024×768個の点を表示することができます。

ドライブレータ

FDD、HDDやCD-ROMドライブに割り当てるアルファベットの1文字のことです。基本的にHDDが1基搭載されている場合は、「A:」がFDD、「C:」がHDD、「D:」がCD-ROMドライブに割り当てられます。

内部キャッシュ

CPUから周辺チップへアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリのことです。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で高速処理を行えるようにします。

バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

使用例 PCIバス、AGPバス

パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

使用例 パラメータを設定します。

ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のことです。CPUの発熱量は大きいいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)ものがあります。

ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

使用例 ファイルをコピーする。データファイルを作成する。

物理ドライブ

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

ブラウザ

インターネットに接続したときに、ホームページを見るためのソフトウェアで、米ネットエスケープ・コミュニケーションズ社の「NetScape」や、米マイクロソフト社の「Internet Explorer」などがあります。これらのソフトウェアでホームページをみることを「ブラウジング」といいます。

プラグアンドプレイ

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことです。PnP、Plug and Playなどとも記載されません。

拡張ボードや周辺機器などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能です。

この機能により、従来拡張ボード上で設定していたI/Oポート、IRQ、DMAの設定などが不要になります。

プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

類義語 ソフトウェア、アプリケーションソフト

プロトコル

ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

ボリュームラベル

HDDや、FDに付けた名称のこと。

メッセージ

コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことです。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

【使用例】 メインメモリは128MBです。

メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

リソース

拡張ボードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語です。

【類義語】 システム資源

リフレッシュレート

ディスプレイの表示において、1秒間に何回画面を更新するか値です。通常、リフレッシュレート60Hzといえば、1秒間に60回画面を更新することを表します。画面の更新周期が遅いと、画面がちらつくように見えますが、リフレッシュレートの周期をあげると、画面のちらつきを感じなくさせることができます。

ログオン

コンピュータシステムにアクセス可能な状態になることです。ログオン時には、ユーザーアカウントとパスワードの入力が求められます。「ログオン」とは逆に、コンピュータシステムの利用を終えて、接続を切り離すことを「ログオフ」と言います。

【類義語】 ログイン/ログアウト

論理ドライブ

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

索引

英数字

2HD(FDD) 40
2DD(FDD) 40

A

Adobe Acrobat Reader 5
 インストール 143
ATコマンド 178

B

BIOSセットアップユーティリティ 119
 設定項目 124
 パスワードの設定 126
B's Recorder GOLD/ B's CLIP 6、29、54

C

CapsLock 36
CMOS RAMの初期化 175
COAラベル 3

D

DIMM (メモリ) 108
 不具合 162
DVD-ROMドライブ機能 51
DVD+RW/+Rドライブ 48
 不具合 158
DVI-Dコネクタ 8、13

F

FAXモデム 70
 ATコマンド 178
 インターネットに接続する 72
 電話回線への接続 17

 不具合 165
 ボード 9
FD (フロッピーディスク) 40
FDD (フロッピーディスクドライブ) 40
 不具合 156

H

HDD (ハードディスクドライブ) 46
 アクセスランプ 7
 不具合 157
 領域の変更 138

I

IEEE1394コネクタ 7、100
Internet Explorer 80、83

L

LAN 8、98
LINEモジュラジャック 8

M

MS-IME 35

N

NTFS 28、47
NumLock 36
Norton AntiVirus2002 26、86
 インストール 87
 使用時の注意 90
 セットアップ 89
 使い方 91

O

Outlook Express 80、82、84

P

Passwordの設定	126
PBX	70
Phoneモジュラジャック	8
PCカード	66
イジェクトボタン	7、66
スロット	7、66
不具合	162

S

Scroll Lock	36
Supervisor Password	126
Symphomovie	101
インストール	136
Symphovision	101
インストール	136
S映像入力端子	9

T

TV-Out機能	57
TVチューナボード	9
接続	20
ドライバのインストール	143

U

USBコネクタ	7、8、99
USB FDD	40
不具合	156

V

VGAコネクタ	8、13
---------------	------

W

Wakeup On LAN	98
---------------------	----

Windows

インストール(リカバリ).....	135、136、138
セットアップ	21
Windowsキー	36
Win DVD	6、51

50音順

あ

アイコン	(10)
アウトLOOKエクスプレス	80、82、84
アクセスランプ	7
アドレス帳	85
アプリケーションキー	36、146
アプリケーションソフトの不具合	161

い

インターネットに接続	72
インターネットエクスプローラ	80、83
イジェクトボタン	7

う

ウィルス	86
------------	----

お

お気に入り(ホームページ)	83
お手入れ	170
お問い合わせ情報	3

か

解像度の変更	60
拡張ボード	112
不具合	164
拡張スロット	8、112
外部オーディオ機器	63

き

キーボード	34
コネクタ	8
接続	15
不具合	152
キーロック表示ランプ	36
起動ドライブ	130
機能キー	34
機能仕様一覧	179
休止状態	93、95

く

クリック	39
------	----

け

ゲームポート/MIDIコネクタ	8、64
警告メッセージ	168

こ

コンピュータ	
本体の不具合	148
コンピュータウイルス	86
コンボジット映像入力端子	9

さ

サウンド機能	62
--------	----

し

システムの拡張	103
シリアルコネクタ	8、100
仕様	179
省電力機能	92
不具合	151

す

スーパーバイザーパスワード	126
数値キー	34
スクロール	39
スタンバイ	94
ステップバイステップインタラクティブ	29
インストール	144
スピーカ	9、27、62
不具合	160
スピーカアイコン	62

せ

セーフモード	155
セットアップ	21、24、26、89
接続（インターネット）	72

た

ダイヤルアップ接続	75、76
タスクバー	(10)
タブ	(10)
ダブルクリック	39

て

ディスプレイ	
機能	57
接続	13
不具合	154
適応フォーマット	56
デスクトップ	(10)
テレビ	101
機能	57
切り替え	59
接続	57
テレビアンテナ入力端子	9

電源

コードの接続	20
コネクタ	8
スイッチ	7
ランプ	7
電源の入れ方	21、23、27
電源の切り方	30
添付ソフトウェア	5
電話回線への接続	17

と

ドラッグアンドドロップ	39
-------------	----

に

日本語入力システム	35
入力モード	35

ね

ネットワーク	73、98
コネクタ	8
接続	16

は

ハードディスクドライブ (HDD)	46
不具合	157
領域の変更	138

パスワード

BIOS	126
Windows	24
初期化 (CMOS RAM)	175

バックアップ

FD	45
HDD	46

パラレルコネクタ	8、100
----------	-------

ハングアップ	31
--------	----

ひ

光デジタルオーディオ出力コネクタ	8、64
ビデオ音声入力端子	9
ビデオ編集	101
表示色の変更	30

ふ

フォーマット (FD)	44
復帰方法 (省電力)	97
プリンタの不具合	167
フロッピーディスクドライブ (FDD)	40
不具合	156
フロッピーディスク (FD)	40
プロバイダ	72

へ

ヘッドフォン出力コネクタ	7、62、63
--------------	---------

ほ

ボタン	(10)
ホットキー	34、37、38
ボリューム	27、62
本体カバー	106

ま

マイク入力コネクタ	7、63、64
マウス	39
お手入れ	170
コネクタ	8
接続	16
不具合	153

め

メールの送受信	84
メモリ (DIMM)	4、108
不具合	162

も

モデム	70
ATコマンド	178
インターネットに接続する	72
電話回線への接続	17
不具合	165
ボード	8

ゆ

ユーザーパスワード	126
-----------------	-----

ら

ライティングソフト	54
ライトプロテクト (FD)	45
ライン出力コネクタ	8、64
ライン入力コネクタ	8、64

り

リカバリCD	5、135
リカバリの実行	138
リセット	31
リチウム電池の交換	172
リフレッシュレート	52
領域の作成	144
リモートブート	98

Memo

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼働システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用は意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

Macrovision著作権保護技術について

本製品が採用しているMacrovision著作権保護技術は、Macrovision Corporationおよび他が所有する知的財産権や米国特許によって保護されています。

この技術の使用にはMacrovision Corporationの認が必要。また、Macrovision Corporationの許可なしに、家庭内や限られた範囲での視聴目的以外に使用することはできません。リバースエンジニアリングや、分解は禁止されています。

* Macrovision著作権保護技術とは、DVDなどの映像コピー防止に関する技術です。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。


商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windowsは 米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Pentium、Celeron はアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。PS/2 は International Business Machines の登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。Adobe、Acrobat、およびAcrobatロゴは、Adobe System Incorporatedの商標（地域によっては登録商標）です。

Just Linkはリコー株式会社の商標です。

i.LINKは、IEEE1394-1995およびその拡張仕様を示す呼称です。i.LINKとi.LINKのロゴ「」は、ソニー株式会社の商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

EPSON DIRECT CORPORATION



大豆油インキを使用しています。



このユーザーズマニュアルは古紙配合率100%再生紙を使用しています。

